

青森県立美術館

年報

平成29年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 企画展
- 026 コレクション展
- 034 重点事業

学芸

- 038 美術資料収集
- 040 美術資料貸出状況
- 042 作品保存修復

教育普及

- 044 普及プログラム
- 049 スクールプログラム
- 051 サポートスタッフ

パフォーミングアーツ

- 054 演劇
- 060 ダンス
- 063 音楽
- 066 映画

サービス等

- 072 貸館
- 074 図書室
- 075 キッズルーム
- 076 博物館実習
- 077 サポートシップ倶楽部

資料

- 080 広報
- 081 広聴
- 082 入館者数
- 083 運営予算・決算
- 084 組織
- 085 関係規程等
- 088 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年2月	総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
2005年9月20日	美術館竣工
2005年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年3月17日	第1回「運営諮問会議」
2006年4月1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年6月13日	開館プレス発表開催
2006年7月13日	開館（館長 三村申吾）
2007年7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第11号）
2007年9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置
2008年7月19日	あおもり犬屋外連絡通路開通
2008年7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年1月1日	新館長 鷹山ひばり 就任
2010年5月7日	入館者150万人達成
2010年7月8日	あおもり犬えさ皿完成
2011年7月11日	入館者200万人達成
2011年7月13日	開館5周年
2012年11月14日	入館者250万人達成
2013年11月14日	入館者300万人達成
2015年4月1日	新館長 杉本 康雄 就任
2016年3月	入館者350万人達成
2016年3月19日	「青森県立美術館アドバイザー・ボード」設置
2016年7月13日	開館10周年
2016年12月23日	八角堂リニューアル 《miss forest / 森の子》完成
2018年5月25日	入館者400万人達成

展覧会

企画展

ラブラブショー 2

遥かなるルネサンス展

「夢に挑む 洋画をめぐる画家たちの冒険

～明治・大正・昭和 日本と青森の近代洋画史～」展

コレクション展

コレクション展Ⅰ

コレクション展Ⅱ

コレクション展Ⅲ

コレクション展Ⅳ

重点事業

アグロス・アートプロジェクト 2017 明日の収穫＜種まき編＞

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ×縦×横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事を主として記載している。

ラブラブショー 2

開催概要

2017年4月28日(金) - 2017年7月2日(日)

開催日数: 62日

開館時間: 5月31日まで 9:30 - 17:00 (最終入場 16:30)

6月1日から 9:00 - 18:00 (最終入場 17:30)

休館日: 5/8(月)、5/22(月)、6/12(月)、6/26(月)

会場: 青森県立美術館 企画展示室

協力: @カマタ、Rapha Racing 株式会社、青い森鉄道株式会社、
株式会社 J R 東日本青森商業開発

後援: NHK 青森放送局、青森ケーブルテレビ、エフエム青森

総入場者数

10,962人 (目標値 25,000人 達成率 43.8%)

有料入場者数

8,401人 (目標値 18,000人 達成率 46.7%)

関連事業

①東京飛地展示: カマタ_ソーコ

本展の開催に先駆けて、東京飛地展示を行い、本展の情報発信と合わせて青森県立美術館のPRを図った。

期間: 3月30日(木) - 4月30日(日)

開館時間: 14:00 - 20:00 休館日 毎週月曜日~水曜日

場所: カマタ_ソーコ (東京都大田区荻中3丁目22-7)

観覧料: 無料

観覧者数: 1,022人

キュレーション: 澤 隆志 (キュレーター)

協力: @カマタ

※毎週木曜日をイベントデーとして以下のイベントを実施した。

3月30日(木) 19:00 - 20:00 「オープニングトーク」

出演: 青野文昭、水尻自子、ミロコマチコ

4月6日(木) 19:00 - 20:00 「@カマタって何だ!?!」

出演: @カマタクリエイター

4月13日(木) 19:30 - 20:00

「柴田聡子ラブラブライブ: 東京⇄青森」

4月20日(木) 19:30 - 20:00 「マンガ@ソーコ」

出演: 宮崎夏次系

②「柴田聡子ラブラブライブ: 青森⇄東京: 青森編」

出品作家のひとりであり、展覧会テーマ曲を手がけたミュージシャン・柴田聡子氏によるライブ&トークを行った。

日時: 4月29日(土・祝) 14:00 - 15:30

場所: 青森県立美術館 シアター

出演: 柴田 聡子 (ミュージシャン)

入場料: 無料 ※ただし、企画展チケットが必要

参加者: 80人

③榎忠「祝砲」パフォーマンス

出品作品のひとりである榎忠氏による大砲をモチーフにした作品《LIBERTY CH》を使った「祝砲」パフォーマンスを行った。

日時: 4月29日(土・祝) 13:00

場所: 青森県立美術館 正面エントランス

参加料: 無料

参加者: 70人

④「ラブラブトーク: 課長♂×副課長♂」

当館学芸員2名による“ラブラブ”なギャラリートークを行った。

日時: 5月5日(金・祝) 14:00 - 15:00

6月3日(土) 14:00 - 15:00

7月2日(日) 14:00 - 15:00

場所: 青森県立美術館 企画展示室

参加料: 無料 ※ただし、企画展チケットが必要

案内者: 美術企画課 課長 池田 亨、副課長 工藤 健志

参加者: 5月5日 40人、6月3日 30人、7月2日 32人

⑤ワークショップ「みんなでアモリーナちゃんを完成させよう」

本展のイメージキャラクター「アモリーナちゃん」の作者、竹本真紀氏(美術家、八戸市出身)と一緒に、ハート型のカットティングシートを貼り合わせてアモリーナちゃんの大きなモザイク画をみんなで作るワークショップを行った。

出来上がった作品は、美術館エントランス外壁に大型バナー(布製の幕)として会期中設置した。

日時: 4月22日(土) ① 10:00 - 12:00 ② 13:00 - 15:00

4月23日(日) ③ 10:00 - 12:00 ④ 13:00 - 15:00

場所: 青森県立美術館 ワークショップB

参加料: 無料

参加者: 25人

⑥「岡本光博トークショー」

2015年の夏(化け物展)に墜落したUFO作品を展示して話題となった仕掛け人で、本展の出品作家のひとりである岡本光弘氏によるトークショーを行った。

日時: 6月24日(土) 14:00 - 15:00

場所: 青森県立美術館 企画展示室

出演者：岡本 光弘（現代美術家）
参加料：無料 ※ただし、企画展チケットが必要
参加者：21 人

展覧会カタログ

『ラブラブショー 2』

B5 判 並製 88 頁（オールカラー）、展覧会テーマ曲 CD 付
（柴田聡子：ラブラブショー 2 のテーマ）

編集：工藤健志、澤隆志
執筆：工藤健志、澤隆志、作家
会場写真：大洲大作
アートディレクション、デザイン：植松久典
印刷：青森オフセット印刷
発行：ラブラブショー 2 展実行委員会
発行日：2017 年 8 月 31 日



展示風景

企画概要

ラブラブショーは「出逢い」をコンセプトとした美術展。美術をはじめ、多彩なジャンルで活躍しているアーティスト、クリエイターが出逢い、さらに隣接する三内丸山遺跡の発掘現場に着想を得て設計された青森県立美術館のユニークな空間と出逢って、ここでしか成立しない作品が生み出された。特定のテーマは設けず、表現の多様性を尊重し、作品の自由な解釈を楽しむことのできる、現代／文化の「アンソロジー」として展示は構成された。そして空間と一体になった様々な作品とみなさんが出逢う。そうした出逢いが「美術館」や「展覧会」、「作品」に対する共感＝愛へとつながる。そんな願いのもとに企画した展覧会である。

県内外の若い世代をターゲットとして狙った企画であったが、当初想定していたより女性層も多く、性別を超えて「現代」美

術を紹介する良い機会となったと考えている。美術館の特徴的な空間を十分に使い切ったダイナミックな展示となり、また美術のみならず様々な表現ジャンルの作家に参加してもらうことでバラエティに富んだ展覧会となった。観覧者からの評価は高かったものの、SNS を中心とした広報活動に加え、広報イメージが限定されてしまったため、若い世代以外への広がりには欠け、結果的に入館者目標を達成することはできなかった。しかし一方では「青森県美しい展覧会」という感想も多く寄せられ、ブランディングという点においては貢献できた展覧会であったと考えている。今回は「東京飛地展示」という首都圏にサテライト会場を設け広報拠点としたり、会場内の作品の撮影を許可し、SNS へのアップを推奨したりと、新たな試みも行った。試行錯誤の取り組みであったが、今回の蓄積されたノウハウ、ネットワークは今後の展覧会に活用していくこととしたい。

出品作品

東京会場 @ カマタ_ソーコ

柴田聡子

『いじわる全集』(『いじわる全集』より)

2014年

3分01秒

合板、iPad、骨伝導スピーカー、眼鏡

h: 6.6 × w: 60.0 × d: 55.0

個人蔵

機材協力: BoCo 株式会社

宮崎夏次系

「～Fin～」を合板にレーザープリント

2017年

h: 70.0 × w: 60.0 × d: 60.0

個人蔵

ミロコマチコ

《『けものトンネル』の壁》

2016年

木、水彩

630.0 × 180.0

作家蔵

アンナ・ブダノヴァ

《Among the Black Waves》

2016年

シングル・チャンネル・ビデオ

11分

作家蔵

青野文昭

《なおす・合体・代用・連置 (津波で流された石巻の赤い車の復元)》

2014年

ミクストメディア (収集物等)

h: 170.0 × w: 150.0 × d: 320.0

作家蔵

《なおす・合体・代用・侵入・集積 (震災後の巨理町荒浜で取捨した欠片/テーブル)》

2014年

ミクストメディア (収集物等)

h: 35.0 × w: 120.0 × d: 80.0

作家蔵

《パイロンの復元 2011 (赤) -1》

2011年

ミクストメディア (収集物等)

h: 85.0 × w: 60.0 × d: 50.0

作家蔵

《パイロンの復元 2011 (赤) -2》

2011年

ミクストメディア (収集物等)

h: 85.0 × w: 60.0 × d: 50.0

作家蔵

《パイロンの復元 2011 (土台・赤) -1》

2011年

ミクストメディア (収集物等)

h: 7.0 × w: 40.0 × d: 38.0

作家蔵

《融合 2007 都市・光合成》

2007年

ミクストメディア (収集物等)

h: 194.0 × w: 88.0 × d: 51.0

作家蔵

《融合 2009 イラワジ》

2009年

ミクストメディア (収集物等)

h: 175.0 × w: 80.0 × d: 45.0

作家蔵

水尻自子

《かまくら》

2013年

シングル・チャンネル・ビデオ

6分

作家蔵

青森会場 @ 青森県立美術館

伊藤隆介

《地球の長い午後》

2017年

CCDカメラ、ビデオ・プロジェクター、モーター、ミクストメディアインスタレーション
サイズ可変

本体: h: 120.0 × w: 160.0 × d: 60.0

作家蔵

柴田聡子

『会いに行きたい』(『いじわる全集』より)

2014年

5分37秒

徳田慎一

《展示室 R》

2017年

発砲スチロール、木、LED、蛍光紙、切文字

670.0 × 670.0 × 215.0

作家蔵

今和次郎

《満洲の民家》

1923年頃

ゼラチンシルバークラウド、鉛筆、台紙

20.0 × 15.0 (43点)、27.0 × 15.0 (4点)

工学院大学図書館所蔵

林田嶺一

《とある玩具店のショウウィンドーケース(防
毒マスクの兵隊と戦闘機と難民「キャラク
ター」)》

1985年

ミクストメディア

111.3 × 164.5

《とある玩具店のショウウィンドーケース(軍
医と戦闘機と負傷者難民「キャラクター」)》

1985～1993年

ミクストメディア

112.5 × 177.8

《とある玩具店のショウウィンドーケース(兵
器工場「キャラクター」)》

1988年

ミクストメディア

108.0 × 186.0

《キタイスカヤ街のとあるレストランの窓》

2001年

ミクストメディア

124.5 × 164.6

《鉄板壁と玩具店の窓 (兵器工場「キャラク
ター」とオカルト風のポスター)》

1998年

ミクストメディア

98.0 × 164.5

《とある食堂のショウウィンドーケース (『戦
争と廃墟』の「キャラクター」)》

2004年

ミクストメディア

127.0 × 73.3

《北四路アイシシアター前の広告板》

2005年

ミクストメディア

52.3 × 45.7

《上海郊外スコットロード街の、とある喫茶
店の窓から見た*村兵曹長の片翼で帰還する
陸軍機の機影と店内風景》

2005年

ミクストメディア

92.5 × 62.9 × 14.3

《上海郊外スコットロード街の、とある喫茶
店の看板》

2005年

ミクストメディア

49.5 × 46.0

《上海郊外の黄色の鉄板壁にポスター》

2005年

ミクストメディア

60.8 × 46.0

《上海市街の「カトリック教会」の窓から見
た風景》

2006年

ミクストメディア

62.8 × 50.5

《ロシア構成主義の看板広告物》

2006年

ミクストメディア

46.1 × 39.4 × 25.0

《ハルビン市街のキタイスカヤ街》

2006年

ミクストメディア

103.0 × 43.3

《ハルビン市街の支那街》

2006年

ミクストメディア

113.3 × 34.3

《ハルビン市街のキタイスカヤ街のとあるレ
ストランの窓から見たサポール寺院》

2006年

ミクストメディア

130.0 × 64.5

《青島》

2006年

ミクストメディア

107.0 × 68.8

※以上、青森県立美術館蔵

《第二次上海事変スコットロード》

2014年

ミクストメディア

117.0 × 45.0

《ロシアアヴァンギャルド ハルビン》

2016年

ミクストメディア

107.0 × 108.0

《映画館と舞踏館》

2016年

ミクストメディア

58.0 × 74.0 × 10.0

《チャイニーズ天津飯店 (チャイニーズアー
ルヌーボー)》

2016年

ミクストメディア

69.0 × 47.0 × 11.5

《ハルビン》

2016年

ミクストメディア

79.0 × 136.5 × 10.0

※以上、作家蔵

古賀学

《ていくわん》

2017年

インクジェットプリント、ターボリン

600.0 × 130.0

《ていくつー》

2017年

インクジェットプリント、ターボリン

600.0 × 130.0

《アールワン》

2017年

インクジェットプリント、ターボリン

600.0 × 130.0

《ころん》 2017年 インクジェットプリント、紙 167.8 × 111.8	《倒れゆく AK47 少女》(5点) 2017年 油彩・キャンバス 各 35.0 × 30.5 個人蔵	大森記詩 《Training day - 樹脂片観音菩薩像 -》 2017年 プラスチックモデルパーツによるミキシング ビルドニッアッサンブラージュ h: 137.0 × w: 115.0 × d: 60.0 作家蔵	《光のシークエンス - 青森-光》 2017年 (撮影: 2007 - 2017年) 奥羽本線・津軽線・海峽線・五能線・大湊線・ 八戸線・青い森鉄道線・津軽鉄道線の車窓を 撮影した写真 (3チャンネル・フルHDビデオ)、 プロジェクター、日本国有鉄道 583系 電車の窓 作家蔵
《ちょこん》 2017年 インクジェットプリント、紙 167.8 × 111.8	ユエン・グアンミン 《エネルギーの風景》 2014年 シングル・チャンネル・ビデオ 8分 作家蔵	《Stealth Circle》(2点) 2016 ~ 2017年 鋼鉄フレーム、ペンキ 各 80.0 × 80.0 × 4.0 作家蔵	《光のシークエンス - 青森-景》 2017年 (撮影: 2009 - 2017年) 東北本線・奥羽本線・津軽線・五能線・大湊 線・八戸線・青い森鉄道線・弘南バス線の車 窓を撮影した写真 (3チャンネル・フルHD ビデオ)、プロジェクター、日本国有鉄道 583系電車の窓 作家蔵
《ふわり》 2017年 インクジェットプリント、紙 167.8 × 111.8	丹野篤史 《Raven》(12点) 2017年 ラムダプリント 各 89.0 × 59.0 作家蔵	岡本光博 r#255 《DADA モレ》 2017年 汚染土廃棄袋、アクリル成型加工、虎ロープ 6.9 × 6.9 × 6.9 m / 容量 328.5 トン 作家蔵	《光のシークエンス - Dot / Sight》 2017年 (撮影: 2012 - 2017年) 青い森鉄道線・津軽鉄道線・奥羽本線・津軽 線の車窓を撮影した写真 (シングル・チャン ネル・フルHDビデオ)、プロジェクター 作家蔵
《すべすべ》 2017年 インクジェットプリント、紙 167.8 × 111.8	市川平 《パオバブ・ブランテーション》 2000年 鉄・亜鉛メッキ・モーター・水銀灯 φ 200 × H450 × 3体 サイズ可変 作家蔵	r#241 《モレシャン》 2015年 汚染土廃棄袋、浮き輪、マネキン、写真 個人蔵 (東郷学氏)	
《ぐるぐる》 2017年 インクジェットプリント、紙 167.8 × 111.8	《「ポルターガイスト号 & グジラー号」ラブ ラブバージョン》 2016 ~ 17年 移動光源装置 (鉄・モーター・電球) サイズ可変 作家蔵	r#247 《モレシャンズ-福島県富岡町-2015 年10月21日》 2015年 ターボロニにインクジェットプリント 作家蔵	
《ほいっする》 2017年 インクジェットプリント、紙 167.8 × 111.8	八嶋有司 《SCAN》 2017年 3D スキャンニング、4チャンネルフルHD ビデオ h: 1000.0 × w: 1600.0 × d: 1900.0 作家蔵 技術協力: 3D撮影システム開発 田中翔吾 / 映像再生システム 時里充 (TOKISATO PLAYER)	青秀祐 《Ghost Lightning》 2017年 布地にアクリル、箔 W: 1000.67 × L: 1567.0 × H: 439.0 作家蔵	
《もーたー》 2017年 インクジェットプリント、紙 167.8 × 111.8	《じょーろ》 2017年 インクジェットプリント、紙 167.8 × 111.8	櫻忠 《LSDF (Life Self Defence Force)》 2009年 金属 作家蔵	
《水中ニーツのつぶ》(20点) 2017年 アクリルキューブ、インクジェットプリント 各 4.0 × 4.0 × 4.0 すべて作家蔵 ※モデル: えみりんご (競泳水着)、真鍋し まりす (ビキニ) / 衣裳協力: REALISE / 制作協力: 白川重基 (株式会社海洋堂)	※本インスタレーションは八嶋作品 (15分) →市川作品×八嶋作品 (15分) →市川作 品 (2分) の順でループ投影されました。	《葉莖 / Cartridge》 1991年~ 真鍮 作家蔵	
チェン・チンヤオ 《芝生の上の AK47 少女》 2015-2017年 油彩・キャンバス 162.0 × 650.0 個人蔵	井田大介 《photo sculpture 「地獄の門」》 2017年 ネット画像、集成材、ミクストメディア h: 130.0 × w: 125.0 × d: 28.0 作家蔵	大洲大作 《光のシークエンス - Trans / Lines》 2017年 (撮影: 2014 - 2017年) 東北新幹線 新青森-東京間の車窓を撮影し た写真 (シングル・チャンネル・フルHDビ デオ)、プロジェクター、新幹線 E2系電車 の窓 作家蔵	
《海岸線を守備する AK47 少女》(2点) 2017年 油彩・キャンバス 各 91.0 × 65.0 個人蔵	《ただいま、ハニー》 2017年 ミクストメディア h: 55.0 × w: 60.0 × d: 45.0 作家蔵 制作協力: メガロ化工株式会社、CMET 株 式会社、有限会社上野木型製作所		

掲載記事

函館新聞

2017年3月26日

北海道新幹線開業1周年記念企画
ラブラブショー2 紹介記事

2017年4月27日

「出逢い」がコンセプトの美術展

陸奥新報

2017年3月26日

さまざまな出逢い体感 県立美術館・
来月28日から企画展

2017年4月9日

県美で「ラブラブショー2」28日から
8組がコラボ作品披露

北鹿新聞

2017年4月27日

イベント散歩 情報ステーション
ラブラブショー2 紹介

東奥日報

2017年4月28日

ラブラブショー2 県美で今日開幕
「出逢い」テーマに作家コラボ

2017年4月28日（夕刊）

アートの散歩道 ここではか出逢えぬ作品

2017年5月18日

ラブラブショー2 5000人 野中さん夫婦
（山形）に記念品

朝日新聞

2017年5月19日

県美術館企画展入場者5000人突破

遥かなるルネサンス展

開催概要

会期：2017年7月28日（金）－2017年9月10日（日）

開催日数：43日

開館時間：9:00－18:00（最終入場 17:30）

休館日：8/14（月）、8/28（月）

会場：青森県立美術館 企画展示室

特別協力：イタリア文化財・文化活動・観光省美術館総局、ウ
フィツィ美術館

映像協力：NHKエデュケーショナル

企画協力：東京富士美術館

協賛：アリタリア-イタリア航空、アルテリア、ヤマトロジス
ティクス

協力：青い森鉄道、JR東日本青森商業開発

後援：外務省、イタリア文化財・文化活動・観光省、イタリア
大使館、イタリア文化会館、NHK青森放送局、青森ケーブ
ルテレビ、青森県教育委員会

総入場者数

40,188人

有料入場者数

33,012人

関連行事

①記念講演会「天正遣欧少年使節の見たイタリアルネサンス」

本展の企画者である東京富士美術館五木田館長から、本展の内
容と見どころについてお話をいただいた。

日時：7月29日（土）13:30－15:00

場所：青森県立美術館 コミュニティギャラリー

講師：東京富士美術館 館長 五木田 聡

入場料：無料

入場者数：85人

②講演会「楽しいルネサンス美術」

ブロンズイーノなどイタリアルネサンス晩期のマニエリスム美
術研究を専門とする弘前大学足達教授から、イタリアルネサン
ス美術の楽しみ方を解説いただいた。

日時：8月26日（土）13:30－15:00

場所：青森県立美術館 コミュニティギャラリー

講師：弘前大学 教授（イタリア美術史） 足達 薫

入場料：無料

参加者：70人

③ミュージアムコンサート 天正遣欧少年使節の音楽

遣欧使節の少年達は西洋の楽器を見事に演奏し、帰国後は豊臣
秀吉の前で披露したと伝えられている。彼らも奏でた古楽器の
リュート、ハープと歌による演奏を行った。

日時：8月29日（火）16:30－17:30

場所：青森県立美術館 企画展示室

出演者：つのだ たかし（リュート）

伊藤 美恵（バロックハープ）

藤井 あや（ソプラノ）

参加料：無料 ※ただし企画展チケットが必要

参加者：151人

④親子ギャラリーツアー

親子参加によるギャラリーツアーを実施し、親子が一緒に作品
の解説や観覧の楽しみ方などについて学んだ。

日時：8月12日（土）10:30－11:30

8月20日（日）10:30－11:30

場所：青森県立美術館 企画展示室

参加料：無料 ※ただし、企画展チケットが必要

案内者：美術企画課 課長 池田 亨

参加者：8月12日23人、8月20日12人



展示風景

企画概要

「遙かなるルネサンス展」は、16世紀後半のイタリアを訪れた天正遣欧少年使節の足跡をたどりつつ、“日本人が初めて見たヨーロッパ文化”“日本人が初めて見たイタリア・ルネサンスの芸術”に焦点を当てて、ルネサンスの豊穡なる美の世界を探求する展覧会である。

本展では、天正遣欧少年使節が訪れたイタリア各地の都市の美術を訪問順に紹介したが、中でも特に、メディチ家のお抱え画家ブロンズイーノが描いた《ピア・デ・メディチの肖像》と、ヴェネツィアの画家ティントレットの工房で描かれ2014年に奇跡的に再発見された《伊東マンシヨの肖像》は、本展の見どころとなった。

天正遣欧少年使節という歴史的なテーマを、書簡などの残された貴重な資料とイタリア・ルネサンスの優れた美術作品を組み合わせた展示は、歴史ファン、美術ファンなど多くの層にアピールし、充実した解説パネル、音声ガイドなどにより、来館者の知的好奇心に十分に答えることができたと思われる。

さらに2回の講演会、ルネサンス音楽のミュージアムコンサートも多くの観客を集めたほか、こども向けのワークシートは家族連れなどにご利用いただくなど、幅広い世代の方々に楽しんでいただくことができた展覧会となった。

出品作品

プロローグ（展示室 A）

14
《日本地図（ポルトガル語）》
1585年頃
インク、紙
27.6 × 60
フィレンツェ国立古文書館

57
アブラハム・オルテリウス編、ルイス・ティ
シェイラ画
《日本地図》
アントウエルベン
1602年（初版1595年）
銅版画、手彩色
42 × 54.5
東京富士美術館

第1章 トスカーナ大公国 （展示室 A - B）

3
フィレンツェ、トスカーナ大公の工房
《ヤコボ・リゴッツィ〈ヴェローナ 1547年
- フィレンツェ 1627年〉の作品に基づく》
《リヴォルノ港の景観を表すテーブル天板》
1601-04年
貴石のモザイク
107 × 94
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

4
ドメニコ・ブーティ
《フランチェスコ1世・デ・メディチの肖像》
1570年頃
油彩、板
112 × 84.5
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

6
アレクサンドロ・アッローリの工房
《ピアンカ・カベットの肖像》
1578年以降
油彩、板
62.8 × 54
フィレンツェ、ウフィツィ美術館、バラティ
ーナ美術館および王の部屋

7
アレクサンドロ・アッローリの工房
《ピアンカ・カベットの肖像》
1578-87年頃
油彩、板
62.8 × 54
東京富士美術館

5
クリストファーノ・デッラルティッシモ
《コジモ1世の肖像》
1562年以前
油彩、板
58 × 44
フィレンツェ、ウフィツィ美術館、バラティ
ーナ美術館および王の部屋

8
プロンズイーノ（アーニョロ・ディ・コジモ・
トリー）
《ピア・デ・メディチの肖像》
1542年頃
油彩、板
64 × 48
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

9
バルトロメオ・アンマナーティ
《メディチの精霊》
1556-60年頃
ブロンズ
高さ180
フィレンツェ、ウフィツィ美術館、バラティ
ーナ美術館および王の部屋

17
フィレンツェの画家
《ピッティ広場の行列》
1609年以降
油彩、カンヴァス
156 × 332
フィレンツェ、ウフィツィ美術館、バラティ
ーナ美術館および王の部屋

10
バックアッカ（フランチェスコ・ウベルティニ）
《女性の理想的な肖像》
16世紀
油彩、板
71.5 × 52.5
東京富士美術館

11
チェーザレ・タルゴーネ
《プラトリーノのための噴水計画をフラン
チェスコ1世に提出するジャンポローニャ》
1585-87年頃

金、アメジスト、銅に金メッキ
9.3 × 11.8
フィレンツェ、ウフィツィ美術館、大公の宝
物館

13
フィレンツェ、トスカーナ大公の工房
《塩入れ（対）》
16世紀末
ラピスラズリ、銀に金メッキ
11.5 × 7.5 / 8.57.5
フィレンツェ、ウフィツィ美術館、大公の宝
物館

13
フィレンツェ、トスカーナ大公の工房
《聖マタイによる福音が描かれた水盤》
1568-86年
メディチ磁器
直径39.6 × 高さ57.8
アレツォ国立中世・近代美術館

15
《メディチ家雑録文書》
(a)「ラファエッロ・デ・メディチからアント
ニオ・セルグイーディに宛てた天正遣欧少年
使節一行に関する報告書」
1585年3月8日付
27.5 × 20.2

(b)「アンソニー・スタンダンからアントニオ・
セルグイーディに宛てた天正遣欧少年使節一
行に関する報告書」
1585年3月11日付
29 × 20.6

(c)「ジョヴァン・バッティスタ・ダ・チェッ
レートからアントニオ・セルグイーディに宛
てた天正遣欧少年使節一行に関する報告書」
1585年3月11日付
29 × 20.6

(d)「ラファエッロ・デ・メディチからアント
ニオ・セルグイーディに宛てた天正遣欧少年
使節一行に関する報告書」
1585年3月13日付
37.5 × 20.6 29 × 20.3

(e)「ジョヴァン・バッティスタ・ダ・チェッ
レートからアントニオ・セルグイーディに宛
てた天正遣欧少年使節一行に関する報告書」
1585年3月15日付
28 × 20.6 29 × 21
1585年（フィレンツェ暦1584年）
インク、紙
フィレンツェ国立古文書館

16
フィレンツェ、トスカーナ大公の工房
《小鳥、花瓶、戦利品を表わしたテーブル天板》
17世紀前半
色大理石、貴石のモザイク
109 × 109
フィレンツェ、貴石研究所美術館

第2章 ローマへの旅

18
メディチ宮廷付き繻織り工房（ベネディッ
ト・スクイッリ、ジョヴァンニ・ストラダーノ）
《布幕を用いた狼の狩猟》
1574-75年
水平織機による繻織り
379 × 761
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

19
シビオーネ・ブルツォーネ（通称ガエターノ）
《アレクサンドロ・ファルネーゼ枢機卿の肖像》
1578-79年
油彩、カンヴァス
133.7 × 107.2
ローマ、バルベリーニ宮（国立古典絵画館）

21
カステッリの工房
《ファルネーゼ家紋章入りの皿》
1580-89年
マヨリカ陶器
直径23.5 ~ 33.5、高さ3.5 ~ 5
ナポリ、カボディモンテ美術館

22
ウルビーノ窯、フォンターナ工房
《ガラテアの凱旋の描かれた大皿》
1550-75年頃
マヨリカ陶器
直径直径31.5
アレツォ国立中世・近代美術館

20
フェデリコ・ツッカリ（ラファエッロに基づく）
《聖ペテロの解放》
1563-66年頃
油彩、カンヴァス
169 × 135
フィレンツェ、ウフィツィ美術館、バラティ
ーナ美術館および王の部屋

第3章 ヨーロッパ都市の 女王：ローマ（展示室 C）

26
シビオーネ・ブルツォーネ（通称ガエターノ）
《グレゴリウス13世の肖像》
1575年頃
油彩、カンヴァス
136 × 112
ヴィッラ・ソラ・サレジオ会

23
ドメニコ・ボッジーニ
《教皇グレゴリウス13世のメダル》
1581年
ブロンズ
直径3.8
表面：教皇グレゴリウス13世 [在位] 10年
裏面：聖霊の賜物が異邦人の上にも（注がれる）
フィレンツェ、バルジェッロ美術館

28
ローマの画家（？）
《ヨーロッパ内外にセミナリオを設立するグ
レゴリウス13世》
16世紀末-17世紀初頭
油彩、カンヴァス
190 × 280
ローマ、グレゴリアン大学

27
アントニオ・チャッピ（シエナ1577年以前
- 1601年以降）
『教皇グレゴリウス13世偉業要略』
ローマ、1596年
書籍
23 × 17.2 × 2
フィレンツェ国立中央図書館

31
ヴィンチェンツォ・カルターリ、ロレンツォ・
ピニョリア
『古代人たちの神々の姿について』
バドヴァ、1626年
書籍
23 × 17.2 × 4.8
フィレンツェ国立中央図書館

24
ロレンツォ・フラニー（通称ロレンツォ・バ
ルメンセ）
《天正遣欧少年使節の記念メダル》
1585年
ブロンズ
直径4
表面：教皇グレゴリウス13世
裏面：日本の国々から教皇の座すローマへ初
の使節と恭順 1585年
ヴァチカン教皇庁図書館

25
ドメニコ・ボッジーニ
《教皇シクストゥス5世のメダル》
1586-87年
銀
直径3.42
表面：教皇シクストゥス5世〔在位〕2年
裏面：山で祝宴を開き良い肉を供する
フィレンツェ、バルジェッロ美術館

32
ヤコボ・ズッキ（フィレンツェ 1540年頃 -
ローマ 1596年）
《銀の時代》
1574-75年頃
油彩、板
50 × 38.5
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

33
ルドヴィコ・デル・ドゥーカ
《マルクス・アウレリウス帝騎馬像》
1585年
ブロンズ
高さ38
フィレンツェ、バルジェッロ美術館

第4章 ペーザロとイモラ (展示室D)

34
フェデリコ・パロッチ
《フランチェスコ・マリア2世・デッラ・ロー
ヴェレの肖像》
1572年頃
油彩、スレート
直径8.4
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

35
ウルビーノ窯、フォンターナ工房
《牝牛にされたイオ、メルクリウスとアルゴ
スが描かれたフィアスコ》
1560-70年頃
マヨリカ陶器
高さ38.5
フィレンツェ、バルジェッロ美術館

36
ウルビーノ窯、フォンターナ工房
《市民を救うカエサルが描かれた大皿》
1565-75年頃
マヨリカ陶器
直径45、高さ5
フィレンツェ、バルジェッロ美術館

第5章 エステ家の都市： フェッラーラ (展示室D)

40
クリストファノ・デッラルティッシモ
《フェッラーラ公爵アルフォンソ2世・デス
テの肖像》
1568年以前
油彩、カンヴァス
58 × 43
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

41
《伊東マンショからフェッラーラ公爵アル
フォンソ2世・デステに宛てた手紙》
1585年8月16日付
インク、紙
31 × 21.5
モデナ国立公文書館

42
バドヴァニーノ(アレッサンドロ・ヴァロターリ)
《ティツィアーノ・ヴェチェッリオの作品に
基づく》
《バックス祭(ナッソスのアリアドネ、もし
くはアンドロス島の人々)》
1616-23年
油彩、カンヴァス
175 × 188
ベルガモ、カッラーラ美術館

第6章 ヴェネツィア、 「驚嘆の都市」(展示室D)

43
チェーザレ・ヴェチェッリオ
《サン・マルコ広場での聖十字架の行列》
1586年頃
油彩、カンヴァス
134 × 194
ヴェネツィア、コッレール美術館

44
ジョヴァンニ・ベッリーニ
《行政長官の肖像》
1507年頃
油彩、板
50 × 35
東京富士美術館

49
パオロ・ヴェロネーゼ(パオロ・カリアーリ)
《息子アンテロスをユピテルに示すヴィーナ
スとメルクリウス》
1561-65年頃
油彩、カンヴァス
150 × 243
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

46
ティントレット(ヤコボ・ロブスティ)
《蒐集家の肖像》
1560-65年
油彩、カンヴァス
111 × 90
東京富士美術館

47
ティントレット(ヤコボ・ロブスティ)
《レダと白鳥》
1550年頃
油彩、カンヴァス
147.5 × 147.5
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

45
パオロ・ヴェロネーゼ(パオロ・カリアーリ)
《少年と騎士見習》
1570年代
油彩、板から移されたカンヴァス
205 × 104
東京富士美術館

50
チェーザレ・ヴェチェッリオ
『世界各地の古代及び現代の服装』
ヴェネツィア、1598年
書籍
18.5 × 13 × 7.5
フィレンツェ国立中央図書館

51
ジョヴァンニ・グレーヴェンブロク
『情熱を持って集められ描かれたほぼすべて
の年齢に渡るヴェネツィア市民の服装』
1754年
インク、水彩、紙
30.2 × 22 × 6
ヴェネツィア、コッレール美術館

52
ムラーノのガラス工房
《巡礼者のフィアスコ》
16世紀末
無色、乳白色ガラス
直径11、高さ31
ナポリ、カポディモンテ美術館

53
ムラーノのガラス工房
《バケット》
17世紀初頭
無色、乳白色、青色のガラス
高さ11.5
ナポリ、カポディモンテ美術館

54
《天正遣欧少年使節からヴェネツィア共和国
政府への感謝状》
1585年7月2日
インク、紙
31.8 × 41.7
ヴァチカン市国、ヴァチカン教皇庁図書館

第7章 バドヴァ、ヴィチェ ンツァ、ヴェローナ (展示室C-E)

55
ジャコモ・フィリッポ・トマジニ
『ギムナシウム・パタヴィヌム』
バドヴァ、1654年
書籍
22.7 × 17.5 × 4.3
フィレンツェ国立中央図書館

56
アブラハム・オルテリウス
『世界の舞台』
アントウェルペン、1574年
書籍
46.3 × 34 × 6
フィレンツェ国立中央図書館

58
ゲオルク・ブラウンとフランツ・ホーヘンペ
ルフ
『世界の諸都市』第1巻
ケルン、1575年
書籍
43.5 × 31.5 × 5 (閉じた状態)
フィレンツェ国立中央図書館

59
ジョヴァンニ・モンテナーリ
『アンドレア・パッラーディオのオリンピコ
劇場』
(フランチェスコ・ズッキによるオリンピコ
劇場の内部が描かれた版画)
バドヴァ、1749年
書籍
18.5 × 13 × 7.5 (閉じた状態)
フィレンツェ国立中央図書館

60
ヴィンチェンツォ・スカモッツィ
《ヴィチェンツァ、オリンピコ劇場の舞台背
景画の習作》(右のホスピタリア門の左側)
1584年
鉄筆、ペン、褐色のインク、紙
21 × 30.8
フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室

63
リッカルド・エズィオ
『1585年7月7日にヴィンチェンツァを訪問した高名なる日本の王達に関する記録』
1585年
手稿
28.2 × 22.2
ナポリ、国立ヴィットリオ・エマヌエーレ2世記念図書館

64
ベネデット・チェルーティ
アンドレア・キオッコ (ヴェローナ 1562年 - 1624年)
『ヴェローナにあるフランチェスコ・カルツォラーリ美術館』
ヴェローナ、1622年
書籍
33.3 × 24 × 8
フィレンツェ国立中央図書館

第8章 ゴンザーガ家の宮廷 (展示室 E)

65
ピーテル・パウル・ルーベンス周辺の画家
《ヴィンチェンツォ1世・ゴンザーガの肖像》
17世紀初頭
油彩、銅版
3.7 × 3.1
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

66
コスタンティノ・デ・セルヴィ
《フランチェスコ1世の娘エレオノーラ・デ・メディチの肖像》
1584年以降
油彩、銅版
7.3 × 5.8
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

67
ボンベオ・デッラ・カーサに帰属
《ヴィンチェンツォ1世・ゴンザーガの膏》
1584年頃
銅鉄、エッチングによる彫金、黒色と金の賦彩
25 × 33
トリノ王立兵器博物館

68
ボンベオ・デッラ・カーサに帰属
《ヴィンチェンツォ1世・ゴンザーガの鏡》
1584年頃
銅鉄、エッチングによる彫金、黒色と金の賦彩
高さ 51 × 幅 40cm
トリノ王立兵器博物館

69
クリストーファノ・デッラルティッシモ
《バルダッサレ・カスティリオーネの肖像》
1568年頃
板、油彩
60 × 44
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

70
バルダッサレ・カスティリオーネ
『宮廷人』
ヴェネツィア、1559年
書籍
15.6 × 11 × 3.3
フィレンツェ国立中央図書館

71
《伊東マンシヨからヴィンチェンツォ・ゴンザーガ公子に宛てた書状》
1585年8月2日付
墨、和紙
37.5 × 20.5
マントヴァ国立公文書館、ゴンザーガ家文書庫

第9章 ミラノ (展示室 E)

72
ミラノの工房
《ヘラクレスの三功業が彫刻された膏》
1560-70年頃
打出、彫刻、金・銀の象嵌が施された銅鉄
38.8 × 21.7
トリノ王立兵器博物館

73
ミラノの工房
《ヘラクレスが彫刻された盾》
1560-70年頃
打出、彫刻、金・銀の象嵌が施された銅鉄
56.9 × 56.6
トリノ王立兵器博物館

74
ミラノの工房 (?)
《舟形杯》
16世紀末
メノウ
9.4 × 16.7 × 8.5
フィレンツェ、ウフィツィ美術館、大公の宝物館

75
カテリナ・カントーニ
《フルッティエラ：世界の四大陸と四元素》
1595-1601年
絹糸、金糸・銀糸で刺繍されたりネン布
189 × 91
マダマ宮殿、トリノ市立博物館

エピローグ (展示室 E)

48
ドメニコ・ティントレット (ドメニコ・ロブスティ)
《伊東マンシヨの肖像》
1585年
油彩、カンヴァス
54 × 43
ミラノ、トリヴァルツィオ財団

掲載記事

東奥日報社

2017年5月27日
7月「遥かなるルネサンス展」少年使節の足跡再現

2017年5月27日
「ストーリー性ある」富士美術館長がPR

2017年5月29日
遥かなるルネサンス メディチのプリンセス、初来日

2017年5月29日
遥かなるルネサンス 7月28日から県立美術館

2017年6月19日
明鏡欄 イタリアとの縁と「ルネサンス展」

2017年7月24日
遥かなるルネサンス展に寄せて 上 一創価学会名誉会長 池田大作

2017年7月25日
遥かなるルネサンス展に寄せて 中 一創価学会名誉会長 池田大作

2017年7月26日
遥かなるルネサンス展に寄せて 下 一創価学会名誉会長 池田大作

2017年7月27日
遥かなるルネサンス展 あすから9月10日まで

2017年7月28日
ルネサンス展きょう開幕 県美でセレモニー、内覧会

2017年7月28日
ルネサンス展開幕 430年前の驚き 体感

2017年7月29日
間近で感じる「歴史」 初日からにぎわい

2017年7月29日
県美 ルネサンス展 監修のウフィツィ美術館 シュミット館長に聞く

2017年7月30日
県美ルネサンス展見どころあれこれ 企画者・五木田氏解説

2017年7月30日
ウフィツィ美術館館長 ラッセランドを見学

2017年8月1日

寄稿 ルネサンス展「伊東マンショの肖像」
小佐野重利

2017年8月7日
遥かなるルネサンス展 1 ブロンズイーノ《ピア・メディチの肖像》

2017年8月8日
遥かなるルネサンス展 2 アレッサンドロ・アッローリの工房《ピアンカ・カベッコの肖像》

2017年8月9日
遥かなるルネサンス展 3 ドメニコ・ティントレット《伊東マンショの肖像》

2017年8月10日
遥かなるルネサンス展 4 ティントレット《レダと白鳥》

2017年8月11日
遥かなるルネサンス展 5 《天正遣欧少年使節からヴェネツィア共和国政府への感謝状》

2017年8月21日
遥かなるルネサンス展 私の1点《伊東マンショの肖像》

2017年8月22日
遥かなるルネサンス展 私の1点《小鳥、花瓶、戦利品を表したテーブル天板》

2017年8月23日
遥かなるルネサンス展 私の1点《アレッサンドロ・ファルネーゼ枢機卿の肖像》

2017年8月24日
遥かなるルネサンス展 私の1点《ピアンカ・カベッコの肖像》

2017年8月25日
ルネサンス展に2万人 県美 近藤さんに記念品

2017年8月25日
本県作家の“信仰の旅” 県美「ルネサンス展」関連特集

2017年8月25日
遥かなるルネサンス展 私の1点《ピア・メディチの肖像》

2017年9月1日
ルネサンス展 楽しく ジュニアパスポート制作

2017年9月5日
ルネサンス展3万人突破 県美 前田さんに記念品

2017年9月9日
天正遣欧少年使節 ミゲルの墓からロザリオの玉？

2017年9月14日
明鏡欄 「ルネサンス」展 忘れがたき肖像画

聖教新聞

2017年6月9日
遥かなるルネサンス 展覧会情報

朝日新聞社

2017年6月13日
「伊藤マンショの肖像」430年経て瞳に映るのは

岩手日報

2017年7月1日
夏休みお出かけ特集

2017年7月12日
遥かなるルネサンス 展覧会情報

河北新報

2017年7月2日
遥かなるルネサンス メディチのプリンセス、初来日

秋田魁新聞

2017年7月10日
遥かなるルネサンス 展覧会情報

陸奥新報社

2017年7月16日
Culture 通信 天正遣欧少年使節の足跡たどる

山形新聞

2017年7月中旬
遥かなるルネサンス 展覧会情報

函館新聞社

2017年8月1日
遥かなるルネサンス展紹介

2017年9月5日
来場者3万人突破 青森県立美術館「遥かなるルネサンス」展

北鹿新聞社

2017年8月17日
イベント散歩 ルネサンス展紹介

「夢に挑む 洋画をめぐる画家たちの冒険 ～明治・大正・昭和 日本と青森の近代洋画史～」展

開催概要

2017年9月23日（土・祝）－11月5日（日）
休館日：9月25日（月）、10月10日（火）、10月23日（月）
開催日数：41日
主催：日本と青森の近代洋画展実行委員会（青森県立美術館、
東奥日報社、青森テレビ、青森県観光連盟）
協賛：株式会社ユニバース
協力：青い森鉄道株式会社、株式会社JR東日本青森商業開発
後援：NHK青森放送局、青森ケーブルテレビ株式会社、株式
会社エフエム青森、青森県教育委員会

観覧料

一般 1,400円（1,200円）、高大生 800円（600円）
小中学生無料
※（ ）は前売券及び20名以上の団体料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

入場者数

6,762人

関連企画

1 講演会「北東北美術 三県三様の近代」

日本近代美術史研究者で、前岩手県立美術館館長の原田光氏により、展覧会のテーマである日本と青森の近代洋画史から、岩手、秋田を加えた北東北三県の近代美術史まで視点を広げて講演をいただいた。

（青森県立美術館サポートシップ倶楽部協賛事業）

講師：原田光（美術評論家）

日時：10月15日（日）14:00－

場所：青森県立美術館シアター

入場無料

入場者：33人

2 油絵体験ワークショップ

（青森県立美術館サポートシップ倶楽部協賛事業）

水彩画や版画などに比べて制作する機会が少ない油彩画を体験するワークショップとして開催。油絵の具の特徴を生かした基本的な技法について実技体験した後、展覧会場で担当学芸員がそれらの技法が実際に用いられている作品を紹介した。

日時：10月21日（土）10:00－12:00

場所：青森県立美術館 ワークショップA

参加無料。ただし展覧会チケットが必要

参加者：14人

3 美術館学芸員によるギャラリー・トーク

日時：2017年9月30日（土）、10月28日（土）
14:00－

場所：青森県立美術館展示室

参加無料。ただし展覧会チケットが必要

参加者：9月30日 20人、10月28日 24人

展覧会カタログ

A4判 144頁（カラー96頁）

編集：青森県立美術館

執筆：青森県立美術館 菅野 晶

棟方志功記念館 對馬恵美子

デザイン：須藤一幸

発行：日本と青森の近代洋画展実行委員会



ポスター



展示風景

青森県立美術館で初めてとなる本格的な日本近代洋画の展覧会として開催し、19世紀、西洋文明との出会いから始まった日本の近代以降、洋画をめぐる画家たちが挑んだ夢と冒険をテーマに、日本、そして青森の近代洋画の歩みを辿った。

未知の技法である洋画に挑むこと自体が冒険であり、技法の習熟が熱心に追求された時代から、洋画が社会的に認知され定着していくにしたがって、独創的な作風の探求が創作の中心となり、技法や表現におけるさまざまな冒険が試みられてゆく。明治、大正、昭和、それぞれの時代に、画家たちは自らが理想とする作品の創造を目指し、その夢の実現に果敢に挑んでいった。展示では「夢と冒険」というキーワードを設定し、近代洋画を初めて鑑賞する来館者も、理想の絵画表現の創造を目指した画家たちの情熱を身近に感じることのできる内容とする一方で、より専門的に掘り下げたエピソードを随所に織り交ぜ、美術に関心が高い来館者の知的好奇心にも応えた。

出品作品は、茨城県近代美術館、栃木県立美術館のコレクションによる日本近代洋画79点（作家数52名）と印象派などのフランス近代絵画4点に加え、当館をはじめ県内の美術館・博物館等が所蔵する青森の洋画84点（作家数36名）を集めた。展示作品総数は167点（期間中近代洋画3点を展示替。展示作品数は164点）、作家総数は92名にのぼる充実した出品内容により、日本の近代洋画が築かれていく過程を概観するとともに、そのなかで郷土の画家たちが如何にして自らの夢に挑んできたのかを紹介することができた。

特に、展覧会の導入として、棟方志功の自叙伝から洋画に熱中していた頃のエピソードを配し、それぞれの時代に「シーン青森」というコーナーを設けた展示構成は、郷土の画家たちが身近に感じられると共に、彼らの活動を同時代の動きや歴史の流れのなかで理解することができると好評を得た。

出品作品

プロローグ 紫の陰^{かげ}

A-1
棟方志功
雄華山房主人像図
1942年
油彩・板
31.5 × 24.0
青森県立美術館

N-1
ギュスターヴ・クールベ
フランシュ＝コンテの谷、オルナン付近
1865年頃
油彩・キャンバス
60.0 × 91.0
茨城県近代美術館

N-2
カミーユ・ピサロ
グラット＝コックの丘からの眺め、ポントワーズ
1878年
油彩・キャンバス
55.0 × 65.0
茨城県近代美術館

N-3
アルフレッド・シスレー
葦の川辺―夕日
1890年
油彩・キャンバス
54.0 × 73.0
茨城県近代美術館

N-4
ピエール＝オーギュスト・ルノワール
マドモワゼル・フランソワ
1917年
油彩・キャンバス
52.0 × 42.0
茨城県近代美術館

第1章 明治 未知の技法に挑む

N-5
チャールズ・ワーグマン
三味線をひく娘
1868-83年頃
油彩・キャンバス
27.0 × 34.0
茨城県近代美術館

N-6
高橋由一
驟雨図
1877年頃
油彩・キャンバス（板貼）
45.5 × 76.2
栃木県立美術館

N-7
五姓田義松
朝陽の富士
1903-05年頃
油彩・キャンバス
73.7 × 98.5
茨城県近代美術館

N-8
二世 五姓田芳柳
勿来海濱
1929年
油彩・キャンバス
52.0 × 71.0
茨城県近代美術館

N-9
久米桂一郎
雪の庭
1898年
油彩・板
23.5 × 32.5
茨城県近代美術館

N-10
黒田清輝
箱根宿
1896年
油彩・キャンバス
41.0 × 27.0
茨城県近代美術館

N-11
黒田清輝
庭の雪
1905年
油彩・板
34.0 × 26.0
茨城県近代美術館

N-12
黒田清輝
風景
1920年
油彩・板
24.0 × 33.0
茨城県近代美術館

N-13
藤島武二
ボンベイの廃墟
1908年頃
油彩・板
26.0 × 35.0
茨城県近代美術館

N-14
小杉未醒
濱の冬
1911年頃
油彩・キャンバス
31.5 × 44.0
茨城県近代美術館

N-15
安井曾太郎
フランス風景
1911-12年
油彩・キャンバス
50.0 × 60.6
茨城県近代美術館

N-16
浅井忠
農家室内
1887年
水彩・紙
29.0 × 47.0
茨城県近代美術館

N-17
浅井忠
樹林
1903年
水彩・紙
27.0 × 37.5
茨城県近代美術館

N-18
丸山晚霞
アンバレー村
1912年
水彩・紙
24.5 × 34.5
茨城県近代美術館

A-2
松山忠三
ホルムウッド
1922年
水彩、鉛筆・紙
31.5 × 23.0
青森県立美術館

A-3
松山忠三
ストレッサム共有地
1932年
水彩、鉛筆・紙
34.2 × 25.7
青森県立美術館

A-4
松山忠三
ボックスヒル駅近く
1939年
水彩、鉛筆、ペン・紙
42.0 × 29.0
青森県立美術館

A-5
松山忠三
北ウェールズの湖
1948年
水彩、鉛筆・紙
29.5 × 42.2
青森県立美術館

A-6
松山忠三
リトルハンプトン
1930年
水彩、鉛筆・紙
24.2 × 29.3
青森県立美術館

A-7
羽場金司
裸体 男
1911年
油彩・キャンバス
71.6 × 38.2
弘前市立博物館

A-8
羽場金司
裸体 女
制作年不詳
油彩・キャンバス
71.6 × 38.3
弘前市立博物館

A-9
羽場金司
静物
制作年不詳
油彩・キャンバス
33.4 × 45.6
弘前市立博物館

A-10
羽場金司
風景
制作年不詳
油彩・キャンバス
41.2 × 53.1
弘前市立博物館

A-11
福田剛三郎
海濱風景
1910年
油彩・キャンバス
31.8 × 41.0
八戸市新美術館建設推進室

A-12
福田剛三郎
風景
1930年
油彩・キャンバス
38.0 × 45.5
八戸市新美術館建設推進室

A-13
福田剛三郎
静寂
1933年
油彩・キャンバス
45.5 × 38.0
八戸市新美術館建設推進室

A-14
福田剛三郎
婦人像
1922年
油彩・キャンバス
53.0 × 40.9
八戸市新美術館建設推進室

第2章 大正 洋画の創造

N-19
萬鉄五郎
家のある風景
1915年
油彩・キャンバス
45.5 × 33.3
茨城県近代美術館

N-20
萬鉄五郎
風景
1912年頃
油彩・キャンバス
40.0 × 26.0
茨城県近代美術館

N-21
中村彝
大島風景
1915年
油彩・キャンバス
22.5 × 32.0
茨城県近代美術館

N-22
中村彝
雉子の静物
1919年
油彩・キャンバス
57.5 × 49.5
茨城県近代美術館

N-23
中村彝
カルピスの包み紙のある静物
1923年
油彩・キャンバス
60.7 × 50.2
茨城県近代美術館

N-24
岸田劉生
窓外夏景
1921年
油彩・キャンバス
38.0 × 45.5
茨城県近代美術館

N-25
岸田劉生
籠中脂香
1923年
油彩・キャンバス
32.1 × 33.5
茨城県近代美術館

N-26
岸田劉生
路傍秋晴（大連風景）
1929年
油彩・キャンバス
38.3 × 45.0
茨城県近代美術館

N-27
木村荘八
静物
1917年頃
油彩・キャンバス
38.0 × 45.4
茨城県近代美術館

N-28
中川一政
静物
1921年
油彩・キャンバス
30.0 × 40.0
茨城県近代美術館

A-15
木谷末太郎
十和田御前ヶ浜
1918年
油彩・キャンバス
33.5 × 45.5
青森県立美術館

A-16
今純三
バラ図
1924年
油彩・キャンバス
41.1 × 53.3
弘前市立博物館

A-17
西村健次郎
種差海岸の景
1937年
油彩・キャンバス
37.7 × 45.8
八戸市新美術館建設推進室

A-18
福勢喜一
椅子によりかかる女
制作年不詳
油彩・キャンバス
90.0 × 72.7
八戸市新美術館建設推進室

A-19
福田寛
燕島
制作年不詳
油彩・キャンバス
80.3 × 100.0
八戸市新美術館建設推進室

A-20
葛城喜良
耕作
1937年
水彩・紙
37.6 × 48.1
弘前市立博物館

A-21
葛城喜良
風景
制作年不詳
水彩・紙
49.1 × 64.3
弘前市立博物館

A-22
葛城喜良
岩木川原にて
1937年
水彩・紙
31.7 × 45.0
弘前市立博物館

A-23
葛城喜良
角はを望む（百石町より）
制作年不詳
水彩・紙
29.8 × 37.7
弘前市立博物館

A-24
穴澤昶夫
日暮橋より南塘を望む
1926年
油彩・キャンバス
37.6 × 44.0
青森県立弘前高等学校

A-25
黒滝大休
碓ヶ関風景
1935年
油彩・板
31.7 × 40.5
弘前市立博物館

A-26
常田健
風景
1932年
油彩・キャンバス
72.7 × 91.0
青森県立弘前高等学校

第3章 昭和1 多彩な冒険の軌跡

N-29
藤島武二
大洗の日の出
1931年
油彩・キャンバス
33.0 × 45.5
茨城県近代美術館

N-30
藤島武二
上海風景
1938年
水彩・紙
34.0 × 26.0
茨城県近代美術館

N-31
安井曾太郎
北京風景
1944年
水彩・紙
26.0 × 35.0
茨城県近代美術館

N-32
牧野虎雄
向日葵
1929年頃
油彩・キャンバス
73.0 × 60.5
茨城県近代美術館

N-33
坂本繁二郎
伊豆海岸
1917 / 67年
油彩・キャンバス
60.8 × 80.0
茨城県近代美術館

N-34
熊谷守一
夜
1931年
油彩・キャンバス
32.5 × 40.8
茨城県近代美術館

N-35 熊谷守一 谷ヶ岳 1940年 油彩・板 23.8 × 33.0 茨城県近代美術館	N-43 長谷川利行 瓦斯会社 1928年 油彩・キャンバス 72.5 × 100.0 茨城県近代美術館	N-51 前田寛治 婦人像 1925年 油彩・キャンバス 65.5 × 53.2 茨城県近代美術館	N-59 海老原喜之助 臥婦 1928年 油彩・キャンバス 64.5 × 91.5 茨城県近代美術館
N-36 須田国太郎 椿 1940年頃 油彩・キャンバス 50.0 × 61.0 茨城県近代美術館	N-44 岡鹿之助 観測所（信号台） 1926年 油彩・キャンバス 46.0 × 55.0 茨城県近代美術館	N-52 前田寛治 帽子の男（沼沢三郎氏像） 1927年 油彩・キャンバス 91.0 × 73.0 茨城県近代美術館	N-60 里見勝蔵 女 1930年頃 油彩・キャンバス 74.0 × 100.0 茨城県近代美術館
N-37 児島虎次郎 ストックホルム 1922年 油彩・キャンバス 57.5 × 67.5 茨城県近代美術館	N-45 海老原喜之助 雪中行軍 1930年 油彩・キャンバス 90.5 × 72.2 茨城県近代美術館	N-53 川口軌外 母と子 1927-30年 油彩・キャンバス 52.5 × 45.2 茨城県近代美術館	N-61 小出楢重 裸婦 1930年 鉛筆・紙 32.5 × 44.5 茨城県近代美術館
N-38 鳥海青児 闘牛 1932年 油彩・キャンバス 97.0 × 181.0 茨城県近代美術館	N-46 三岸好太郎 花 1933年 油彩・キャンバス 79.0 × 63.0 茨城県近代美術館	N-54 安井曾太郎 安倍能成氏像 1944年 油彩・キャンバス 63.0 × 48.0 茨城県近代美術館	N-62 小出楢重 裸婦 1930年頃 水彩・紙 30.0 × 50.5 茨城県近代美術館
N-39 国吉康雄 二頭の牛 1922年 油彩・キャンバス 51.0 × 41.0 茨城県近代美術館	N-47 小出楢重 中之島風景 1925年 油彩・紙 24.0 × 33.0 茨城県近代美術館	N-55 安井曾太郎 寝たる女 1912年 油彩・キャンバス 45.5 × 53.0 茨城県近代美術館	N-63 小磯良平 二人裸婦 1956年頃 油彩、パステル等・紙 55.5 × 70.5 茨城県近代美術館
N-40 佐伯祐三 コルドヌリ（靴屋） 1925年頃 油彩・キャンバス 54.0 × 47.0 茨城県近代美術館	N-48 小出楢重 毛糸の束 1926年 油彩・キャンバス 53.0 × 72.8 茨城県近代美術館	N-56 中村彝 裸体 1916年 油彩・キャンバス 99.8 × 80.5 茨城県近代美術館	A-27 工藤信太郎 パリのアコーディオン弾き 1932年 油彩・キャンバス 51.0 × 45.0 青森県立美術館
N-41 古賀春江 物乞い 1922年頃 油彩・キャンバス 71.0 × 90.0 茨城県近代美術館	N-49 藤田嗣治 花を持つ少女 1918年 油彩・キャンバス 65.4 × 54.0 栃木県立美術館	N-57 梅原龍三郎 裸婦図 1922年頃 油彩・キャンバス 117.0 × 91.0 茨城県近代美術館	A-28 松木満史 堤橋 1951年頃 油彩・キャンバス 50.0 × 60.5 青森県立郷土館
N-42 古賀春江 卓上静物 1924年頃 油彩・キャンバス 72.7 × 60.6 茨城県近代美術館	N-50 児島善三郎 婦人像 1925-28年 油彩・キャンバス 58.0 × 42.0 茨城県近代美術館	N-58 梅原龍三郎 臥裸婦図 1924年 油彩・キャンバス 45.5 × 60.5 茨城県近代美術館	A-29 今純三 バラライカ 1919年 油彩・キャンバス 89.0 × 71.0 弘前市立博物館

A-30
橋本花
卓上静物
1928年
油彩・キャンバス
90.9 × 116.7
青森県立美術館

A-38
棟方志功
雪国風景図
1924年
油彩・板
24.0 × 33.0
青森県立美術館

A-46
松木満史
野中の井戸
1938-39年
油彩・キャンバス
52.5 × 45.0
青森県立郷土館

A-54
鷹山宇一
都会風景
1930年
油彩・キャンバス
60.5 × 72.3
七戸町立鷹山宇一記念美術館

A-31
小林喜代吉
秋の郊外
1929年
油彩・キャンバス
113.5 × 145.8
弘前市立博物館

A-39
棟方志功
八甲田山麓図
1924年
油彩・板
23.5 × 33.0
青森県立美術館

A-47
松木満史
採集
1940年
油彩・キャンバス
116.7 × 80.3
青森県立美術館

A-55
鷹山宇一
放牧地への道
1925-27年頃
油彩・キャンバス
45.5 × 53.0
七戸町立鷹山宇一記念美術館

A-32
福田寛
T嬢の像
1930年
油彩・キャンバス
100.0 × 80.3
八戸市新美術館建設推進室

A-40
棟方志功
松原図
1925年
油彩・板
23.0 × 32.8
棟方志功記念館

A-48
松木満史
タンデム
1942年
油彩・キャンバス
60.5 × 91.0
青森県立郷土館

A-56
鷹山宇一
花
1932年
油彩・板
33.2 × 23.8
七戸町立鷹山宇一記念美術館

A-33
田澤八甲
庭の家族
1935年
油彩・キャンバス
162.1 × 112.1
青森県立美術館

A-41
棟方志功
善知鳥小品
1928年
油彩・板
24.0 × 32.5
棟方志功記念館

A-49
古藤正雄
山
1924年
油彩・キャンバス
73.0 × 53.5
むつ市

第3章 昭和2 時代の影

N-64
石井柏亭
霞ヶ浦航空隊行幸
1943年
油彩・キャンバス
112.0 × 212.0
茨城県近代美術館

A-34
小館善四郎
赤衣少女
1935年
油彩・キャンバス
91.0 × 72.7
青森市教育委員会

A-42
棟方志功
少女
1935年
油彩・キャンバス
162.7 × 130.9
棟方志功記念館

A-50
古藤正雄
静物
制作年不詳
油彩・キャンバス
53.0 × 45.5
むつ市

N-65
宮本三郎
落下傘部隊の活躍
1943年
油彩・キャンバス
112.0 × 162.0
茨城県近代美術館

A-35
小館善四郎
雪の日
1941年
油彩・キャンバス
116.7 × 80.3
青森市教育委員会

A-43
棟方志功
雙松・海「麻蒸」けよう浴衣
1940年
油彩・キャンバス
45.5 × 52.5
棟方志功記念館

A-51
古藤正雄
夏の光
1924年
油彩・キャンバス
50.5 × 63.0
むつ市

N-66
松本竣介
鉄橋近く
1943年
鉛筆・墨・紙
32.7 × 58.0
茨城県近代美術館

A-36
阿部合成
小さき埋葬
1939年
油彩・板
46.0 × 65.0
栃木県立美術館

A-44
松木満史
裸婦
1936年
油彩・板
24.0 × 33.0
青森県立美術館

A-52
古藤正雄
雪景色
制作年不詳
油彩・キャンバス
32.0 × 41.0
むつ市

N-67
松本竣介
霞ヶ関風景
1943年
鉛筆・墨・紙
32.7 × 58.0
茨城県近代美術館

A-37
阿部合成
田園
1939年頃
油彩・板
60.9 × 72.6
青森県立美術館

A-45
松木満史
少女
1936年
油彩・キャンバス
72.5 × 60.5
青森県立美術館

A-53
鷹山宇一
妹肖像
1925年
油彩・板
33.0 × 23.8
七戸町立鷹山宇一記念美術館

N-68
麻生三郎
男
1940年
油彩・キャンバス
91.0×72.7
茨城県近代美術館

N-69
北川民次
重荷
1946年
油彩・キャンバス
116.7×91.0
茨城県近代美術館

N-70
桂ゆき
ひまわり咲く午後
1948年
油彩・キャンバス
72.5×91.5
茨城県近代美術館

N-71
斎藤義重
あほんだらめ
1948年
油彩・キャンバス
60.5×72.7
青森県立美術館

A-57
工藤正義
毛皮の自画像
制作年不詳
油彩・キャンバス
45.5×38.2
弘前市立博物館

A-58
工藤正義
チャイナドレスの婦人像
制作年不詳
油彩・キャンバス
98.9×64.3
弘前市立博物館

第3章 昭和3 リセットと継続

N-72
麻生三郎
少女像
1960年
油彩・キャンバス
130.3×162.0
茨城県近代美術館

N-73
山口薫
雪原
1958年
油彩・キャンバス
53.0×65.0
茨城県近代美術館

N-74
堂本尚郎
1959-5
1959年
油彩・キャンバス
200.0×271.0
茨城県近代美術館

N-75
東郷青児
少女像
1963年
油彩・キャンバス
40.8×32.4
茨城県近代美術館

N-76
岡田謙三
ワン・デイ
1963年
油彩・キャンバス
140.7×104.0
茨城県近代美術館

N-77
岡田謙三
朝顔 No.5
1979年
油彩・キャンバス
80.5×65.5
茨城県近代美術館

N-78
元永定正
作品、1964
1964年
エナメル・キャンバス
92.0×130.0
茨城県近代美術館

N-79
三岸節子
魚のいる静物
1963年
油彩・キャンバス
100.0×80.3
茨城県近代美術館

N-80
斎藤義重
無題・赤
1966年
油彩・板
117.0×91.0
茨城県近代美術館

N-81
斎藤義重
無題・黒
1966年
油彩・板
117.0×91.0
茨城県近代美術館

N-82
林武
婦人像
1966年
油彩・キャンバス
89.0×71.0
茨城県近代美術館

N-83
脇田和
鳩舎
1967年
油彩・キャンバス
146.0×112.0
茨城県近代美術館

エピローグ 青森の色と形／ 描かれた故郷

A-59
工藤哲巳
増殖性連鎖反応 -1
1959年
油彩・キャンバス
119.4×59.2
青森県立美術館

A-60
小野忠弘
ポートレイト
1951年
油彩・キャンバス
116.3×90.5
青森県立美術館

A-61
村上善男
汎
1957年
油彩・キャンバス
73.0×100.0
青森県立美術館

A-62
佐野ぬい
青の裳
1964年
油彩・キャンバス
130.5×162.0
青森県立美術館

A-63
豊島弘尚
複眼を持つ頭部 64-C
1964年
油彩・キャンバス
162.0×130.3
青森県立美術館

A-64
月館れい
人と鳥
1964年
油彩・キャンバス
130.3×162.0
八戸市新美術館建設推進室

A-65
石橋宏一郎
いさばかが
1949年
油彩・キャンバス
162.0×130.3
八戸市新美術館建設推進室

A-66
奈良岡正夫
山羊
1959年
油彩・キャンバス
145.5×112.0
弘前市立博物館

A-67
渡辺貞一
貧しき漁夫
1962年
油彩・キャンバス
96.0×130.3
八戸市新美術館建設推進室

A-68
名久井由蔵
夜の宴
1968年
油彩・板
162.1×133.3
青森県立美術館

A-69
石ヶ森恒蔵
地蔵の庭
1968年
油彩・キャンバス
72.7×90.5
青森県立美術館

A-70
奈良岡正夫
岩木山
制作年不詳
油彩・キャンバス
32.0×41.0
青森県立郷土館

A-71 棟方寅雄 岩木山 1959年 油彩・キャンバス 50.0×60.6 弘前市立博物館	A-79 福勢喜一 奥入瀬 制作年不詳 油彩・キャンバス 91.0×116.7 八戸市新美術館建設推進室
A-72 葛西四雄 岩木山 1964年 油彩・キャンバス 112.0×162.0 弘前市立博物館	A-80 福勢喜一 十和田奥入瀬の冬 制作年不詳 油彩・キャンバス 91.0×116.7 八戸市新美術館建設推進室
A-73 棟方寅雄 深浦風景 1947年 油彩・板 24.0×33.5 弘前市立博物館	A-81 松木満史 奥入瀬 制作年不詳 油彩・キャンバス 65.3×53.0 青森県立美術館
A-74 名久井由蔵 鮫の港 1969年 油彩・板 40.9×31.7 八戸市新美術館建設推進室	A-82 棟方志功 奥入瀬・溪「阿修羅」 1938年 油彩・キャンバス 37.5×45.2 棟方志功記念館
A-75 棟方志功 八甲田山々裾（睡蓮沼） 1936年 油彩・板 22.5×31.5 棟方志功記念館	A-83 棟方志功 奥入瀬溪流図 1938年頃 油彩・板 24.0×33.0 青森県立美術館
A-76 棟方志功 八甲田山 1943年 油彩・キャンバス 45.5×52.5 棟方志功記念館	A-84 今純三 暗門の滝 1924年 油彩・キャンバス 90.0×60.0 弘前市立博物館
A-77 石ヶ森恒蔵 奥入瀬錦秋 1971年 油彩・キャンバス 96.0×130.0 青森県立美術館	
A-78 橋本花 奥入瀬溪流 制作年不詳 油彩・キャンバス 80.0×116.8 青森県立美術館	

掲載記事

東奥日報

2017年8月24日

夢に挑む 洋画をめぐる画家たちの冒険～明治・大正・昭和 日本と青森の近代洋画史～

2017年9月17日

夢に挑む 洋画をめぐる画家たちの冒険～明治・大正・昭和 日本と青森の近代洋画史～
前売券好評販売中！

2017年9月21日

日本と青森の近代洋画史 青森県立美術館
23日から企画展

2017年9月23日

近代洋画 時代でたどる 県美 きょうから
企画展

2017年10月17日

県立美術館企画展 夢に挑む 洋画をめぐる
画家たちの冒険 上 先駆者の挑戦

2017年10月18日

県立美術館企画展 夢に挑む 洋画をめぐる
画家たちの冒険 中 夢の軌跡

2017年10月19日

県立美術館企画展 夢に挑む 洋画をめぐる
画家たちの冒険 下 青森県の洋画

2017年10月27日

県美企画展 夢に挑む 洋画をめぐる画家た
ちの冒険 私のお気に入り 《大洗の日の出》
藤島武二 分厚い塗でも繊細

2017年10月28日

県美企画展 夢に挑む 洋画をめぐる画家た
ちの冒険 私のお気に入り 《蕪島》福田寛
曇った空の色がいい

近代洋画展 5千人突破 県美 山上さん
(弘前) に記念品

2017年10月29日

県美企画展 夢に挑む 洋画をめぐる画家た
ちの冒険 私のお気に入り 《窓外夏景》岸
田劉生 「切り取る力」すごい

新美術新聞

2017年9月1日

東北 北海道 PICK UP 夢に挑む 洋画
をめぐる画家たちの冒険～明治・大正・昭和
日本と青森の近代洋画史～

陸奥新報

2017年9月10日

日本の近代洋画一堂に 県美で23日から企
画展 本県ゆかりの作家作品も

函館新聞

2017年10月3日

道南ネット 暮らしアクセス 企画欄 日本
と青森の近代洋画展紹介

2017年10月8日

近代洋画の歩み感じて 青森県立美術館企画
展 招待券を5人にプレゼント

2017年10月13日

夢に挑む 洋画をめぐる画家たちの冒険～明
治・大正・昭和 日本と青森の近代洋画史～
2017.11.5（日）まで

北鹿新聞

2017年10月12日

イベント散歩 「夢に挑む 洋画をめぐる画
家たちの冒険 ～明治・大正・昭和 日本と
青森の近代洋画史～」紹介

毎日新聞

2017年10月26日

県立美術館企画展 洋画めぐる画家の軌跡
「ゴッホに憧れ」棟方の作品など

平成 29 年度コレクション展 Permanent Exhibition 2017

コレクション展 I

ラブラブショー2 関連企画

Dialogues ダイアローグズ —作家たちの対話から

2017年3月11日(土) — 7月2日(日)

親密な交流を持った作家同士、同じ問題意識で結ばれた作家同士、あるいは一緒に作品を制作する過程で心を通わせた作家同士。

青森県立美術館の収蔵作品を中心に、春の企画展「ラブラブショー2」にちなみ、2人の作家の組み合わせで展示を構成し、作家同士の対話から浮かび上がるものをさぐります。

また、棟方志功展示室では昨年度から寄託を受けた、棟方の著名なコレクターである小林正一氏の「小林コレクション」を特集で展示いたします。

◆展示室 I | 寺山修司×森山大道：裏町人生

寺山修司と生前より親交が深く、多くの仕事をともにしてきた森山大道。かつて寺山修司と森山大道による『あゝ、荒野』を造本した町口覚によって再び寺山の「言葉」と森山の「写真」を組み合わせた写真集『Daido Moriyama : Terayama』(マッチアンドカンパニー)が2016年に刊行されました。スポーツの世界で燃えつきたヒーローをめぐる短編集『スポーツ版裏町人生』(1982年)から「友よいずこ」「小指の辰」「忘却の土俵入り」「夕陽よ、急ぐな」「牙」の5篇とこの本のために森山大道と町口覚が選んだ100余点の写真が、見る者を裏町の世界へと引き込みます。異なるジャンルながら表現の濃厚さが際立つ2人の個性と個性がぶつかり強烈なエネルギーを発する写真集です。

このコーナーでは、『Daido Moriyama : Terayama』をもとに展示としての再構成を試みます。表紙に使われた森山の代表作でもある《三沢の犬》(1971年)の他、森山自身によるニューブリントの写真と寺山の鋭い言葉が融合、呼応し、圧倒的な迫力をもって散っていったスポーツマンたちの裏町人生が迫ってくることでしょう。ふたつの芸術が交わることで力強く生まれ変わった表現世界を体感してください。

◆展示室 J | 白木茂×馬場のぼる：てんぐのめんの宇宙人

白木茂は、数多くの優れた児童文学作品の翻訳、紹介に尽力した翻訳家・児童文学者です。

白木茂と馬場のぼるとの出会い、戦後まもなくの頃に遡ります。終戦に伴い地元三戸町に帰郷し、独学で漫画の勉強をして

いた馬場は、当時、家族とともに同町で生活を送りながら文学活動をしていた白木と知り合います。いち早く馬場の才能を見出した白木は、大阪の出版社を紹介、1948(昭和23)年に馬場の処女作となる赤本漫画『怪盗カッポレ団』(昭文社)が出版されます。そして、翌年には馬場は漫画家を志して上京。白木の紹介により小学館に原稿を持ち込み、学年誌等の仕事を得た馬場は、その後、着実に漫画家への道を進んでいくこととなりました。

『てんぐのめんの宇宙人』は、1969(昭和44)年、小学校低学年向けの創作SF童話集として岩崎書店より刊行された「SFえどうわ」シリーズのうちの一冊です。本シリーズは、国内の作家による創作物の他、H・G・ウェルズ、ジュール・ヴェルヌ等の作品に、井上洋介、長新太らが挿絵をつけた魅力的な作品群で、多くの子どもたちをSF文学の世界へと誘う入門書的な役割を果たしました。特に白木は、児童文学の世界ではSFが異端視されていた時代からその魅力をいち早く認め、子どもたちに向けたSF作品の翻訳・出版の企画に数多く携わりました。

「きたぐにのちっちゃな町」に住む小学生のくどうひろしくんと、その町のはずれに降り立った4人の宇宙人たちとの不思議な交流を描いた本作は、白木と馬場による唯一の共作となりました。

*今回の出品原画は、1986年の再版時に描き改められたものになります。

◆展示室 L | 今純三×関野準一郎：町を写す

今純三は、戦前、青森において銅・石版画の研究、制作に取り組んだ日本を代表する版画家の一人です。

特に、『青森県画譜』*は、青森の自然や名所、風物等を銅・石版画を用いて描いた全100枚から成る作品集で、青森県の歴史資料としても重要な意味を持った純三の代表作ですが、その制作の背景には、純三の兄、今和次郎の存在がありました。

和次郎は、昭和初期の急速に大都市化していく東京の街や人々の生活の変化を採集・分析した「考現学」の創始者であり、また、民家研究の分野でも重要な足跡を残しました。

純三は、和次郎の考現学調査に協力し、青森での採集の成果を和次郎の許に送っています。こうした仕事とおして、青森の現在の姿を自らの手で記録しておくことの重要性を強く意識したことも、『青森県画譜』を制作するに至ったきっかけの一つとなりました。

一方、純三は自らの持つ知識や技術を広く普及することにも力を尽くしました。当時、純三のアトリエには、画家を志す若者

達が訪れ、創作について学んだといわれています。その中には、戦後、日本近代版画の発展の一翼を担った関野準一郎の姿もありました。

今純三のアトリエに足繁く通い、その制作の姿をつぶさに見ていた関野もまた、人々の暮らしの息遣いを感じさせる町の風景を愛し、生涯描き続けた作家でした。

*《青森県画譜》は、今純三自身により原作品をさらに石版画で大量印刷したものであり、昭和8年10月（第1集）から翌9年10月まで一ヶ月一集（8点～10点所収）の割合で、東奥日報社より刊行された。

◆展示室 M | 小館善四郎×阿部合成：太宰治、われらが共通の友
この展示室では、太宰治と交友のあった本県の画家二人を組み合わせ展示します。

太宰の親戚で、帝国美術学校時代に東京で太宰と親しく交流した洋画家、小館善四郎は、太宰の伝記には必ず登場します。後年は梶井基次郎の小説『檸檬』からインスピレーションを得、檸檬をモチーフとする静物を数多く描き、「れもんの画家」として知られています。

今回は小館が得意とした静物に加え、小館の兄に嫁いだ太宰の姉の娘の少女（太宰と小館の共通の姪）を描いた数点の作品を展示しています。身近な人物を描いたときの優しく暖かな視線は、彼のもう一つの面を見せてくれます。

阿部合成は太宰と青森中学時代の同級生であり、文章もよくした合成と、美術にも関心をもっていた太宰は、同人雑誌『星座』を共に発行する友人であり、ライバルでもありました。

彼らは昭和12年頃東京で再会し、詩人・評論家の山岸外史も交え、親密な友情を結びます。太宰のいくつかの作品の登場人物には彼の面影が指摘されています。合成が召集され出征する際には、彼らは風呂に入るとともに身体を洗い合い、別れを惜しんだというエピソードがあるほどあつい友情で結ばれていました。

ここでは人生と格闘するような合成の情熱にあふれる牛の屏風2点、太宰の思い出を彷彿とさせる《海をみる詩人》、そして金木公園の太宰治碑のアイデアスケッチなどを展示します。

◆展示室 P、Q | 立石大河亞×中村宏：観光

1950年代には「ルポルタージュ絵画」を手がけていた中村宏は、やがて政治、社会状況などの外的要因に左右されない芸術のあり方を模索するようになり、1960年代には記憶の果て、意識の奥底にあるフェティッシュなモチーフ、すなわち「女学生」、「機関車」、「飛行機」、「便器」、「眼鏡」といった「呪物」を導き出し、それらを様々な組み合わせた「精神の地形化」とも言うべき観念的風景画を制作するようになっていきました。中村の描く風景画は、「観賞」という行為によって自身の深い内面から導き出された「呪物」に満たされた人工の自然であり、その「蘇生」した「覚醒的物質」の組み合わせが生み出す様々な物語は見る者の想像力を様々な刺激します。つまり中村は、こうした描写をとおして「絵画のための絵画」を追求したと言えます。「念じるものを観る」というこうした観念絵画はやがて「光

を観る」と翻案されて、1964年に立石紘一（後に「立石大河亞」と改名）と「観光芸術研究所」を設立します。

立石大河亞はレットルを貼られることを常に拒み続けた作家であり、立石紘一、タイガー立石、そして立石大河亞と改名を繰り返しつつ、油彩、彫刻といった旧来的な美術の枠組みに収まらないユニークな作品を手がけ、さらには漫画やデザイン、絵本といった分野でも活躍しました。表現領域は多岐にわたりましたが、時間と空間、事象や観念の集積による視覚と思考の回路が幾重にもはりめぐらされ、どこまでも「観ることの快楽」が追求されている点はすべての作品に一貫しています。

中村と立石が示した「光を観る」という視点による「観光芸術」とおして、「見る」という行為、そして「観光」という概念について、今一度考えてみてください。

◆棟方志功展示室 | 小林コレクションを中心に

棟方志功は多くの文人との交友がありました。

歌人の小林正一氏もそのひとり。その交友は、1959年頃、小林氏が日本経済新聞の歌壇欄に棟方作品を詠んだ歌「志功描く女の顔はいとあやし 遊女とも見ゆ 菩薩とも見ゆ」を投稿したところから始まります。

この歌が第一位に選ばれたことがきっかけとなり、小林氏は荻窪の棟方の自宅を訪ね、交友が始まりました。このときの選者は吉井勇。やはり棟方と交友があった歌人で、今回、吉井の歌に棟方に板画を彫った「流離抄」も展示されています。

棟方と小林は意気投合し、1962年頃からさらにその交際は深まっています。小林は詠んだ歌を棟方に送り、棟方が気に入ったものを気の向くままに板画とし、20点をまとめて《山懐頌》としました。

このほかにも小林は数多くの棟方作品を収集していますが、板画だけでなく、棟方に依頼して描いてもらったという肉筆画はとりわけ優れたものです。小林氏は長野県野沢温泉村の出身で、1973年には棟方の信州スケッチ旅行の案内もしています。今回は、今年度から寄託いただいている小林コレクションを中心に、青森県庁舎が落成した際に制作された「花矢の柵」など代表作を展示します。

【通年展示】

◆展示室 F、G | 奈良美智 《Puff Marshie》《Hula Hula Garden》
国内外で活躍する青森県出身の美術作家・奈良美智（1959-）は、挑むような目つきの女の子の絵や、ユーモラスでありながらどこか哀しげな犬の立体作品などで、これまで若い世代を中心に、多くの人の心をとらえてきました。

青森県立美術館では、開館前の1998年から、絵画やドローイングなど、奈良美智作品の収集を始めました。現在、170点を超えるそのコレクションの多くは、奈良が1988年から2000年まで滞在したドイツで生み出されたものです。

この展示室では、当館がほこる奈良美智の90年代のコレクションを中心に、《Puff Marshie（パフ・マーシー）》（2006年）や《Broken Heart Bench（ブローケン・ハート・ベンチ）》（2008年）など、作家からの寄託作品も展示しています。

◆アレコホール マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」
の舞台背景画

美術館の中心には、縦・横 21m、高さ 19m、四層吹き抜けの大空間が設けられています。アレコホールと呼ばれるこの大きなホールには、20 世紀を代表する画家、マルク・シャガール (1887-1985) によるバレエ「アレコ」の背景画が展示されています。この背景画は、ロシア (現ベラルーシ) のユダヤ人の家庭に生まれたシャガールが、第二次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害から逃れるため亡命していたアメリカで、「バレエ・シアター (現アメリカン・バレエ・シアター)」からの依頼で制作したものです。大画面の中に「色彩の魔術師」と呼ばれるシャガールの本領が遺憾無く発揮された舞台美術の傑作です。

コレクション展Ⅱ

遙かなるルネサンス展関連企画 信仰の旅路 — Routes of Faith
会期：2017年7月8日（土）－9月10日（日）

旧く人は、自らが信じるものを求めて旅を重ねてきました。
コレクション展第2弾では、夏の企画展「遙かなるルネサンス 天正遣欧少年使節がたどったイタリア」にちなんで、「信仰」や「旅」をキーワードに作品を展示します。本展は己の信念のもとに生きた県ゆかりの美術家らの軌跡、戸来村（現・新郷村）のキリストやピラミッド伝承、小川原湖の姉妹伝説といった説話断片をもとに構成されます。本展は、ルネサンスの「豊穡なる美の世界」の裏に息づく青森の芸術世界を旅する、道しるべの一つとなることでしょう。

展示室N | まぼろしの地誌 — Dreamlike Topography

戦前戦後にかけての青森。故郷・十和田を愛し、そこに「ピラミッド」や「キリストの墓」の存在を主張した日本画家がいました。名を鳥谷幡山。彼が風光明媚な十和田湖の風景から見出した上記のイメージは、強烈な土地の幻影といえます。

同じ頃、青森と東京を行き来しながら確かな技巧と造形意識のもとに、故郷・青森を写し続ける写真家がありました。名を小島一郎。その写真に焼き付けられるのは時に土地そのものであることを越えて、強固にして劇的な小島の眼差しが編んだ「青森」イメージの結晶といえそうです。

鳥谷と小島の青森。作家の土地に対する強烈な信念（信仰）と視線により編み出されたイメージの数々は、並置されることで奇妙な共振を始めるように思われます。本章では両者の作品を「まぼろしの地誌」という言葉で束ね、鳥谷が十和田湖を描いた作品群と霊妙なテキストの数々、そして小島の作品の中から特に造形への意識を感じさせる写真作品を紹介し、青森の土地イメージのありかを問います。

出品作家：鳥谷幡山、小島一郎

棟方志功展示室（前半） | 世界の破れを担うのは — Who Bears the Rupture of the World ?

1953年、十和田湖ほとりに《乙女の像》が完成しました。作者は詩人・彫刻家の高村光太郎。向き合う乙女の姿は、人と土地との調和空間を暗示しているかのようです。

高村の助手に野辺地町出身の彫刻家・小坂圭二がいます。小坂は彫刻がつくる空間に自身の信仰の「よすが」を見出しました。キリスト教的モチーフによる小坂作品からは、彫刻がつくる空間と、その背後に広がる宇宙的空間との共鳴を感じ取ることができます。加えて作品に現れる激しい線。そこには作家自身の中国やラバウル（バブアニューギニア）での戦争体験の影を見ることができます。こうして、いわば「調和と混沌」が同居する小坂作品には、「信仰と戦争」という個と社会にまつわる二つの極限体験の間で引き裂かれ、そして両者の裂け目（破れ目）を担う人間存在が表現されているといえます。

本章では小坂作品を軸に、高村の《乙女の像》から派生した彫

刻作品《手》と、小坂が師事した阿部合成のメキシコにおける土着的キリスト教に根ざした作品群を紹介します。様々な「裂け目」や「距離」をもとに、作品がもたらす「空間」（土地のありか）について考えます。

出品作家：高村光太郎、小坂圭二、阿部合成

棟方志功展示室（後半） | あらゆるものに祈りを Prayer for All Things

棟方は板画の作品名に「～の柵」と付しました。「柵」は四国巡礼をする人が寺に納める札のことで、「一柵ずつ、一生の間、生涯の道標を一つずつ、そこへ置いていく。作品に念願をかけておいていく」という思いを表したものです。この柵を置く行為は「際々無限に」続いていくと棟方は述べています。棟方にとって人生の道程は美の巡礼の旅でありました。

棟方作品には神仏を描いた作品がたくさんあります。昭和11年、京都にある陶芸家・河井寛次郎の自宅に約40日間滞在。その間、河井から禅書の講義を受け、社寺仏閣を巡るなど宗教というものを身近にし、このことが後の作品に生かされることとなりました。華嚴経、観音経、般若心経の経典や、時にはキリストなどをも題材にしていきます。

棟方は描きおわると世のあらゆるもの、森羅万象に手をあわせました。それが棟方の祈りだったのです。

出品作家：棟方志功

展示室M | 信仰の旅路 — Routes of Faith

1987年、小坂圭二は小川原湖に伝わる姉妹の伝説に取材し、二体の彫刻を制作します。父を探して諸国をめぐる旅路の果てに「姉沼」「妹沼」に身を投げた二人。その後小川原湖に名を変える「妹沼」のほとりで小坂は何を考え、制作したのでしょうか。

旅は連鎖反応の如く人と人、人と土地をつなぐもの。小坂と阿部の弟子の一人に、若き日の成田亨がいました。二人から芸術家としての態度や技術を学んだ成田は、その信仰にも似た芸術への信念を、自らのデザイン画や彫刻作品に託します。

本章では小川原湖姉妹伝説に基づく小坂の彫刻を軸に、成田のドローイング作品を展示することで、芸術家としての信念から青森の土地の姿を逆照射することを試みます。成田の仏像をモチーフにしたウルトラマンや異界のヒーローたち、鉱物や動植物を着想源とした怪獣たち。それらは悩み迷いながら自らの「信仰の旅路」を生きた芸術家自身の化身であると同時に、多様な歴史や信仰を巻き込んで存在する青森という土地の複合性そのものといえるように思われます。本展の「信仰の旅路」を通じて土地を見出す、ということ。それは今語られるものと異なる、土地にまつわる（もう一つの）芸術世界を旅することにつながっているのです。

出品作家：小坂圭二、成田亨、阿部合成

コレクション展Ⅲ

破壊と創造：1950－1960年代の日本美術

会期：2017年9月16日（土）－12月10日（日）

特集展示は企画展「夢に挑む 洋画をめぐる画家たちの冒険～明治・大正・昭和 日本と青森の近代洋画史～」展に連動し、「その後」の日本美術の流れを振り返ります。1950年から60年代にかけて起こった様々な表現の動向を、工藤哲巳、豊島弘尚、寺山修司とその周辺の仕事をとおして伝えます。

展示室 N・棟方志功展示室 | 棟方志功と青森の画家：野澤如洋、蔦谷龍岬、松木満史

棟方志功は1964年に出版された自伝『板極道』で、「忘れることのできない二人の郷土の画家」として、野澤如洋と蔦谷龍岬の名を記しています。

野澤如洋は速筆による馬の絵で知られますが、棟方は花鳥が彼の得意であったと信じていると書いています。如洋は、明治以降、西洋美術の影響も受けながらさまざまな新しい試みがなされた日本画の世界において、あえて水墨画にこだわり、新たに生まれた官展に背をむけ、独自の世界を描き続けました。時代の趨勢からいえば異端ともいうべき如洋ですが、より大きな東洋古来の水墨画の伝統に忠実であったともいえるでしょう。蔦谷龍岬は文部省美術展覧会（文展）の第9回展で「静日」が初入選して以降、一貫して官展系の展覧会を舞台に活躍した作家です。龍岬は次々と特選を重ね、やがて委員や審査員も歴任するなど将来を嘱望されましたが、1933年、惜しくも48歳の若さでこの世を去りました。ここでは、棟方が「わたくしにとくに感じ深く想わせた」と書いている代表作『霜の大原』と同主題で描かれた軸をはじめ彼が得意とした、大和絵を参考にしつつ、そこに豊かな詩情をただよわせた画風による作品を展示します。

棟方志功の親しい友人であり、青森県の近代洋画の発展において、もっとも重要な役割をはたしたのが松木満史でした。松木は、志功とともに青森市で美術団体「青光画社」をたちあげた最初期からの画友であり、棟方と競い合うように上京し、国画会に所属した松木は、1938年、フランスに渡り、油彩の本場で学びますが、戦争の激化により志半ばで帰国。その後は青森市に美術研究所を作り、芸術への厳しい姿勢を保ち、数多くの後進を育てました。ここでは、彼が戦前、東京で交友のあった中里村（旧中泊町）出身で、青森県ではじめてオリンピックに出場した陸上競技選手である井沼清七氏に贈った小品『スイトピー』他、彼の戦前から戦後への歩みをたどる油彩画を展示します。

本コーナーでは、これら棟方志功の思い出に残る3人の青森の画家を展示すると共に、棟方の大正期の素朴な少女のスケッチや松木のチョッキに描いた倭画、戦前と戦後の油彩画等を展示し、世界のムナカタへいたるみちのりを紹介します。

展示室 P | 花粉の季節：今井俊満と日本の「アンフォルメル」
「アンフォルメル」とは第二次大戦後、50年代から60年代にかけてのフランスを中心にヨーロッパで勃興した前衛芸術運動です。「アンフォルメル（非定形）」の名が示すとおり非具象的な画面を特徴とし、アメリカでは抽象表現主義とよばれて後の現代美術の動向を準備するなど、国の境を越えた世界的芸術運動へと展開しました。

アンフォルメルは当時日本の前衛の芸術家たちにも多大な影響を与えました。その一人が今井俊満です。激しく時に繊細な筆さばきによる重厚なマチエールからなる今井独自の絵画空間は、日本のみならずアンフォルメルを代表するものとなり、日本とヨーロッパの前衛芸術をつなぐ架け橋となりました。

本章は今井を筆頭に、同時代日本のアンフォルメルの旗手として名を馳せた頃の難波田龍起、県にゆかりの小野忠弘の作品を紹介することで、アンフォルメルの日本受容の一端を紹介するものです。難波田の作品に見るアンフォルメル以前の構成主義的な絵画空間からアンフォルメルの空間へと至る変化、小野の作品に見る後の物品を組み合わせてつくる「ジャンク・アート」的なマチエールやタイトルから伺うことのできる叙情への志向は、アンフォルメルの芸術様式が芸術家の表現を変化させ、次の表現を準備するための重要な媒体となっていたことを示しています。

展示室 Q | 播かれた種子：グループ「新表現主義」と豊島弘尚
「新表現主義」は県ゆかりの画家・豊島弘尚が同世代の芸術家らと開催したグループ展の名称です。1957年の第1回展以降、「新表現」と名を変えながら1985年の第9回展まで開催されました。当時前衛を「絶えざる価値概念の変革」とし、そこで展開された活動を「カラ回り」「観念のみの遊戯」として批判、自らの「内発の声」に耳を傾ける制作態度(*)は、当時世界の芸術動向を席卷していた「アンフォルメル」や同郷の工藤哲巳を代表とする「反芸術」と並走しながら、そのいずれとも一線を画す、鬼子的な芸術動向といえます。

本章では豊島を軸に針生鎮郎、松本英一郎（いずれも1960年から参加）の仕事を当時と後の作品ともに紹介することで、グループ「新表現主義」が戦後の日本美術において果たした役割を考察します。身体への志向をキャンバス上に再構成、やがて「種子」をめぐる想像や北欧の大地とオーロラを媒体に、未見の大地を絵画空間に現出させた豊島。アンフォルメルから出発した鮮烈な色彩に基づきながら土俗性を感じさせる画面を追求した針生。身体フォルムと絵画空間の交差からやがて独自の風景を展開させた松本。「新しい“いのち”は、新しい衝動からしか生まれえない。その地平を“芸術”と呼ぶ」(**)。作品の空間構成においてどこか響き合うものを感じさせる三者の表現からは、己の存在論ともいうべき芸術世界を開花させようとした、当時の芸術家たちの矜持が見て取れるようです。

*福島瑞穂「グループ『新表現主義』と豊島弘尚」『豊島弘尚－北の光と三つの故郷－』（八戸市美術館、2015）p.49

**豊島弘尚「〈その声の終わりに〉水性の星」『極光ありて』（NOTHERN LIGHT、2013）p.51

展示室 M | 成田亨：怪獣デザインの美学

成田亨（1929-2002）は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督です。

成田は神戸市に生まれ、直後に青森県へ移りました。旧制青森中学（現青森高等学校）在学中に画家・阿部合成と出会い、絵を描く技術よりも「本質的な感動」を大切に考える考え方を、さらに彫刻家の小坂圭二から対象物の構造や組み立て方、ムーブマンを重視する方法論を学んだ後、武蔵野美術学校（現武蔵野美術大学）西洋画科へと進学。当初は油彩画を専攻していましたが、「地面から立ち上がるようなデッサンを求める」（成田）ため3年次に彫刻科へ転科。具象性を維持しつつもフォルムを自在に変容させ、動のかつ緊張感ある構成を作り上げていくという成田芸術の基礎がここで形づくられていきました。

武蔵野美術学校研究科に在籍していた1954年、成田は人手の足りなかった「ゴジラ」の製作に参加、そこで円谷英二と出会い、以降特撮美術の仕事も数多く手がけるようになります。

1965年、東宝撮影所で円谷英二と再会し、「怪獣のデザインはすべて自分がやる」という条件のもと「ウルトラQ」の2クールから制作に参加、以降「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」までのシリーズに登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニック等のデザインを手がけます。放映に際し、「これまでにないヒーローの形を」という脚本家・金城哲夫の依頼を受けた成田は、ウルトラマンのデザインを純粋化という「秩序」のもとに構築し、対する怪獣のデザインには変形や合成といった「混沌」の要素を盛り込んでいきます。

美術家としての高い感性によってデザインされたヒーロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在する動植物を引用して生み出される形のおもしろさが特徴です。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから「フォルムの意外性」を打ち出していくというその一貫した手法からは成田の揺らぐことのない芸術的信念が読みとれるでしょう。

展示室 J | テラヤマ：ジャパン・アヴァンギャルド

寺山修司（弘前市出身／1935-83）は県立青森高等学校時代、「俳句」によって表現活動をはじめ、早稲田大学進学後は「短歌」の世界へ、その後凄まじいスピードでラジオ、テレビ、映画、そして競馬やスポーツ評論の世界を駆け抜けていったマルチアーティストです。1967年には「演劇実験室◎天井桟敷」を立ち上げ、人々の旧来的な価値観に揺さぶりをかけ、さらには多岐にわたる活動の中、美術、デザイン、音楽といった様々なジャンルで新しい才能を発見し、育てていったことも特筆すべき業績の一つと言えます。

1960-70年代はいわゆるアングラ文化が全盛の時代でした。高度成長によって近代化が急速に進む一方、社会的な構造と人間の精神との間に様々な歪みが生じ、そうした近代資本主義社会の矛盾を告発するかのよう権力や体制を批判、従来の価値観を否定していく活動が盛んとなっていったのです。特に寺山は大衆の興味や関心をひきつける術に特異な才能を発揮しまし

た。演劇や実験映画ではそれが顕著で、演劇、映画のあらゆる「約束事」が否定され、感情や欲望を刺激するイメージで覆い尽くされた寺山の斬新な作品は多くの人々を虜にしていきました。このコーナーでは、寺山が主宰したアングラ文化の象徴とも言うべき「演劇実験室◎天井桟敷」のポスター11点を紹介します。

展示室 I | いざ、独立のとき：工藤哲巳と「アンデパンダン」の作家たち

「アンデパンダン」とは1884年以降フランス・パリで開催されている、無審査・無報酬で、会費を払えば誰でも出品可能な美術展の総称です。印象派以後の若い芸術家たちの登竜門として機能し、日本でも1947年から日本美術会の主催で同形式による「日本アンデパンダン」が始まり、後に「読売アンデパンダン」をはじめ全国各地で同形式による様々なアンデパンダン展が勃興しました。

若手芸術家の自由な表現の場として機能していたアンデパンダンは先鋭化の一途を辿り、受入先の美術館との軋轢などを抱えながらも、やがて県ゆかりの芸術家・工藤哲巳を旗手とする「反芸術」などの芸術動向を生み出します。反芸術が志向する既存の文明観・社会観の解体を試み、芸術を人の日常や社会全体の中で捉え直す特徴は、今日まで続く現代美術の胎土となりました。

本コーナーでは工藤哲巳作品を軸に、「読売アンデパンダン」をはじめ50年代60年代日本各地のアンデパンダン展に参加した芸術家の作品を、当時の作品とそこからの発展を見て取ることで後の作品を交えて展示します。そうすることで美術批評家・東野芳明が工藤の作品を描写し、反芸術の世界観を表した言葉「ガラクタの廃墟から根生えた強烈な観念の世界」と現実とを改めてつなぎ、当時の時代精神と芸術活動との関わり的一端を照射し、戦後の日本美術における「独立」について考察を試みます。

コレクション展Ⅳ

アーティストの眼

会期：2017年12月16日（土）－2018年3月4日（日）

展示室 N、棟方志功展示室 | 棟方志功のデザイン力

棟方志功のデザインの仕事は幅広く、ポスター、包装紙などのパッケージ、本の装幀、舞台の緞帳、着物や帯の手描き模様、陶芸の絵付けなど多方面に及んでいる。

なかでも棟方がデザインした装幀や挿絵の仕事は、生涯 1000 冊近くにも及んだと言われ、それはもともと棟方自身が文学に大変関心が深かったことに加えて、棟方と多くの文化人たちとの活発な交流がもたらしたものだ。装幀の仕事の転機となったのは、ひとつは戦争末期に疎開先として選んだ富山県福光町（現・南砺市）にいた時期で、板木の入手が困難なことから、端材を活かす苦肉の策として手摺り、手彩色、手綴じの「板画本」を制作、今では入手困難な幻の本が生まれるきっかけとなった。もうひとつは、昭和 30 年代に入り、谷崎潤一郎が雑誌に連載する描き下し小説『鍵』の挿絵作家として棟方を指名したところ、小説の内容とあいまって連載当初から評判を呼び、棟方は装幀作家としても人気を得ることとなった。

今期の展示では、デザイナーとしても優れた力を発揮した棟方の様々なデザインに関する仕事を紹介した。

展示室 P | 菊地敦己 ファッションブランドのためのデザイン

菊地敦己（1974-）は、青森県立美術館の VI 計画を担当するアートディレクター／グラフィックデザイナー。美術館全体の体験をイメージとして伝達していくことを意図してデザインされたシンボルマークやロゴタイプ、サイン等は美術館の建物や周囲の環境と調和しながら独自の景色を作り出し、開館以来多くの来館者に親しまれている。

菊地はまた、美術やファッション、建築などの分野のグラフィックデザインを多く手がける他、グラフィックデザインそのものを考察する作品制作や発表も行っている。

今期の展示では、2つのファッションブランド「ミナペルホネン」「サリー・スコット」のために制作されたポスターを紹介した。

展示室 Q | 成田亨 怪獣デザインの美学

（コレクション展Ⅲと同内容。※展示作品は異なる）

展示室 M | 小島一郎 昭和 30 年代の津軽と下北

大正 13（1924）年、青森市大町で、玩具と写真材料を扱う商店の長男として生まれた小島一郎（1924-1964）は、青森県立商業学校（現：青森県立青森商業高等学校）を卒業後、出征。戦後の混乱期を経て、昭和 29 年頃から本格的に写真を始めた。郷土、青森に生きる人々への深い共感を、覆い焼きや複写の技法を駆使しながら、印画紙に刷り込むようにして力強く焼きつけた写真の数々は、39 歳という早すぎる死の後、展覧会や写真雑誌で取り上げられ、近年その評価は高まり続けている。日本が高度経済成長を迎えていた昭和 30 年代、地方の農村か

ら多くの人々が大都市へと流出し、長く続いてきた農村や漁村の暮らしは急激な変化の波にさらされることになった。こうした時期、カメラを手に県内を歩き続けた小島の眼差しは、萱葺屋根の家、念仏講に集う人々、農作業に従事する大人たちとその傍らにいた子どもたちなどに向けられていた。そこから生み出された写真の 1 枚 1 枚が、その後しだいに姿を消すことになる農村、漁村の共同体の記念すべきポートレートとなっている。

展示室 L | 石井康治：詩・季・彩ー春を待つ

「色ガラスを用いて自分のイメージを詩のような感じで作りたい。」石井康治（1946-1996）は、1991 年、今、県立美術館が建つ場所に程近い、青森市内に工房を構え、1996 年に急逝するまで、この地で精力的にガラスの素材と技法について研究を重ね、青森の四季と風土を彩り豊かなガラス作品にうつし取っていった。

青森の自然に魅せられた石井の制作は、ドローイングやデッサンなどで自然を写生することからはじまり、工房で熱したガラスを中空の棹に巻き取り、息を吹き込んで膨らませ、そこに選び抜いた色ガラスを溶着させ、イメージしたかたちを作りあげていく。光と風が織りなす北国の四季から受けたインスピレーションは、繊細な感性と優れた造形感覚、そして確かな手の技に裏打ちされつつ、自然との対話、ガラスという素材との対話を通して作品に結実していった。

自らの創作テーマを「詩・季・彩」という言葉で語っていた石井の作品は、彼が愛した青森の四季を謳う一篇の詩のように、私たちに語りかけてくる。

石井がガラスで描き上げた四季から、今回は冬をテーマに、多彩な雪の表象とともに春を待つ想いを紹介した。

展示室 J、I、H | バージニア・リー・バートン 『ちいさいおうち』をかいたひと

1942 年、アメリカで出版された絵本『ちいさいおうち』。小高い丘のうえにたつ「ちいさいおうち」を主人公に、移りゆく時間の流れと広がりを見事に表現した本作は、1954 年に日本でも翻訳・出版され、以来、多くの人々に愛され続けている。

この絵本の作者、バージニア・リー・バートン（1909-1968）は、多くの名作絵本が誕生した 20 世紀前半のアメリカ絵本黄金期を代表する作家の一人。バートンは、生涯に 13 冊の子どもための本を残したが、それらの作品からは、私たちが生きる世界の真の姿を生き生きとした描写によって子ども達に伝えようとする作家の強いエネルギーを感じることができる。

一方、バートンは絵本作家としてだけでなく、デザイナーとしてテキスタイルやグラフィックの世界でも活躍した。とりわけ、バートンが近所に住む主婦たちのために始めたデザイン教室を母体として、1941 年に結成された芸術集団「フォーリーコーブ・デザイナーズ」の活動は、手仕事のあたたかさや作品としての質の高さによって国際的にも知られる存在となった。

本展示では、『ちいさいおうち』の原画を中心に、絵本のためのスケッチや「フォーリーコーブ・デザイナーズ」で制作したテキスタイル、ペーパーワークの作品資料等を紹介した。

特別協力：公益財団法人ギャラリーエークウッド

協力：アリスティデス・デメトリアス / ミネソタ大学図書館
カーランコレクション / 公益財団法人東京子ども図書館 / 宮
城正枝 / 田中厚子 / 木城えほんの郷 / 教文館ナルニア国

アグロス・アートプロジェクト 2017

明日の収穫〈種まき編〉

アグロス・アートプロジェクト 2017 明日の収穫〈種まき編〉

県立美術館発の農業とアート体験をかけた地域アートプロジェクト事業。アーティストとプロジェクト参加者が美術館で地域の農業文化を学び、敷地内創作ヤードの、お米等を育てる農園で農作業を経験しながら、収穫物をもとに一つの作品づくりを行う。参加者・アーティスト・美術館が、農業という土地の風景を形作る具体的な営みを通じて青森県の芸術風土をその根源から理解し、協働して作品制作を行うことを通じて、地域に根ざした新しい芸術価値の獲得を目指す試み。

2017年度の青森の農業の歴史や農業と芸術の関わりを体験するイベントや定期ミーティング、秋の稲刈り作業等とおして制作計画を策定する「種まき編」、2018年度にその計画に基づき作品を制作・展示する「刈入れ編」の2年間で進行される。そのうち2017年度「種まき編」は「参加者募集事業」「ワークショップ事業」「中間成果発表事業」の三要素から構成。

2017年度の参加登録者は美術愛好層を主とし、新規就農したりんご農家や農業指導員の方などを含む24名。トークイベントやシンポジウム等を含むワークショップ事業は、作家と参加者の間で青森と世界の農業の歴史、農業文化についての知識を共有させ、定期ミーティングにおける意見交換を活発化させることにつながった。その中でも、参加者とアーティストの意識上において、本来食物である収穫物をアート作品に用いることへの違和感が浮かび上がり、凶らずも農業と芸術の間に通底する人間のエゴの形を浮き彫りにすることとなったのは特筆すべき点である。この違和感を作品制作とおして昇華させる方法を話し合う中で作品のプランも自然とまとまっていき、最終的には

- ①大きな作品とすること
- ②自然と人間のつながりの豊かさと貧しさを同時に表現すること
- ③神社にその年の収穫物を奉納するような気持ちで作品制作



職員らが主導した田植え



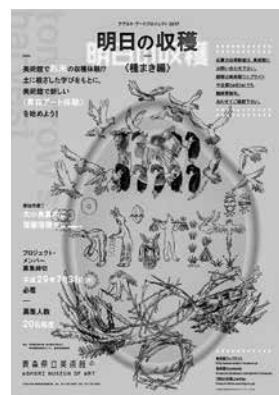
全体説明会



レクチャー「土地を拓く前に - 『サルケ』で狼煙を上げる」

にあたること

という作品への姿勢を発見することで折り合いをつけ、青森の農業や自然にまつわるモチーフを主軸に参加者が主体となって制作する部分と、その部分の間をアーティストが主体となって描く部分がつながり、という作品プランが策定されるに至り、年度末に中間成果発表展示の形でその一端を美術館常設展示室内で紹介することができた。事業自体の成果は翌平成30年度において形になるが、本年度「種まき編」においても、青森という一地域に留まらない、芸術の未来を予感させるものとなった。



企画ポスター

参加アーティスト

- 参加者と作品を制作するアーティスト
大小島 真木 (おおこじま・まき / 画家)
- 農業の場づくりに参加するアーティスト
齋藤 瑠璃子 (さいとう・るりこ / 画家、齋藤農園3代目)

参加者募集事業

参加者募集のため企画チラシを作成し、県の農業担当課やJA、県内及び北東北の高校大学、県内の自然食レストラン等の、農とアートに関心のある層を中心に発送し、重点的に事業情報が届くよう配慮を行った。同時に企画専用SNS (twitter) を立ち上げ、日々の活動の様子やイベント情報等の告知を行った。募集期間中は参加を検討中の方を対象に事前説明会も開催。



ワイエダ兄弟による制作



ラダック舞踊団公演



シンポジウム「〈余地の芸術〉を拓く」

募集期間：平成 29 年 6 月 1 日（木）－ 7 月 31 日（月）
 事前説明会参加者数：29 名 ※説明会は 7 月 29 日（土）に実施
 参加登録者数：24 名

ワークショップ事業

事業広報と参加者の動員を促し、アーティストとプロジェクト参加者の農業とアートへの知識や関心の度合いをさらに深め、能動的な参加のもと作品の制作計画を策定するためのワークショップ事業を実施。なお全てのワークショップについては、プロジェクト参加者以外も参加可能とし、料金無料・申込不要で参加できるものとした。

7 月 29 日（土）

- ① 14:00 - 15:00 全体説明会
- ② 15:00 - 16:00 レクチャー「土地を拓く前に - 『サルケ』で狼煙を上げる」

会場：ワークショップ B、創作ヤード

講師：①奥脇嵩大（青森県立美術館学芸員） ②増田公寧（青森県立郷土館学芸主査）

参加者数：①②ともに 28 名

8 月 19 日（土）

- ① 14:00 - 15:00 レクチャー「青森の米づくりとその歴史」
- ② 15:00 - 16:00 アーティスト・トーク

会場：ワークショップ B、創作ヤード

講師：①成田 敏（青森県立郷土館ゲストキュレーター） ②大小島真木

参加者数：①②ともに 23 名

9 月 16 日（土）

- ① 10:00 - 16:00 ワイエダ兄弟によるワルリ画^(*)の公開制作
- ② 11:00 - 12:00 インド・ラダック舞踊公演 in 青森^(**)
- ③ 14:00 - 15:00 ミティラー美術館長・長谷川時夫氏講演「インド民俗画の伝統と未来」

会場：ワークショップ B、創作ヤード

講師：①トゥシャル&マユール・ワイエダ ②ラダック舞踊団 ③長谷川時夫

参加者数：① 86 名 ② 87 名 ③ 30 名

9 月 17 日（日）

- ① 10:00 - 16:00 ワイエダ兄弟によるワルリ画の公開制作
- ② 11:00 - 12:00 インド・ラダック舞踊公演 in 青森
- ③ 13:00 - 16:00 シンポジウム「〈余地の芸術〉を拓く」

会場：ワークショップ B、創作ヤード

講師：③石倉敏明（芸術人類学者／秋田公立美術大学准教授）、山内明美（歴史社会学者／大正大学准教授）、豊島重之（モレキュラーシアター演出家／ICANOF キュレーター）、榎木野衣（美術批評家／多摩美術大学教授）

※肩書は開催当時のものです。

参加者数：① 69 名 ② 63 名 ③ 35 名

* 農耕をもとにした自然観に基づき、すりつぶした米と水による白い絵の具で制作されるインド西部の民俗画

** インド最北の高山地帯たるラダック地方の伝統的なテーマや民間伝承を元にした舞踊団。インド政府と ICCR（インド文化交流評議会）が日本国内で開催している「2017 年日印友好交流年」事業の途中で青森に立ち寄っていただくことで開催が実現。（協力：NPO 法人日印交流を盛り上げる会）

10 月 7 日（土）

- ① 10:00 - 12:00 稲刈り
- ② 13:00 - 14:00 稲干し
- ③ - 15:00 頃 参加作家を交えて行うミーティング

会場：ワークショップ B、創作ヤード

参加者数：15 名



稲刈り

11 月 18 日（土）

- ① 10:00 - 12:00 脱穀作業＋参加作家を交えて行うミーティング



脱穀



お米を素材とした画材の制作ワークショップの様子



お米を素材とした画材の制作ワークショップの様子



作品プランについての検討会

② 13:00 - 15:00 お米を素材とした画材の制作ワークショップ (1)

会場：ワークショップB

参加者数：17名

12月16日 (土)

① 10:00 - 12:00 お米を素材とした画材の制作ワークショップ (2)

② 13:00 - 15:00 作品プランについての検討会

会場：ワークショップB

参加者数：13名

1月20日 (土)

① 10:00 - 12:00 2018年度〈刈入れ編〉の予定発表
+ 藍染めワークショップ

② 13:00 - 15:00 作品パーツの制作ワークショップ

会場：ワークショップB

参加者数：14名

2月17日 (土)

10:00 - 15:00 作品パーツの制作ワークショップ

会場：ワークショップB

参加者数：13名

中間成果発表事業

〈種まき編〉成果紹介展示。農園での収穫物や記録写真、作品のためのドローイングや作品に用いる刺繍の試作、これまでのワークショップで交わされてきた言葉などで構成。全体で、翌年度〈刈入れ編〉で行う作品制作の計画を紹介するものとした。



中間成果発表展示会場



中間成果発表展示会場で公開された作品プラン
(描き手：大小島真木)



中間成果発表展示会場で展示された米など

学芸

美術資料収集

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ×縦×横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料収集

平成 29 年度収集美術資料

小島一郎 つがる市木造 1958 ゼラチンシルバープリント 24.4 × 16.4 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	小島一郎 津軽地方 1957-58 ゼラチンシルバープリント 16.8 × 24.6 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	佐野ぬい 桜の木 1955 年頃 油彩・キャンバス 16.0 × 22.5	佐野ぬい ブルースクウェアノート 1997 油彩・キャンバス 162.0 × 162.0
小島一郎 つがる市稲垣付近 1960 ゼラチンシルバープリント 24.5 × 16.2 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	小島一郎 下北郡大間町 1961 年頃 ゼラチンシルバープリント 24.1 × 16.3 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	佐野ぬい 寒い朝 1955 年頃 油彩・キャンバス 16.0 × 22.5	佐野ぬい アフタヌーンの記録 2000 油彩・キャンバス 100.0 × 100.0
小島一郎 《北の空》津軽地方 1957 ゼラチンシルバープリント 24.1 × 15.8 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	佐野ぬい 街と赤い服の女 1950 年頃 油彩・キャンバス 19.0 × 27.5	佐野ぬい 昔の景色 1955 年頃 油彩・キャンバス 27.5 × 22.0	佐野ぬい イーストエンドのダイアリー 2004 油彩・キャンバス 162 × 194
小島一郎 東京都内 1961-63 ゼラチンシルバープリント 24.3 × 16.7 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	佐野ぬい 札幌駅構内 1950 年頃 油彩・キャンバス 45.5 × 53.0	佐野ぬい 青の装い 1980 年代 油彩・キャンバス 60.5 × 72.5	佐野ぬい シティーロードの空間 2004 油彩・キャンバス 130.0 × 162.0
小島一郎 東京都内 1961-63 ゼラチンシルバープリント 24.2 × 16.6 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	佐野ぬい 横浜の波止場 1950 年代 水彩、デッサン・紙 26.0 × 36.0	佐野ぬい 四季 1989 油彩・キャンバス 54.0 × 266.0	佐野ぬい 240 Central Park South NY 2005 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0
小島一郎 東京都内 1961-63 ゼラチンシルバープリント 24.2 × 16.6 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	佐野ぬい 北大構内 1950 年代 デッサン・紙 24.5 × 35.0	佐野ぬい ニューヨーク・ドローイング 1990 鉛筆、コラーージュ・紙 21.5 × 30.5	佐野ぬい 青の背後 2006 油彩・キャンバス 130.5 × 162
小島一郎 東京都内 1961-63 ゼラチンシルバープリント 24.2 × 16.7 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	佐野ぬい 薔薇 1950 年代 油彩・キャンバス 24.0 × 33.5	佐野ぬい ブルースクウェア 1992 油彩・キャンバス 116.5 × 116.5	佐野ぬい 翼のエッセイ 2009 油彩・キャンバス 91.0 × 116.5
小島一郎 東京都内 1961-63 ゼラチンシルバープリント 24.3 × 16.6 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	佐野ぬい 薔薇 1950 年代 油彩・キャンバス 27.5 × 22.0	佐野ぬい ブルーノートの断層 1994 油彩・キャンバス 212.0 × 171.0	佐野ぬい 白い詩形 2009 油彩、インク、鉛筆・キャンバス 24.0 × 33.5
小島一郎 東京都内 1961-63 ゼラチンシルバープリント 24.3 × 16.6 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈	佐野ぬい 凍った池 1955 年頃 油彩・キャンバス 16.0 × 22.5	佐野ぬい オペラ色の速い線 1994 油彩・キャンバス 99.0 × 194.0	佐野ぬい 一つの青 2011 リトグラフ・紙 23.0 × 30.0

佐野ぬい MISTY 2011 油彩・キャンバス 100.0 × 100.0	佐野ぬい アンティークローズ 2014 油彩・キャンバス 91.0 × 116.5	佐野ぬい アフタヌーンブルーの形 2016 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	佐野ぬい 昼下りのテーマ 2017 油彩・板 38.5 × 34.0
佐野ぬい ウォーターブルーの夏 2011 油彩・キャンバス 100.0 × 100.0	佐野ぬい 青の場面 2014 油彩・キャンバス 91.0 × 116.5	佐野ぬい ブルーコンポーゼの空間 2016 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	佐野ぬい 街のシグナル 2017 油彩・キャンバス 32.0 × 41.0
佐野ぬい 背後の青 2011 油彩・キャンバス 100.0 × 100.0	佐野ぬい トライアンローズの線 2014 油彩・キャンバス 24.0 × 33.5	佐野ぬい アンティークの青 2016 油彩・キャンバス 130.5 × 162.0	佐野ぬい 夕暮れの街 2017 油彩・キャンバス 32.0 × 41.0
佐野ぬい あの頃の街 2011 油彩・キャンバス 72.5 × 152.5	佐野ぬい ラッフルズホテル 2014 油彩・キャンバス 24.0 × 25.0	佐野ぬい スペースの韻律 2016 油彩・キャンバス 100.0 × 100.0	佐野ぬい 白の回想 制作年不明 油彩・キャンバス 91.0 × 116.5
佐野ぬい 午後の謎 2012 油彩・キャンバス 38.0 × 45.5	佐野ぬい 奇数のエッセイ 2015 油彩・キャンバス 162 × 194	佐野ぬい モノローグ 2016 油彩・キャンバス 24.0 × 33.5	佐野ぬい アフタヌーンレッドの時間 制作年不明 油彩・キャンバス 116.5 × 91.0
佐野ぬい 贈り物 2012 油彩・キャンバス 32.0 × 41.0	佐野ぬい いつかの青 2015 油彩・キャンバス 100.0 × 100.0	佐野ぬい 書斎の手紙 2016 版画、手彩色・紙 33.0 × 26.0	佐野ぬい シグナル 制作年不明 油彩・銅キャンバス 45.5 × 53.0
佐野ぬい 形の方向 2012 油彩・キャンバス 38.0 × 45.5	佐野ぬい 余白の映像 2015 油彩・キャンバス 74.0 × 120.0	佐野ぬい ブルーファイル 2016 水彩・紙 30.0 × 35.5	野沢如洋 馬図 不詳 絹本彩色 本紙：36.0 × 83.5 表装：50.0 × 115.5
佐野ぬい 投影の函数学 2013 水彩・和紙 39.0 × 48.0	佐野ぬい フォルムの所在 2015 油彩・キャンバス 100.0 × 100.0	佐野ぬい 休日のコレクション 2016 版画、手彩色・紙 21.5 × 29.0	野沢如洋 鳥と柿図 不詳 紙本墨画彩色 本紙：135 × 32.5 表装：211.5 × 43
佐野ぬい シティブルーのテーマ 2014 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	佐野ぬい 記憶のマチエール 2015 油彩・キャンバス 32.0 × 41.0	佐野ぬい セルリアンの面積 2016 版画、手彩色・紙 23.0 × 28.0	野沢如洋 牡丹図 1932 紙本彩色 本紙：135.5 × 32.1 表装：221 × 45.3
佐野ぬい ダイアリーのシグナル 2014 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	佐野ぬい 組曲 2015 油彩・キャンバス 32.0 × 41.0	佐野ぬい スカイブルーのプラン 2017 油彩・キャンバス 162.0 × 194.0	78 野沢如洋 椿之図 1935 紙本墨画彩色 本紙：42.5 × 59.5 表装：131 × 67.8
佐野ぬい 青の時間 2014 油彩・キャンバス 74.0 × 120.0	佐野ぬい オールデイズ 2015 油彩・キャンバス 32.0 × 41.0	佐野ぬい 青いリスト 2017 油彩・キャンバス 91.0 × 116.5	

美術資料貸出状況

松木満史展

貸出先

- ・青森県立郷土館
- 展示施設（会期）
- ・青森県立郷土館
(2017/5/26 - 6/25)

貸出点数：26

作品名

- ・松木満史「風景」
- ・松木満史「裸婦」
- ・松木満史「少女」
- ・松木満史「香港スケッチ」
- ・松木満史「シンガポールの交通巡査」
- ・松木満史「マントの村」
- ・松木満史「船中自画像」
- ・松木満史「甲板の靴修理」
- ・松木満史「船着場の老人（アデン）」
- ・松木満史「エジプト点景」
- ・松木満史「上海スケッチ（交通巡査）」
- ・松木満史「バトユウのセーヌ」
- ・松木満史「香港」
- ・松木満史「シンガポールの船付場」
- ・松木満史「裸婦」
- ・松木満史「アミ」
- ・松木満史「アデンの煙草売」
- ・松木満史「ベナン・スケッチ」
- ・松木満史「シンガポールの水源地」
- ・松木満史「上海の少女」
- ・松木満史「アデンの舟」
- ・松木満史「シンガポール点景（土人入足）」
- ・松木満史「無題（裸婦）」
- ・松木満史「上海スケッチ」
- ・松木満史「採集」
- ・松木満史「スイトビー」

横尾忠則 十和田ロマン展 POP IT ALL

貸出先

- ・十和田市現代美術館
- 展示施設（会期）
- ・十和田市現代美術館
(2017/6/17 - 9/24)

貸出点数：1

作品名

- ・横尾忠則「青〇の魔人」

澤田教一 故郷と戦場

貸出先

- ・伊豆フォトミュージアム
- 展示施設（会期）
- ・伊豆フォトミュージアム
(2017/9/9 - 12/25)

貸出点数：142

作品名

- ・澤田教一「トンレベット | 1970年5月24日 Tonle Bet | May 24, 1970」
- ・澤田教一「ベトナムとの国境から6km | 1970年5月7日 Inside Cambodia, 6 km from the Vietnam border | May 7, 1970」
- ・澤田教一「ベトナムとの国境から6km | 1970年5月7日 Inside Cambodia, 6 km from the Vietnam border | May 7, 1970」
- ・澤田教一「シエムリアップ | 1970年6月 Siem Reap | June, 1970」
- ・澤田教一「タンコク | 1970年10月12日 Tang Kauk | October 12, 1970」
- ・澤田教一「タンコク | 1970年9月14日 Tang Kauk | September 14, 1970」
- ・澤田教一「トンレベット | 1970年5月 Tonle Bet | May, 1970」
- ・澤田教一「タンコク | 1970年10月12日 Tang Kauk | October 12, 1970」
- ・澤田教一「カンボジア | 1967-70年 Cambodia | 1967-70」
- ・澤田教一「カンボジア | 1967-70年 Cambodia | 1967-70」
- ・澤田教一「カンボジア | 1970年 Cambodia | 1970」
- ・澤田教一「トンレベット | 1970年5月 Tonle Bet | May, 1970」
- ・澤田教一「トンレベット | 1970年5月 Tonle Bet | May, 1970」
- ・澤田教一「タンコク | 1970年10月12日 Tang Kauk | October 12, 1970」
- ・澤田教一「南ベトナム | 1965年頃 South Vietnam | c. 1965」
- ・澤田教一「ダナン | 1965年2月1日 Da Nang | February 1, 1965」
- ・澤田教一「カンナック, ザライ省 | 1965年3月9日 Kannack, Gia Lai Province | March 9, 1965」
- ・澤田教一「ビンロン省 | 1965年3月1日 Vinh Long Province | March 1, 1965」
- ・澤田教一「ダナン | 1965年4月15日 Da Nang | April 15, 1965」
- ・澤田教一「ダナン | 1965年4月15日 Da Nang | April 15, 1965」
- ・澤田教一「ダナン | 1965年4月15日 Da Nang | April 15, 1965」
- ・澤田教一「カンボジア国境付近, ロンアン省 | 1965年10月4日 Near the Cambodian border, Long An Province | October 4, 1965」
- ・澤田教一「フォックビン北方, ロンアン省 | 1965年10月16日 North of Phuoc Vinh, Long An Province | October 16, 1965」
- ・澤田教一「ブレイメ, ザライ省 | 1965年10月23日 Plei Me, Gia Lai Province | October 23, 1965」
- ・澤田教一「ブレイメ, ザライ省 | 1965年10月23日 Plei Me, Gia Lai Province | October 23, 1965」
- ・澤田教一「サイゴン | 1965年11月1日 Saigon | November 1, 1965」
- ・澤田教一「ブレイク, ザライ省 | 1966年12月24日 Pleiku, Gia Lai Province | December 24, 1966」
- ・澤田教一「フーミ, ビンディン省 | 1965年 Phu My, Binh Dinh Province | 1965」
- ・澤田教一「ジアレ, トゥアティエン=フエ省 | 1966年9月11日 Gia Le, Thua Thien - Hue Province | September 11, 1966」
- ・澤田教一「ゴンジャン, クアンガイ省 | 1966年3月28日 Ngong Giang, Quang Ngai Province | March 28, 1966」
- ・澤田教一「ラプチュアン, クアンナム=ダナン省 | 1966年4月3日 Lap Thuan, Quang Nam-Da Nang Province | April 3, 1966」
- ・澤田教一「サイゴン | 1966年6月19日 Saigon | June 19, 1966」
- ・澤田教一「非武装地帯から2km南 | 1966年9月2日 2 km south of the DMZ | September 2, 1966」
- ・澤田教一「非武装地帯から2km南 | 1966年9月2日 2 km south of the DMZ | September 2, 1966」
- ・澤田教一「デックハウスIV作戦 | 非武装地帯から2km南 | 1966年9月16日 Operation Deckhouse IV | 2 km south of the DMZ | September 16, 1966」
- ・澤田教一「デックハウスIV作戦 | 非武装地帯から2km南 | 1966年9月16日 Operation Deckhouse IV | 2 km south of the DMZ | September 16, 1966」
- ・澤田教一「非武装地帯付近 | 1966年10月3日 Near the DMZ | October 3, 1966」
- ・澤田教一「非武装地帯 | 1967年5月19日 DMZ | May 19, 1967」
- ・澤田教一「ベンサク, サイゴン | 1967年1月14日 Ben Suc, Saigon | January 14, 1967」
- ・澤田教一「875高地, ダクト, コントゥム省 | 1967年11月17日 Hill 875, Dak To, Kon Tum Province | November 17, 1967」
- ・澤田教一「875高地, ダクト, コントゥム省 | 1967年11月21日 Hill 875, Dak To, Kon Tum Province | November 21, 1967」
- ・澤田教一「875高地, ダクト, コントゥム省 | 1967年11月21日 Hill 875, Dak To, Kon Tum Province | November 21, 1967」
- ・澤田教一「875高地, ダクト, コントゥム省 | 1967年11月22日 Hill 875, Dak To,

Kon Tum Province | November 22, 1967」

・澤田教一「ブドップ, ビンフォック省 | 1967年12月7日 Bu Dop, Binh Phuoc Province | December 7, 1967」

・澤田教一「ブドップ, ビンフォック省 | 1967年12月8日 Bu Dop, Binh Phuoc Province | December 8, 1967」

・澤田教一「ブドップ, ビンフォック省 | 1967年12月8日 Bu Dop, Binh Phuoc Province | December 8, 1967」

・澤田教一「ボブ・ホープ・クリスマス・ショー | カムラン湾 | 1967年12月27日 Bob Hope Christmas Show | Cam Ranh Bay | December 27, 1967」

・澤田教一「ボブ・ホープ・クリスマス・ショー | カムラン湾 | 1967年12月27日 Bob Hope Christmas Show | Cam Ranh Bay | December 27, 1967」

・澤田教一「ブドップ, ビンフォック省 | 1967年12月8日 Bu Dop, Binh Phuoc Province | December 8, 1967」

・澤田教一「戦闘区域C | 1967年 War Zone C | 1967」

・澤田教一「ケサン, クアンチ省 | 1968年1月22日 Khe Sanh, Quang Tri Province | January 22, 1968」

・澤田教一「クアンチ省 | 1968年4月28日 Khe Sanh, Quang Tri Province | March 1, 1968」

・澤田教一「ブノンベン | 1970年6月4日 Phnom Penh | June 4, 1970」

・澤田教一「南ベトナム | 1966年頃 South Vietnam | c. 1966」

・澤田教一「南ベトナム | 1965-68年 South Vietnam | 1965-68」

・澤田教一「南ベトナム | 1965-68年 South Vietnam | 1965-68」

・澤田教一「南ベトナム | 1965-68年 South Vietnam | 1965-68」

・澤田教一「サイゴンの北約400km | 1966年4月15日 400 km north of Saigon | April 15, 1966」

・澤田教一「レバンジェット寺 | サイゴン | 1970年頃 Le Van Duyet Temple | Saigon | c. 1970」

・澤田教一「レバンジェット寺 | サイゴン | 1970年頃 Le Van Duyet Temple | Saigon | c. 1970」

・澤田教一「南ベトナム | 1966年頃 South Vietnam | c. 1966」

・澤田教一「南ベトナム | 1965-68年 South Vietnam | 1965-68」

・澤田教一「南ベトナム | 1965-68年 South Vietnam | 1965-68」

・澤田教一「南ベトナム | 1965-68年 South Vietnam | 1965-68」

・澤田教一「米軍三沢基地正門前 | 1955(昭和30) - 61年 Outside the main gate of Misawa Air Base | 1955-61」

・澤田教一「ロクチュアン, ビンディン省 |

1965年9月6日 Loc Thuong, Binh Dinh | September 6, 1965]

- ・澤田教一「アンリ・ユエ(1927-71) | 1965-70年」
- ・澤田教一「取材中のホースト・ファース(1933-2012) | 1965-70年」
- ・澤田教一「三沢基地内 | 1958(昭和33)年 Inside Misawa Air Base | 1958」
- ・澤田教一「三沢基地内 | 1958(昭和33)年 Inside Misawa Air Base | 1958」
- ・澤田教一「平畑、大三沢町(現三沢市) | 1955(昭和30)-61年 Hirahata, Omisawa(now Misawa City) | 1955-61」
- ・澤田教一「古間木駅(1961年3月より三沢駅と改称) | 1955(昭和30)-61年 Furumaki Station(since March 1961, Misawa Station) | 1955-61」
- ・澤田教一「三沢基地正門前 | 1955(昭和30)-61年 Outside the main gate of Misawa Air Base | 1955-61」
- ・澤田教一「三沢基地内 | 1958(昭和33)年5月17日(米軍主催三軍統合記念日) Inside Misawa Air Base | May 17, 1958(Armed Forces Day commemoration)」
- ・澤田教一「小川原湖周辺 | 青森県上北郡東北町 | 1955(昭和30)-61年 Around Lake Ogawara | Tohoku, Kamikita District, Aomori | 1955-61」
- ・澤田教一「小川原湖周辺 | 青森県上北郡東北町 | 1955(昭和30)-61年 Around Lake Ogawara | Tohoku, Kamikita District, Aomori | 1955-61」
- ・澤田教一「三沢基地内軍司令部 | 1955(昭和30)-61年 Headquarters, Misawa Air Base | 1955-61」
- ・澤田教一「小川原湖周辺 | 青森県上北郡東北町 | 1955(昭和30)-61年 Around Lake Ogawara | Tohoku, Kamikita District, Aomori | 1955-61」
- ・澤田教一「小川原湖周辺 | 青森県上北郡東北町 | 1955(昭和30)-61年 Around Lake Ogawara | Tohoku, Kamikita District, Aomori | 1955-61」
- ・澤田教一「三沢基地内のゴルフ場 | 1958(昭和33)-1961年 Golf course inside Misawa Air Base | 1958-1961」
- ・澤田教一「〈防砂林の手入れ〉 | 青森県上北地域 | 1955(昭和30)-61年 Tending a Sand-Barrier Woods | Kamikita District, Aomori | 1955-61」
- ・澤田教一「〈菜種の刈入れ〉 | 青森県内 | 1958(昭和33)年7月21日 Harvesting Rapeseed | Aomori Prefecture | July 21, 1958」
- ・澤田教一「〈仮橋を渡る人々〉 | 青森県上北地域 | 1955(昭和30)-61年 People Cross a Temporary Bridge | Kamikita District, Aomori | 1955-61」
- ・澤田教一「三沢基地内 | 1955(昭和30)-1961 Inside Misawa Air Base | 1955-1961」
- ・澤田教一「五行山 | ダナン | 1965-70年 The Marble Mountains | Da Nang | 1965-70」
- ・澤田教一「南ベトナム | 1965-68年 South Vietnam | 1965-68」

- ・澤田教一「南ベトナム | 1965-68年 South Vietnam | 1965-68」
- ・澤田教一「クイニョン、ビンディン省 | 1965年 クイニョン市中心街にあるムイニオン教会 Quy Nhon, Binh Dinh Province | 1965」
- ・澤田教一「クイニョン、ビンディン省 | 1965年 クイニョン市中心街にあるムイニオン教会近くの避難村 Quy Nhon, Binh Dinh Province | 1965」
- ・澤田教一「南ベトナム | 1965年 South Vietnam | 1965」
- ・澤田教一「カンナック、ザライ省 | 1965年3月9日 Kannack, Gia Lai Province | March 9, 1965」
- ・澤田教一「カンナック、ザライ省 | 1965年3月9日 Kannack, Gia Lai Province | March 9, 1965」
- ・澤田教一「南ベトナム | 1965年 South Vietnam | 1965」
- ・澤田教一「南ベトナム | 1965-68年 South Vietnam | 1965-68」
- ・澤田教一「ラクソイ、キエンザン省 | 1965年3月4日 Rach Soi, Kien Giang Province | March 4, 1965」
- ・澤田教一「アンコール・ワット | 1967年 Angkor Wat | 1967」
- ・澤田教一「トンレサップ湖 | 1967-70年 Lake Tonle Sap | 1967-70」
- ・澤田教一「独立記念式典 | プノンベン | 1969年11月9-10日 Independence anniversary ceremony | Phnom Penh | November 9-10, 1969」
- ・澤田教一「プノンベン | 1969年11月9-10日 Phnom Penh | November 9-10, 1969」
- ・澤田教一「プノンベン | 1969年11月9-10日 Phnom Penh | November 9-10, 1969」
- ・澤田教一「プノンベン | 1969年11月9-10日 Phnom Penh | November 9-10, 1969」
- ・澤田教一「プノンベン | 1969年11月9-10日 Phnom Penh | November 9-10, 1969」
- ・澤田教一「カンボジア | 1967-70年 Cambodia | 1967-70」
- ・澤田教一「カンボジア | 1967-70年 Cambodia | 1967-70」
- ・澤田教一「プノンベン | 1969年11月9-10日 Phnom Penh | November 9-10, 1969」
- ・澤田教一「『東洋のモナリザ』と呼ばれるデヴァター(女神)像 | バンテアイ・スレイ | 1967年 Statue of a devata (goddess), known as the "Mona Lisa of the East" | Banteay Srei | 1967」
- ・澤田教一「アンコール・ワット | 1967年 Angkor Wat | 1967」
- ・澤田教一「トンレサップ湖 | 1967-70年 Lake Tonle Sap | 1967-70」
- ・澤田教一「〈台風跡〉 | 青森県上北地域 | 1955(昭和30)-61年 After a Typhoon | Kamikita District, Aomori | 1955(昭和30)-61」
- ・澤田教一「アンコール・ワット | 1967年 Angkor Wat | 1967」
- ・澤田教一「ベンタン市場 | サイゴン | 1970年 Ben Than Market | Saigon | 1970」
- ・澤田教一「香港 | 1969年 Hong Kong | 1969」
- ・澤田教一「香港 | 1969年 Hong Kong | 1969」

- ・澤田教一「香港 | 1969年 Hong Kong | 1969」
- ・澤田教一「香港 | 1969年 Hong Kong | 1969」
- ・澤田教一「クイニョン、ビンディン省 | 1965年」
- ・澤田教一「ラプチュアン、クアンナム=ダナン省 | 1966年」
- ・澤田教一「ブドップ、ビンフォック省 | 1967年」
- ・澤田教一「南ベトナム | 1965-68年」
- ・澤田教一「南ベトナム | 1966年頃」
- ・澤田教一「フォックビン北方、ロンアン省 | 1965年」
- ・澤田教一「コンボンスプー | 1970年」
- ・澤田教一「三沢基地内 | 1958年」
- ・澤田教一「小川原湖周辺 | 青森県上北郡東北町 | 1955-61年」
- ・澤田教一「三沢基地内 | 1958-1961年」
- ・澤田教一「米空母「ボノム・リシャル」 | 南ベトナム | 1965年8月2日 USS Carrier Bon Homme Richard | South Vietnam | August 2, 1965」
- ・澤田教一「チュライ、クアンナム省 | 1965年8月20日 Chu Lai, Quang Nam Province | August 20, 1965」
- ・澤田教一「チュライ、クアンナム省 | 1965年8月20日 Chu Lai, Quang Nam Province | August 20, 1965」
- ・澤田教一「クイニョン、ビンディン省 | 1965年9月6日 Quy Nhon, Binh Dinh Province | September 6, 1965 | Coll. of Aomori Museum of Art」
- ・澤田教一「ブレイメ、ザライ省 | 1965年10月22日 Plei Me, Gia Lai Province | October 22, 1965」
- ・澤田教一「〈安全への逃避〉 | ロクチュアン、ビンディン省 | 1965年9月6日」
- ・澤田教一「〈敵を連れて〉 | ボンソン北方、ビンディン省 | 1966年1月29日」
- ・澤田教一「〈泥まみれの死〉 | タンビン、サイゴン | 1966年2月24日 Dusty Death | Tan Binh, Saigon | February 24, 1966」
- ・澤田教一「ラプチュアン、クアンナム=ダナン省 | 1966年4月3日」
- ・澤田教一「ラプチュアン、クアンナム=ダナン省 | 1966年4月3日 Lap Thuan, Quang Nam-Da Nang Province | April 3, 1966」
- ・澤田教一「カンボジア国境付近 | 1966年6月30日 Near the Cambodian border | June 30, 1966」
- ・澤田教一「非武装地帯南方 | 1966年9月21日 South of DMZ | September 21, 1966」
- ・澤田教一「ブレイク、ザライ省 | 1966年12月24日 Pleiku, Gia Lai Province | December 24, 1966」
- ・澤田教一「ダナンの南16km | 1967年10月25日 16 km south of Da Nang | October 25, 1967」
- ・澤田教一「サイゴン | 1965-70年 Saigon | 1965-70」
- ・澤田教一「ラクソイ、キエンザン省 | 1965年3月3-4日 Rach Soi, Kien Giang Province | March 3-4, 1965」

企画展 「花物語 暮らしをよそおう」

貸出先
・弘前市立博物館
展示施設(会期)
・弘前市立博物館
(2017/9/16 - 11/12)
貸出点数: 1
作品名
・須藤尚義「鶴と牡丹」

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

サポートスタッフ

普及プログラム

1 こどもアトリエ

小学生以下を対象にワークショップの部屋を開放し、画材、粘土などを自由に使って作品制作をする場を提供した。家や学校ではあまり使うことのない画材を使用できること、また、画材での汚れ等を気にせずに自由に創作ができることを特徴として掲げて実施したが、自由制作が難しいこどもも想定し、そのときの展示に関わる技法等をテーマとしたワークも都度用意した。

日時：5月27日（土）、7月15日（土）、9月23日（土・祝）、
11月11日（土）、1月27日（土）
各日 10:00 - 15:00

場所：青森県立美術館 ワークショップ B

各回テーマ：

5/27 「11 びきのねこ」スタンプを使った作品づくり

7/15

9/23 裏彩色体験

11/11 「〇〇なあおもり犬をつくろう」（紙粘土制作）

1/27 「〇〇なあおもり犬をつくろう」（紙粘土制作）と
「11 びきのねこ」スタンプを使った作品づくり

参加者数：5/27 14人

7/15 53人

9/23 53人

11/11 75人

1/27 39人



こどもアトリエ「11 びきのねこ」スタンプを使った作品づくり

2 「じぶん鑑賞」のすすめ - 鑑賞手帳配布

アート鑑賞を深めるポイントや実践的な鑑賞術を学び、鑑賞者自身の「みる力」を培うこと、学術的な作品解釈に依存しない自分なりの作品解釈・考察等により鑑賞者の「みる」という行



鑑賞手帳

為を深めることを目的としたプログラムとして、鑑賞の楽しみ方や鑑賞術の紹介といったガイドブック機能と展覧会の感想を書き込めるノート機能を持った手帳「鑑賞手帳」を作成し、コレクション展観覧者を対象に配布した。

配布期間：2017年第I期コレクション展会期中

配布部数：1,000部

3 展覧会関連プログラム

(1) ラブラブショー 2 展関連

①ワークショップ「いっしょにアモーリーノちゃんの絵を完成させよう」

ハート型のカッティングシートを貼り合わせ、ラブラブショー 2 展のイメージキャラクター「アモーリーノちゃん」の大きなモザイク画を作成した。



ワークショップ「いっしょにアモーリーノちゃんの絵を完成させよう」

できあがった作品は、美術館エントランス外壁に企画展のパナーとして期間中設置した。

日時：4月22日（土） - 23日（日）

各日 10:00 - 15:00

場所：青森県立美術館 ワークショップB

講師：竹本真紀

参加者数：4/22 15人、4/23 10人 計25人

②榎忠「祝砲パフォーマンス」

展覧会のオープンを記念して、出品作家のひとりである榎忠氏による大砲をモチーフにした作品《LIBERTY CH》を使ったパフォーマンスを実施した。

日時：4月29日（土・祝）13:00 -

場所：青森県立美術館 エントランス

出演：榎忠

参加者数：70人



榎忠「祝砲パフォーマンス」

③柴田聡子ラブラライブ：青森東京：青森編

出品作家のひとりであり、展覧会テーマ曲を手がけたミュージシャン柴田聡子氏によるライブ及びトークを行った。

日時：4月29日（土・祝）14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館 シアター

出演：柴田聡子

参加者数：80人



柴田聡子ラブラライブ：青森東京：青森編

④ラブラトーク：課長♂×副課長♂

学芸員2名によるギャラリートークを実施した。

日時：5月5日（金・祝）、6月3日（土）各日 14:00 - 15:00

場所：青森県立美術館 企画展示室

出演：池田亨、工藤健志

参加者数：5/5 40人、6/3 30人



ラブラトーク：課長♂×副課長♂

⑤岡本光博トークショー

出品作家のひとりである岡本光博氏のトークを行った。

日時：6月24日（土）

14:00 - 15:00

場所：青森県立美術館

企画展示室

出演：岡本光博

企画展示室

参加者数：21人



岡本光博トークショー フライヤー

⑥ラブラブ・フォーエバー・トーク ～愛、覚えていますか？

学芸員2名に出品作家も加わる形でギャラリートークを行った。

日時：7月2日（日）14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館 企画展示室

出演：大州大作、八嶋有司、癸生川栄、池田亨、工藤健志

参加者数：32人



ラブラブ・フォーエバー・トーク～愛、覚えていますか？ フライヤー

(2) 遙かなるルネサンス展関係

①記念講演会「天正遣欧少年使節の見たイタリアルネサンス」
本展の企画者である東京富士美術館五木田館長による本展の内容と見どころについての講演会を実施した。

日時：7月29日(土) 13:30 - 15:00
場所：青森県立美術館 コミュニティギャラリー
講師：東京富士美術館館長 五木田聡
参加者数：85人

②親子ギャラリーツアー

展示作品をじっくり鑑賞するためのワークシートを記入しながらの解説を聞く鑑賞ツアーを実施した。

日時：8月12日(土)、20日(日) 各日 10:30 -
場所：青森県立美術館 企画展示室
講師：教育普及スタッフ
参加者数：8/12 23人、8/20 12人



遙かなるルネサンス展 親子ギャラリーツアー

③講演会「楽しいルネサンス美術」

ブロンツィーノなどイタリアルネサンス晩期のマニエリスム美術研究を専門とする講師が、イタリアルネサンス美術の楽しみ方を解説した。

日時：8月26日(土) 13:30 - 15:00
場所：青森県立美術館 コミュニティギャラリー
講師：弘前大学教授 足達薫(イタリア美術史)
参加者数：70人

④ミュージアムコンサート「天正遣欧少年使節の音楽」

遣欧使節の少年たちも奏でたという古楽器リュート、ハーブと歌によるコンサートを開催した。

日時：8月29日(火) 16:30 - 17:30
場所：青森県立美術館 企画展示室C
出演：つのだたかし(リュート/ビウエラ) 伊藤美恵(バロックハーブ) 藤井あや(ソプラノ)
観客数：151人

(3) 「夢に挑む 洋画をめぐる画家たちの冒険 ～明治・大正・昭和 日本と青森の近代洋画史～」展関係

①学芸員ギャラリートーク

日時：9月30日(土)、10月28日(土) 各日 14:00 -
場所：青森県立美術館 企画展示室
講師：菅野晶
参加者数：9/30 20人、10/28 24人



近代洋画史展 学芸員ギャラリートーク

②講演会「北東北美術 三県三様の近代」

岩手県立美術館前館長である原田光氏により、青森に岩手、秋田を加えた北東北に視点を広げた近代美術史についての講演会を実施した。

日時：10月15日(日) 14:00 -
場所：青森県立美術館 シアター
講師：原田光(美術評論家)
参加者数：33人



講演会「北東北美術 三県三様の近代」

③油絵体験ワークショップ

油絵の具を使ったことがないという方(中学生以上)を対象に、油絵の具に触れ、基本的な技法を体験するワークショップを開催した。体験後、担当学芸員とともに本展の展示作品鑑賞も行った。

日時：10月21日(土) 10:00 - 12:00
場所：青森県立美術館 ワークショップA

講師：教育普及スタッフ

参加者数：14人



油絵体験ワークショップ

(4) PHASE2017 関係

若く才能豊かな国内外のアーティストたちに、美術館の空間を最大限に活かした展示や企画を行うプロジェクト「PHASE (ファーゼ)」(2014年-)について、今年度は弘前市出身の映画監督・木村文洋を取り上げた。

①映画上映会

日時：下記のとおり

場所：青森県立美術館 シアター

上映作品・観客数：

1月13日(土)	10:30 - 「へばの」	47人
	13:00 - 「愛のゆくえ」	51人
	14:45 - 「息衝く」	35人
1月14日(日)	10:30 - 「へばの」	44人
	13:00 - 「息衝く」	59人

②映画上映会アフタートーク

日時：1月14日(日) 15:30 -

場所：青森県立美術館 シアター

出演：木村文洋、木村友祐(作家)

参加者数：50人



PHASE2017 フライヤー

※シャガール展関係については、次号で当年度実施の展覧会関連プログラムも含めて一括で報告する。

4 その他

(1) 他機関主催イベント等への出展

①夏のキッズフェア2017 出展

美術作品制作のプロセスを、身近な調理プロセスに見立てた創作体験を行った。

会場をキッチン、参加者はコック、画材を食材や調味料に見立てた作品制作。

出展タイトル：アートキッチン

日時：7月30日(日) 10:00 - 15:00

※ 12:00 - 13:00 は昼休憩

場所：青森県総合社会教育センター

講師：教育普及スタッフ

参加者数：243人



夏のキッズフェア2017 出展

②冬のキッズフェア2018 出展

アグロス・アートプロジェクトへの興味関心を高めることを付帯目的として、当プロジェクトの作品制作パーツの一つである藍染め布の制作体験を行った。

30センチ四方の布に輪ゴムやたこ糸を用いた絞り染めを行い、制作したうちの1枚は持ち帰りとし、2枚目の方は、当プロジェクトの作品の一部として使用することとした。

出展タイトル：藍染めワークショップ

日時：2月24日(土)、25日(日)

各日① 9:30 - 10:30、② 11:00 - 12:00、③ 13:30 - 14:30

場所：青森県総合社会教育センター
講師：教育普及スタッフ
参加者数：2/24 34人、2/25 36人



冬のキッズフェア2018 出展

(2) 依頼等によるワークショップ等の実施

① 「世界にひとつだけの絵本づくり」(三戸町依頼)

「11ぴきのねこ」生誕50周年記念として三戸町が行う各種事業の1つとして企画され、当館は絵本づくりに係るワークショップ当日の講師派遣及び参考資料提示、そして後日の製本作業について実施協力を行った。

日時：7月16日(日) 9:30 - 12:00



「世界にひとつだけの絵本づくり」

場所：アップルドーム
講師：教育普及スタッフ
参加者数：20人

② 青森県・濟州道子どもの美術交流 濟州島訪問前の事前ワークショップ(県観光局誘客交流課依頼)

誘客交流課が実施する標記事業における子どもの海外(濟州道)派遣にあたり、訪問先の濟州道立美術館で発表するための紙芝居づくりをワークショップとして実施した。

日時：11月18日(土) 10:00 - 17:00

11月19日(日) 10:00 - 16:00

場所：青森県立美術館 ワークショップA

講師：教育普及スタッフ

参加人数：両日とも13人



青森県・濟州道子どもの美術交流 ワークショップ

スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い、本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視した対話型鑑賞に力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（対話型鑑賞コース、自由鑑賞コース）、オリジナルプログラム（学校連携プログラム）

月	常設展 (人数)	企画展 (人数)	団体数				
			合計	小	中	高	特
4月	314	0	6	5	1	0	0
5月	239	0	7	3	2	2	0
6月	1,190	405	29	22	1	0	6
7月	37	17	2	0	2	0	0
8月	148	141	8	0	7	0	1
9月	298	86	9	4	3	0	2
10月	188	60	5	4	0	0	1
11月	147	0	2	1	1	0	0
12月	96	0	3	3	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	11	11	1	0	1	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	2,668	720	72	42	18	2	10

合計 3,388 人



対話型鑑賞コース



オリジナルプログラム

出前講座

学校の要望等に応じ、学校での出前形式による講座（創作体験や職業講話等）を実施した。

実績：2校 57人

11月6日（月） 青森第一高等養護学校 30名（創作）

12月5日（火） 尾上総合高等学校 27名（職業講話）
（全校から任意）

職場体験

美術館の教育普及活動、学校連携、キャリア教育推進等の観点から、各学校の要望を踏まえながら、中学校・高等学校等の職場体験、見学等を受け入れ、美術館の公共施設・観光施設としての役割や仕事の体験を通じて学ぶ機会を提供した。

受入実績：11校 80人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

貸出実績：3件

貸出施設一覧

施設・機関名
青森県立美術館
青森県総合学校教育センター
青森市教育研修センター
つがる市生涯学習交流センター「松の館」(つがる市教育委員会指導課)
五所川原市立図書館
弘前市教育センター
十和田市現代美術館
むつ市立図書館
八戸市美術館(新美術館建設推進室)

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導演法(アートカードの活用、ギャラリートーク演習等)などをテーマに、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施した。

主催	月日	曜日	研修講座の名称	会場	人数
県・市町村教育委員会と共催	8月3日	木	青森県総合学校教育センター 初任者研修(小・中学校) 教職一般 研修講座	県立美術館	64
	10月4日	水	青森県総合学校教育センター 図画工作・美術科教育講座[鑑賞]		9
教育研究団体等と共催	7月25日	火	南地方小学校教育研究会 美術部会		21
	7月31日	月	西北美術教育研究会 中学部		10
	8月8日	火	西つ小学校教育研究会図工部会、北五小学校教育研究会図工部会		30
	1月5日	金	青森市小学校教育研究会 図画工作科研究部会		29
	1月11日	木	西北美術教育研究会 小学部		5

合計 168 人



スクールプログラム教員研修

鑑賞サポーターの育成

学校団体に来館した児童・生徒の鑑賞指導にあたる鑑賞サポーター(平成22年度までの「ファシリテーター」を呼称変更。)を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。

平成29年度3月末現在：23人

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるよう常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

募集・登録

募集期間：2月1日（水）－3月17日（金）

募集人数：50人程度

応募条件：

- ・満18歳以上（2017年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：70人（29年度末現在）

※このうち県美コンシェルジュ活動希望者27人

活動内容

1 研修

第1回研修会 4月15日（土）10:00 - 16:00

内容：平成29年度事業実施概要及び平成29年度活動内容説明
美術館の概要説明

コンシェルジュとは

（コンシェルジュ活動希望者のみ対象）



サポートスタッフ 第2回研修会

第2回研修会 8月24日（木）13:00 - 15:00

8月27日（日）10:00 - 12:00

9月2日（土）10:00 - 12:00

※参加者はいずれか都合のよい回次に出席

内容：展示作品等案内方法講義

意見交換

2 サポート活動

(1) 学芸（企画展関連イベント運営補助）

活動日数：4日

参加人数：延べ30人

(2) 教育普及（スクールプログラム、ワークショップの運営補助、自主企画イベント等）

活動日数：60日

参加人数：503人

(3) 舞台芸術（コンサート、おはなしフェスタの運営補助）

活動日数：30日

参加人数：249人

(4) 運営管理（資料整理、アンケート調査等）

活動日数：17日

参加人数：66人

(5) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

活動日数：46日

参加人数：505人

(6) 県美コンシェルジュ活動

活動日数：84日

参加人数：145人

対応客数：10,311人

(7) サポートスタッフ自主企画イベントの実施 - Our place
～アートで繋がるコミュニティ～

アート活動を行っているサポートスタッフの作品展示や、展示作品に関連したおりがみ・スタンプあそび、クリスマスカードづくりなどのワークショップ、コンサートも行う自主企画イベントを開催した。

期日：2017年12月16日（土）－25日（月）

各日 10:00 - 16:00

場所：コミュニティギャラリー A,B,C

内容：絵本の読み聞かせ（12/16, 17, 23, 24, 25）

おりがみ・スタンプあそび（12/16, 17）

クリスマスカードづくり（12/16, 17）

ワークショップ「みんなでツリーの飾りをつくって飾ろう」（12/23）

ワークショップ「技法をつかって絵を描こう」(12/23)

クリスマスコンサート (12/24)

ワークショップ「紙粘土で『森の子』づくり」(12/23)

期間来場者数：603人



Our place 会場全景



Our place クリスマスコンサート



Our place 「技法をつかって絵を描こう」

パフォーミングアーツ

演劇

ダンス

音楽

映画

演劇

演劇人育成による青森の文学の魅力発信事業

1 事業概要

青森県立美術館では、平成 18 年の開館時に掲げたミッション「青森県の芸術風土を世界に向けて発信する」「優れた芸術を体験できる」「子どもの感性と創造力を育む」「県民とともに活動する」を果たすため事業を展開している。特に舞台芸術部門では、既成の美術館の枠組みにとられない活動を続け、演劇・音楽・ダンス・映画の各分野において特色ある公演を実施しており、これまで演劇部門では「津軽」、「戯曲寺山修司論」、「MIYAZAWA」等、県民とともに作り上げる県民参加型演劇を制作してきた。

平成 29 年度は、県民が参加する青森県立美術館「演劇部」を創設し、通年のワークショップにより「太宰治」文学の魅力伝える人材を育成し、その成果発表として、太宰治の作品「燈籠」「きりぎりす」を原作とした演劇公演「津軽の女」を開催した。

2 演劇部員募集

(1) 募集概要

応募資格：

- ・中学生以上であれば、年齢・性別・経験問わず誰でも応募可能。
- ・平成 29 年度・30 年度に開催する青森県立美術館での公演に出演可能な方。
- ・平成 29 年度・30 年度に実施する青森県立美術館での稽古に参加可能な方。
- ・裏方スタッフのみとして参加したい方も応募可。

募集人数：

10～15 名程度（裏方スタッフを除く）

※出演料・交通費は、支給されない。



部員募集チラシ（オモテ）



部員募集チラシ（ウラ）

選考方法：

応募者全員に歩行・発声・朗読等の演劇の基礎を体験させ、その過程から出演者を選考するオーディション形式で実施。オーディションは6月10日（土）に開催した。

申込方法：

下記書類を郵送、FAX又はEメールにて事務局まで送る。

- ①青森県立美術館「演劇部」申込書
- ②作文（200～300字程度。テーマ「私が表現したいこと」又は「最近私が感動した舞台又は映画」）

募集期間：2017年4月下旬から6月2日（金）

応募人数：68名

合格者：23名

(2) 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

- ・チラシ（A4版／カラー）60,000枚
- ・ポスター（B2版／カラー）200枚

広報：（2017年4月下旬から宣材物配布開始）

- ・PA顧客へダイレクトメールを送付。
- ・県内の中学校・高等学校の対象生徒へチラシを配布。
- ・県内の大学・文化施設・各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。
- ・青森市内の町内会へチラシを回覧。
- ・県内のJR駅構内の有料広告スペースにポスターを掲示。
- ・県内市町村広報紙へ公演情報の掲載。

3 基礎ワークショップ

演劇及びダンスの基礎を学ぶ全9回の基礎ワークショップを実施した。

日程：

- ・7月2日（日）演劇基礎ワークショップ①
- ・7月9日（日）ダンス基礎ワークショップ①
- ・7月16日（日）演劇基礎ワークショップ②
- ・8月9日（水）演劇基礎ワークショップ③
- ・8月20日（日）ダンス基礎ワークショップ②
- ・8月27日（日）演劇基礎ワークショップ④
- ・9月6日（水）演劇基礎ワークショップ⑤
- ・9月10日（日）ダンス基礎ワークショップ③
- ・9月24日（日）演劇基礎ワークショップ⑥

講師：斎藤歩（北海道演劇財団芸術監督）

沼尾みやこ（DANCE WAG 代表）

長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）



基礎ワークショップ

参加者延べ人数：201人

4 アトリエ公演

基礎ワークショップの成果発表及び舞台を経験することを目的にドラマリーディング形式のアトリエ公演を実施した。

(1) 公演概要

公演名：青森県立美術館演劇部アトリエ公演
ドラマリーディング

構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）
演目：「佐々木君」、「港立裏町図書館」、「Tchaikovsky / 小島一郎」
日時：2017年10月28日（土）15:00開演
10月29日（日）15:00開演
公演時間：120分（途中10分間休憩）
会場：青森県立美術館スタジオ
席数：30席（全席自由）
観客動員：計61人
（内訳）10月28日（土）35人（117%）
10月29日（日）26人（87%）

入場料：無料

出演：石岡博之、石上寧子、川田幸子、後藤和恵、後藤天琉、
小林早智子、佐々木樹姫、佐々木優、秀圓、白鳥真生、相馬
倅子、相馬義則、田澤京子、ちひろ、平井正樹、平田彩乃、
三浦雪絵、三上由美子、盛桜華、八木橋恵夢、有紀、幸田野花

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

共催：公益財団法人 北海道演劇財団

助成：一般財団法人 地域創造

(2) 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

・チラシ（A4版／カラー）200枚

広報：

・部員へチラシを配布。

※アトリエ公演は部員の基礎ワークショップの成果発表及び舞台を経験することを目的とし、観客は主に部員の知人を対象

としたため、一般向けの広報は行わなかった。

(3) チケット予約

電話、FAX、Eメールいずれかの方法により、事務局予約を受け付けた。

(4) 稽古

日程：

- ・10月11日（水）アトリエ公演稽古①
- ・10月13日（金）アトリエ公演稽古②
- ・10月15日（日）アトリエ公演稽古③
- ・10月17日（火）アトリエ公演稽古④
- ・10月18日（水）アトリエ公演稽古⑤
- ・10月20日（金）アトリエ公演稽古⑥
- ・10月23日（月）アトリエ公演稽古⑦
- ・10月24日（火）アトリエ公演稽古⑧
- ・10月25日（水）アトリエ公演稽古⑨
- ・10月26日（木）アトリエ公演稽古⑩
- ・10月27日（金）アトリエ公演リハーサル
- ・10月28日（土）アトリエ公演本番①
- ・10月29日（日）アトリエ公演本番②

参加者延べ人数：241人

5 青森県立美術館演劇部公演「津軽の女」

(1) 公演概要

原作：太宰治「燈籠」、「きりぎりす」
脚本・演出・音楽：斎藤歩（北海道演劇財団芸術監督）
日時：2017年12月8日（金）19:00開演
12月9日（土）15:00開演

公演時間：65分

会場：青森県立美術館シアター

席数：180席（全席自由）

観客動員：計308人

（内訳）12月8日（金）122人（68%）※招待49人
12月9日（土）186人（103%）※招待30人

入場料金：前売一般2,500円

前売学生・60歳以上1,500円

※当日は全て500円増し

ヘア4,000円（前売りのみ）

出演：石岡博之、後藤和恵、佐々木樹姫、佐々木優、秀圓、白
鳥真生、相馬倅子、奈良和貴、平井正樹、平田彩乃、三浦雪絵、
三上由美子、盛桜華、有紀、幸田野花
※部内オーディションにより選抜。

スタッフ：

舞台監督／野村真仁

音響プラン／工藤敢司

照明プラン／佐藤牧人

オペレーター／佐藤礼治、成田安香音、福士紗雪

大道具／後藤天琉、相馬義則

小道具／石上寧子、小野寺圭子、川田幸子、小林早智子、

ちひろ、八木橋恵夢

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

共催：公益財団法人 北海道演劇財団

助成：一般財団法人 地域創造

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

(2) 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

- ・チラシ（A4版／カラー）90,000枚
- ・ポスター（B2版／カラー）150枚

広報：（2017年10月上旬から宣材物配布開始）

- ・PA顧客へダイレクトメールを送付。
- ・出演者へのチケット先行販売を実施。
- ・県内の中学校・高等学校の対象生徒へチラシを配布。
- ・県内の大学・文化施設・各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。
- ・青森市内の町内会へチラシを回覧。
- ・青森駅、弘前駅へのポスターの有料掲示。
- ・青森県内市町村広報紙へ公演情報の掲載。
- ・マスコミ各社において、ワークショップ時および公演の模様取材依頼。
- ・美術館ホームページ、facebook等ウェブ上で公演情報の発信。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員1名あたりチケット4枚まで各500円割引を実施。

(3) チケット販売／小・中・高校生 無料招待

チケット販売場所：

全 国：ローソンチケット

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：紀伊國屋書店弘前店

ヒロロ

八戸市：ラピア

五所川原市：ELM インフォメーション

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売りチケッ

トの事務局予約を受け付けた。

小・中・高校生 無料招待：

小学校4～6年生・中学生・高校生を各公演先着60名まで無料招待した。

(4) 各種サービス

託児サービス：

各公演日の開場から、終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施

終演後の送迎サービス：

公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施（2日目は昼公演のため実施なし。）

カフェ「4匹の猫」臨時営業：

開場時間まで延長営業を実施（2日目は昼公演のため実施なし。）

(5) 稽古

日程：

- ・11月1日（水）部内オーディション
- ・11月5日（日）「津軽の女」稽古①
- ・11月12日（日）「津軽の女」稽古②
- ・11月13日（月）「津軽の女」大道具制作①
- ・11月19日（日）「津軽の女」稽古③
- ・11月20日（月）「津軽の女」大道具制作②
- ・11月23日（木）「津軽の女」大道具制作③
- ・11月26日（日）「津軽の女」稽古④
- ・11月28日（火）「津軽の女」稽古⑤
- ・11月29日（水）「津軽の女」稽古⑥
- ・11月30日（木）「津軽の女」稽古⑦
- ・12月1日（金）「津軽の女」稽古⑧
- ・12月2日（土）「津軽の女」稽古⑨
- ・12月3日（日）「津軽の女」稽古⑩
- ・12月4日（月）「津軽の女」稽古⑪
- ・12月5日（火）「津軽の女」稽古⑫
- ・12月6日（水）「津軽の女」稽古⑬
- ・12月7日（木）「津軽の女」リハーサル
- ・12月8日（金）「津軽の女」本番①
- ・12月9日（土）「津軽の女」本番②

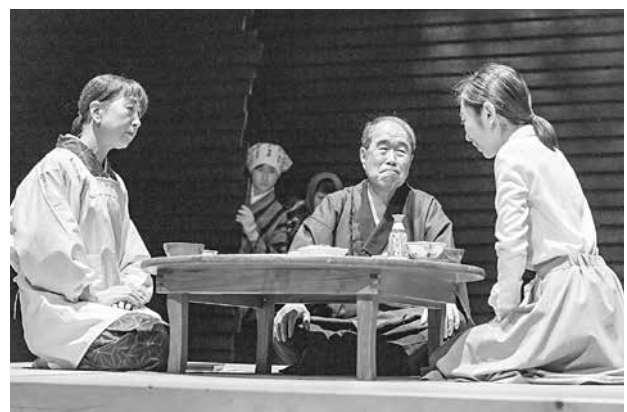
参加者延べ人数：371人



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）



公演

青森県立美術館 ドラマリーディングクラブ事業

1 ドラマリーディングクラブ

県立美術館に県民が積極的に参加できる環境を舞台芸術企画部門からアプローチする。

「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ(2009年設立)」は、経験や技術の枠にとらわれない幅広い年齢層の県内在住者を参加対象に、オリジナルの戯曲や詩・小説、その他の文章を用いた朗読形式による公演を実施している。

例年、定期公演や県内小中高等学校での出前公演を開催しているが、美術館主催による各舞台芸術企画公演へのスタッフ参加や出演等の協力も行っている。

設立：

平成 21 年度

参加条件：

- ・青森県立美術館での稽古に参加できること
- ・年齢・経験不問（未成年者は保護者の同意が必要）
- ・年間に最低 1 公演には参加できる
- ・交通費や食費等など、活動に際して個人に係るものは全て自己負担

活動場所：

青森県立美術館施設内を基本とする。

募集期間：

募集定員に達するまで随時募集

定員：

50 名（欠員が出た場合は補充）

参加料：

無料（交通費・食費等の個人に係るものは全て自己負担）

選考方法：

書類選考とし、書類受理後に随時面談を行う。

稽古内容・日程：

- ・青森県立美術館パフォーミングアーツ専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章を使い、空間を意識しつつ朗読する。
- ・定期公演に向けた稽古を実施する。
- ・青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する。
- ・その他公演に向けた稽古を実施する。

2 定期公演

(1) 公演概要

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ公演

「西行（短歌）鴨長明（方丈記・エッセイ）

現代語訳長谷川孝治」

日時：2017年5月27日（土）18:00 開演

（17:30 開演 17:00 受付開始）

会場：青森県立美術館シアター

席数：180 席（自由席）



定期公演

構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

照明：野村眞仁

写真・映像：齋藤耕平

出演者：金恵美子、齋津悦子、小野寺圭子、福田寿枝、小林早智子、菊地泰子、平井正樹

（ドラマリーディングクラブ員番号順）

入場料金：前売一般 1,000 円（当日 1,200 円）

前売学生・60 歳以上 500 円（当日 700 円）

観客動員：144 人（80%）※招待 20 人

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

(2) 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

- ・チラシ（A4 版／カラー）20,000 枚
- ・ポスター（B2 版／カラー）100 枚

広報：（2017 年 4 月下旬から宣材物配布開始）

- ・県内 PA 顧客へダイレクトメールを送付。
- ・県内新聞各社・情報誌において公演告知。
- ・県内の大学、文化施設、教育機関、各商店街等を中心に宣材物を配布し、掲示を依頼。
- ・美術館ホームページ、facebook 等ウェブ上で公演情報の発信。
- ・県内読み聞かせ団体へ公演告知。
- ・出演者へチケット先行販売の実施。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員 1 名あたり一般チケット 4 枚まで各 500 円割引を実施。

(3) チケット販売／小・中・高校生無料招待

チケット販売場所：

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：紀伊國屋書店弘前店

ヒロロ

八戸市：ラピア

五所川原市：ELM インフォメーション

事務局予約：

電話、FAX、Eメールいずれかの方法により、前売りチケットの事務局予約を受け付けた。

小・中・高校生 無料招待：

小学4年生～6年生・中学生・高校生を先着60名様まで無料招待した。

(4) 来場者サービス

託児サービス：

公演の開場から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。

終演後の送迎サービス：

公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施。



公演開催チラシ (オモテ)



公演開催チラシ (ウラ)

3 出前公演

平成25年度より、次代を担う多くの子も達に舞台芸術への理解を深めてもらうことを目的に、県内の小中高等学校へのドラマリーディング出前公演を実施している。平成29年度は、三沢市において寺山修司記念館20周年特別公演幻想市街劇「田園に死す」へ参加したほか、青森市PTA連合会研修委員主催の研修事業においてドラマリーディングを上演した。

(1) 三沢出前公演

参加公演：寺山修司記念館20周年特別公演

幻想市街劇「田園に死す」

日時：2017年8月6日(日) 13:30、14:30

会場：三沢市第一生命駐車場

演目：「声の寺山修司—短歌・童話—」

構成・演出：長谷川孝治 (青森県立美術館舞台芸術総監督)

延べ観客動員数：187名

(2) 青森市PTA連合会出前公演

出演公演：青森市PTA連合会研修委員主催研修事業

日時：2017年12月23日(土・祝) 13:00

会場：青森県立美術館シアター

演目：「あらしのよるに」(作 木村裕一／絵 あべ弘士)

構成・演出：長谷川孝治 (青森県立美術館舞台芸術総監督)

観客動員数：133名

おはなしフェスタ事業 「秋のおはなし美術館」

1 事業概要

おはなしフェスタは、県内各地域で活動している読み聞かせ団体・昔語り団体・個人が一堂に会し、青森県立美術館舞台芸術企画課と各団体・個人が協力して絵本の読み聞かせや地域に伝わる昔話の公演を行う事業として、2012年から開催してきた。各世代の県民が共に鑑賞できる公演を行うことで、幅広い世代の県民に舞台公演の魅力を知る機会を創出し、また、各団体の活動を広く県民に伝え、相互の交流を通じて各団体の活性化を図り、地域の様々な世代の交流を促進させ、地域の文化力の向上を目指すことを目的としている。

平成29年度は、「秋のおはなし美術館」と題して青森県立美術館シアターを主会場に、県内各地域の読み聞かせ団体が出演するドラマリーディング形式での絵本の読み聞かせ、昔語り等を上演した。

上演内容は午前・午後で「未就学児」「小学校低学年」「小学校中学年以上」と対象年齢を分け、午後の部は予約なしで鑑賞できるようにするなど、観客が参加しやすい環境を整えた。

また、キッズルーム、図書室も会場として、絵本の読み聞かせや昔語りを行った。

日時：2017年11月3日（金・祝）、4日（土）

午前の部 10:30 - 12:00

午後の部 13:00 - 15:00

会場：青森県立美術館シアター、キッズルーム、図書室

参加：24団体（206人）

入場料金：無料

午前の部のみ往復ハガキによる予約制

午後の部は自由入場

観客動員：1,249人

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

共催：青森県立美術館サポートシップ倶楽部

コーディネイト：秋田敏博（親子ふれあいアドバイザー）

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

・チラシ（B4版カラー）30,000枚

・ポスター（B2版カラー）100枚

広報：（2017年10月上旬から宣材物配布開始）

・県内文化施設、図書館、観光施設等を中心に広報物を配布し、
掲示を依頼。

・PA顧客等へダイレクトメールを送付。

・青森市内小学校、幼稚園、保育園に全児童・幼児分のチラシ
を送付。

記録：

・全ての公演について記録写真撮影。

・シアター上演について記録映像収録。



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）



シアター公演

ダンス

北海道・北東北連携ダンスプログラム制作事業 ダンスワークショップ

1 事業概要

青森県立美術館でしかできない芸術体験として、国内外を拠点に活躍するアーティストを講師に招き3日間連続のダンスワークショップを開催した。

北海道・北東北地域からも人財を募り、参加者のダンスに対する理解を深めるとともに、海外・県内外との文化を通じた交流を図った。

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

- ・チラシ (A4版/カラー) 60,000枚
- ・ポスター (B2版/カラー) 100枚

広報：(2017年7月上旬から宣材物配布開始)

- ・青森市周辺市町村の中学校・高校の対象生徒全員へのチラシの配布。
- ・青森市周辺市町村以外の青森県内中学校・高校へのチラシの配布。
- ・北海道、青森県、岩手県内の大学・文化施設・各商店街等を中心にポスター・チラシを配布し、掲示を依頼。
- ・PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・新聞各社において、事前の告知、当日のワークショップを取材依頼。

3 ワークショップ概要

(1) 出演者募集

募集期間：2017年7月下旬から9月1日(金)まで

応募資格：

- ・ダンス経験があること(ダンスのジャンル、レベルは問わない)

- ・9月16日(土) - 18日(月・祝)に青森県立美術館で開催するワークショップに、原則、全日程参加可能であること
- ・高校生以下にあっては、保護者の同意が得られていること

参加費：

無料(ワークショップ参加に係る交通費、昼食等の支給はない。)

募集人数：

15名程度(応募者多数の場合は、抽選により決定。)

(2) 応募実績

応募者：34名

内訳(青森市22名、弘前市5名、岩手県紫波町、三沢市、五戸町、十和田市、深浦町、黒石市、つがる市 各1名)

参加者：21名参加決定

内訳(青森市15名、岩手県紫波町、三沢市、五戸町、深浦町、黒石市、つがる市 各1名)

※実施の際に1名欠席。

(3) ワークショップ概要

講師：チャン・イエラ

沼尾みやこ

実施期間：2017年9月16日(土) - 18日(月・祝)

実施内容：

- ・9月16日(土) 13:30 - 15:30 講師：沼尾みやこ
16:00 - 19:00 講師：チャン・イエラ
- ・9月17日(日) 10:00 - 15:00 講師：チャン・イエラ
- ・9月18日(月・祝)
10:00 - 15:00 講師：チャン・イエラ
15:30 - 16:00 成果発表

会場：青森県立美術館スタジオ、シアター



ワークショップチラシ (オモチ)



ワークショップチラシ (ウラ)



成果発表公演風景

青森県立美術館舞台芸術企画 アレコ 2018「Zemphira」

1 事業概要

県立美術館はコレクションの中核としてマルク・シャガール作のバレエ「アレコ」舞台背景画3作品を所蔵し、2017年4月からは米国フィラデルフィア美術館が所蔵する1作品を借用し、全4作品を完全展示している。加えて、北海道・北東北地域は、全国的な大会で活躍する一輪車団体が多く所在していることから、これらの特徴を活かし、青森県立美術館でしか味わうことのできない芸術体験として、シャガール作の舞台背景画が展示されているアレコホールを会場に、バレエ「アレコ」と同じくプーシキンの長編詩「ジプシー」を原作に、北海道・北東北の一輪車団体と海外から招聘したダンサー等が共演する作品『アレコ2018「Zemphira」』を上演した。

また、この公演には9月に開催したダンスワークショップの参加者から3名が出演した。

この事業の実施により、青森県の舞台芸術を国内外に向けて発信し、今後のダンス事業を担うアーティストの発掘・育成を図った。

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

- ・チラシ（A4版／カラー）90,000枚
- ・ポスター（B2版／カラー）100枚

広報：

- ・2017年12月上旬から宣材物配布開始。
- ・青森市周辺市町村の中学校・高校の全生徒へのチラシの配布。
- ・青森市周辺市町村以外の県内中学校・高校へのチラシの配布。
- ・北海道、青森県、岩手県の大学・文化施設・公共施設等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。
- ・PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・新聞各社において、公演告知、練習時および公演の様相を取材依頼。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチケットを作成し、会員一人あたりチケット2枚まで前売料金から各500円割引を実施。



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）

3 チケット販売

チケット販売場所：

- 全 国：ローソンチケット
- 青森市：成田本店しんまち店
青森県立美術館ミュージアムショップ
- 弘前市：紀伊國屋書店弘前店、ヒロロ
- 八戸市：ラビア
- 五所川原市：ELM インフォメーション

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売りチケットの事務局予約を受け付けた。

4 各種サービス

託児サービス：

各公演日の開場から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。

終演後の送迎サービス：

各日公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施。

カフェ「4匹の猫」臨時営業：

各公演日は、開場時間まで延長営業を実施。

5 公演詳細

公演名：青森県立美術館舞台芸術企画
アレコ 2018「Zemphira」

構成・脚本・演出：長谷川孝治
(青森県立美術館舞台芸術総監督)

日時：2018年2月2日（金）開演 19:00

2月3日（土）開演 18:00

会場：青森県立美術館アレコホール（席数：200席）

入場料金：前売一般 3,000円（当日 3,500円）

前売 60歳以上 2,000円（当日 2,500円）

前売学生 1,000円（当日 1,500円）

ペア券 5,000円（前売販売のみ）

公演時間：80分

観客動員数：計 402名

（内訳）2月2日（金）204人（100.2%）

2月3日（土）198人（99.0%）

出演：

ゼンフィーラ・マリウーラの心：チャン・イェラ

ゼンフィーラ：平田彩乃（青森県立美術館演劇部）

マリウーラ：福田寿枝

（青森県立美術館ドラマリーディングクラブ）

<ダンス>

伊藤沙和、加藤絢奈、大宮由依

[振付] 沼尾みやこ

<一輪車>

UC フロンティア 札幌

岡部莉奈、高橋優妃

È H A T O V

梅澤七海、畠山愛梨、若林真陽、石田花音、照井未咲、松

井愛美、佐々木希美、稲田輝良里、工藤奈々実、遠藤藍奈
豊田児童センター 一輪車クラブ

豊澤賢也、鎌田菜乃、西谷萌、中畑佳翔、松田繭、田中伶旺、
小山内こころ、北山光咲、古山七斗、棟方翔也

スタッフ：舞台監督／野村眞仁

舞台制作／本多大公、鈴木徳人

照明／佐藤牧人、神照一

音響／工藤敢司、寺山紀幸

映像／齋藤耕平、野村眞仁

韓国語翻訳・通訳／木村典子

主催：青森県立美術館 パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館



6 出演者・出演団体プロフィール

チャン イエラ (Jang Yela) [韓国・ソウル市]

韓国・漢城大学芸術大学校で舞踊を学び、中国・中央戯劇学院
大学院を卒業。現在は中国・上海を拠点に活動している。舞台
公演の演出・出演、映像作品への出演、ワークショップの開催
など多岐に渡り活動しており、身体の動きと感情をテーマとし
た講義を深圳大学などで行っている。

UC フロンティア 札幌 [北海道札幌市]

2008年発足、2017年第45回札幌文化団体協議会フェスティ
バル芸術選賞受賞。現在は約20名の選手が所属し、北海道で
の一輪車演技競技普及活動を中心として活動する。JOIN ALIVE
会場内パフォーマンスや札幌市の中心部にある地下歩行空間の
パフォーマーとして活動する等、不特定多数の観客に向けた取
り組みを行っている。

ÈHATOV (イーハトーヴ) [岩手県滝沢市]

1997年岩手県滝沢市にある篠木小学校の児童を中心としたク
ラブチームとして発足。創部20周年を迎えこれまでに185名
の子供達が在籍した。技術だけではなく、心を伝える演技を心
がけ活動している。

豊田児童センター一輪車クラブ [青森県弘前市]

1984年に一輪車を導入し、1986年から本格的活動を開始。
1988年全日本一輪車大会において、初出場で団体総合優勝を
果たし、通算12回日本一となった。また、国際大会において
も4度の団体優勝を果たし、今や一輪車業界において、豊田発
祥の表現豊かな演技は広く知られている。現在も先輩たちが築
き上げてきた演技傾向をしっかりと受け継ぎ、活動を続けている。

[ダンス振付]

沼尾みやこ [青森県おいらせ町]

1987年3月からJAZZ DANCE STUDIO [DANCE WAG] 代
表。八戸、十和田にてジュニアから一般までを対象にレッスン
展開中。WAG LIVEとして構成・振付したホール公演や
SHOWを行う他、スタジオパフォーマンスを企画・開催する。
これまでに県立美術館での舞踊劇『アレコ』や県民参加型演劇
『MIYAZAWA』『戯曲寺山修司論』『Dance Aleko 2017』へ出演。



公演風景

音楽

アレコホール定期演奏会 2017 「Incontro」

1 事業概要

『アレコホール定期演奏会 2017 「Incontro (インコントロ)」』と題し、全2回の公演を実施した。

平成29年度公演では、ヴァイオリニストの三上亮氏をメインに、前年度当館で開催した「5台ピアノコンサート」にも参加した八戸市在住のピアニスト・佐藤慎悟氏が伴奏者として出演。著名なヴァイオリン製作者であるストラディヴァリの師匠にあたるニコロ・アマティが約400年前に製作した貴重なヴァイオリンが演奏された。

また、会場となるアレコホールでは、マルク・シャガール作のバレエ「アレコ」舞台背景画のうち、期間限定で米・フィラデルフィア美術館より借用した第3幕を含めた全4作品を約11年ぶりに完全展示する中で公演を行った。

※公演名である「Incontro (インコントロ)」は、イタリア語で「出会い」の意。

日時：－Ⅰ－ 2017年7月15日(土)

－Ⅱ－ 2017年9月30日(土)

開演 19:00

開場 18:30 / 受付開始 18:00

会場：青森県立美術館アレコホール

席数：200席(全席自由)

入場料金：前売一般2,000円(当日2,500円)

前売学生1,000円(当日1,500円)

ペア3,000円(前売販売のみ)

2回券(一般)2,700円

2回券(学生)1,600円

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

チラシ (A4版/カラー) 90,000枚

ポスター (B2版/カラー) 200枚

広報：

(2017年5月下旬から宣材物配布開始)

- ・PA顧客へダイレクトメールを送付。
- ・県内の小学校・中学校・高等学校の対象児童・生徒へのチラシを配布。
- ・県内の大学・文化施設・教育機関・道の駅・音楽教室・各商

店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。

- ・北海道函館市近郊の音楽教室へ広報物を配布。
- ・新聞媒体への公演情報の掲載。
- ・青森市発行の広報誌への公演情報の掲載。
- ・美術館のホームページ・ブログ・Twitter・Facebook等、ウェブ上での公演情報の発信。
- ・青森県の広報枠を使用した、コンビニエンスストア(ローソン県内全店)へのチラシの掲示、FMラジオ番組での公演情報の発信。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員1名あたりチケット2枚まで各500円割引を実施。

3 チケット販売/小・中・高校生 無料招待

チケット販売場所：

全 国：ローソンチケット

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

紀伊國屋書店弘前店

五所川原市：ELM インフォメーション

つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

八戸市：三春屋、ラピア

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売チケットの事務局予約を受け付けた。

小・中・高校生 無料招待：

小学4年生～6年生・中学生・高校生を各公演先着60名まで無料招待した。

4 各種サービス

託児サービス：

各公演の開場から終演まで、キッズルームにて無料託児サービスを実施。

終演後の送迎サービス：

各公演終演後に青森駅までの無料送迎を実施。

カフェ「4匹の猫」臨時営業：

各公演日は、開場時間まで美術館内カフェの延長営業を実施。

5 各公演詳細

(1) 出演者(演奏者)

三上 亮(ヴァイオリン)

佐藤 慎悟(ピアノ)

(2) 演奏曲目

－I－

クロード・ドビュッシー

ベルガマスク組曲より「月の光」

演奏：佐藤慎悟

クロード・ドビュッシー

亜麻色の髪の乙女

演奏：三上亮、佐藤慎悟

モーリス・ラヴェル

ヴァイオリンソナタ ト長調

演奏：三上亮、佐藤慎悟

休憩 (20分)

エルネスト・ショーン

詩曲

演奏：三上亮、佐藤慎悟

パブロ・デ・サラサーテ

ツイゴイネルワイゼン

演奏：三上亮、佐藤慎悟

【アンコール】

ジョゼフ・アクロン

ヘブライのメロディ

演奏：三上亮、佐藤慎悟

－II－

クロード・ドビュッシー

ベルガマスク組曲より「月の光」

演奏：佐藤慎悟

クロード・ドビュッシー

亜麻色の髪の乙女

演奏：三上亮、佐藤慎悟

ウジェーヌ・イザイ

悲劇的な詩

演奏：三上亮、佐藤慎悟

休憩 (20分)

ジョゼフ・アクロン

ヘブライのメロディ

演奏：三上亮、佐藤慎悟

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

懐かしい土地の思い出より「メロディ」

演奏：三上亮、佐藤慎悟

モーリス・ラヴェル

ツイガーヌ

演奏：三上亮、佐藤慎悟

【アンコール】

ジュール・マスネ

タイスの瞑想曲

演奏：三上亮、佐藤慎悟

(3) 観客動員 428人 (107%)

回	有料	招待	合計
－I－ 7/15	140	93	233
－II－ 9/30	123	72	195
計	263	165	428

6 演奏家プロフィール

三上 亮

東京藝術大学音楽学部首席卒業後、明治安田クオリティオブライフ文化財団、ロームミュージックファンデーションなどから助成金を得てアメリカ南メソディスト大学メドウズ音楽院、ローザンヌ高等音楽院、メニューイン国際音楽アカデミーで研鑽を積む。景山誠治、エドゥアルド・シュミーター、ピエール・アモイヤル、アルベルト・リジー諸氏に師事。その間、安宅賞、日本音楽コンクール第2位、ブリテン国際ヴァイオリンコンクール特別賞、フォーヴァルスカラシップ・ストラディヴァリウスコンクール第2位など受賞。カメラータ・リジーや、カメラータ・ローザンヌのメンバーとしてスイス国内を拠点にヨーロッパ各地で演奏した。2007年ルーマニアエネスコ音楽祭にも出演しテレビ放映される。ローザンヌ室内管弦楽団、東京交響楽団などと共演。2007年に帰国後、札幌交響楽団コンサートマスター、東京藝術大学非常勤講師、日本音楽コンクール審査員など歴任。

2013年秋、巨匠ピアニスト、イェルク・デームス氏とデュオリサイタルを開催し、好評を博した。また2017年春は全国5都市でリサイタルツアーを行った。その他、慰問演奏会、チャリティにも積極的に取り組み、2013年に長崎で開催した福島農業支援団体へのチャリティコンサートは、NHKで取り上げられるなど注目された。NHK-Eテレ「らららクラシック」、NHK-FM「気ままにクラシック」などにも出演。ローザンヌ室内管弦楽団、東京交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、札幌交響楽団などとコンチェルトを共演。

室内楽では、2008年に結成されたヴィルタス・クワルテットの第1ヴァイオリン奏者を務めている。2013年に発足した「いわき室内楽協会」のもと、いわきアリオスにて年4回の定期演奏会を行なっている。第2回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞受賞。ベートーヴェンの作品を主に取り上げ、東京近郊での定期的な演奏会や札幌、仙台、また各地でのラ・フォル・ジュルネに参加など意欲的に活動している。

その他、サイトウキネンオーケストラ、水戸室内管弦楽団などへの参加や、各地のオーケストラのゲストコンサートマスターとしても活躍。

使用楽器は、2016年4月より貸与されている1628年製ニコロ・アマティ。

佐藤 慎悟

青森県八戸市生まれ。3歳よりピアノを始め幼少時代より数々のコンクールで上位入賞。

昭和音楽大学ピアノ演奏家コース特待生入学。在学中、S.ペルティカローリ賞ピアノコンクール第1位、第11回日本クラシック音楽コンクール全国大会第2位（1位、3位なし）など様々なコンクールで賞を受賞。その他に学内、学外でのリサイタル演奏活動の他、同大学エレクトーンサークル、吹奏楽団、管弦楽団に推薦され協奏曲を演奏。また八戸、神奈川、ローマ（イタリア）等でソロリサイタルを行う。卒業時、特別賞（学長賞）を受賞し卒業演奏会に出場。第73回読売新聞社主催読売新人演奏会、青森県新人演奏会などに出場。

その後、2004年～2009年、渡伊。イタリア国立ローマ・サンタ・チェチリア音楽院アカデミアに入学。2007年、ピオンビーノ音楽コンクールで審査員満場一致で第1位と現代曲賞を、エウテルペ音楽コンクールでは審査員満場一致で第1位と最優秀演奏賞、バリ市市民大賞を受賞。2008年、ブッキアーニコ国際音楽コンクール第2位、G.カンポキアーロ国際音楽コンクール第1位を受賞。2009年に国際現代音楽祭（ローマ）、若いアーティスト音楽祭（フィレンツェ）、優勝者コンサート（パリ）など様々なコンクール、コンサートに出場。ローマを拠点に、フランスなどでコンサートやコンクールに出場し研鑽を積む。2009年、インターナショナル・アーツ・アカデミーピアノ演奏家コース満場一致で首席修了。ピアノ基礎、室内楽、協奏曲、リサイタル各部門で満点+獲得。

帰国後、自宅でピアノ教室を主宰。各ピアノコンクールの審査員を務めながらソロ活動や合唱団、室内楽、声楽や器楽の各ソリストとの共演にも力を入れており「PianoPiano」「Iris」「Trio Bearissimo」「Musica Liberta」「Ensemble da Camera」のメンバーでもある。

また現在、青森県ピアノ研究会八戸支部長を務めている。

2014年に八戸ジュニアオーケストラと、2015年に八戸市民フィルハーモニー交響楽団と協奏曲を共演。

これまでにピアノを浅野清、故・海老原直美、石塚幸生、横山幸雄、S.ペルティカローリ、V.アウディーノ、C.グアイトリ、故・C.ジュディチ。

歌曲伴奏を金井紀子、室内楽を川染雅嗣、奈良康祐の各氏に師事。



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）

映画

「特集・たむらまさきの眼<マナグ>」

1 事業概要

近年の映画事業では『特集・高倉健』（平成 26 年度）、『特集・北野武／成瀬巳喜男』（平成 27 年度）、『特集・相米慎二の 10 年間<テン・イヤーズ>』『特集・川島雄三と岡本喜八』（平成 28 年度）などを開催し、各作品や各映画人の再評価を試みると同時に、「映画を劇場で観る」ことの価値を改めて提示してきた。

平成 29 年度は、10 月 6 日（金）－ 14 日（土）の計 6 日間に渡り「特集・たむらまさきの眼（マナグ）」と題し、映画カメラマン・たむらまさき氏の撮影作品を特集上映した。

1970 年代から現在まで活躍を続ける、たむらまさき氏は青森県弘前市の出身で、当時若手であった相米慎二や青山真治、河瀬直美、黒沢清各監督作品に参加、各自の意欲的な映画世界の確立に尽力してきた存在であり、日本インディペンデント映画界を下支えしてきた重要なキーパーソンの一人である。ドキュメンタリーからスタートしたキャリアを活かし、俳優や風景が魅せる一瞬を逃すことなく見つめた映像世界は多くの映画監督から大きな信頼を集めている。

第 1 週の上映作品は、1970 年代から 2000 年代までの撮影作品から『竜馬暗殺』、『熱海殺人事件』、『夢の祭り』、『萌の朱雀』、『EUREKA ユリイカ』、『SELF AND OTHERS』の 6 作品に加え、2014 年、75 歳にして映画監督デビューを果たした初監督作『ドライブイン蒲生』の県内初上映と合わせ、計 7 作品。続く第 2 週は、多くの作品でたむらまさき氏とタッグを組んだ青山真治監督作品の中から『Helpless』、『EUREKA ユリイカ』、『月の砂漠』、『サッド ヴァケーション』の 4 作品を上映し、10 月 14 日（土）には、青山真治監督を迎えての《ゲストトーク》



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）

を開催した。

なお、公演タイトルの（マナグ）は、青森県津軽地方の方言で（眼）を意味する。

公演名：青森県立美術館 映画上映

「特集・たむらまさきの眼<マナグ>」

会場：青森県立美術館シアター

席数：180 席（全席自由）

開催日：2017 年 10 月 6 日（金）－ 9 日（月・祝）、13 日（金）、14 日（土）計 6 日間

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

助成：芸術文化振興基金

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

チラシ（B5 版／カラー）30,000 枚

ポスター（B2 版／カラー）200 枚

広報：

（2017 年 8 月下旬から宣材物配布開始）

- ・PA 顧客へダイレクトメールの送付。
- ・県外含む各映画館、各映画上映会での上映会広報物の掲示・配布。（一部映画館では有料スペースへの掲示も実施）
- ・青森県内の文化施設・教育機関・道の駅・各商店等を中心に広報物を配布し、掲示・周知を依頼。
- ・青森県の広報枠を使用した、FM ラジオ番組出演による開催情報の発信。
- ・新聞紙面での公演記事の掲載。
- ・県内 12 市町村の広報誌へ上映会情報の掲載。
- ・八戸市のタウン情報誌（無料発行）への上映会情報の掲載。
- ・青森県立美術館のホームページ・ブログ・Twitter・Facebook 等、ウェブ上での公演情報の発信。
- ・情報サイト「映画ナタリー」に公演情報掲載。
- ・青森駅・弘前駅・青森市営バス停留所 25 ヶ所へのポスターの有料掲示。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成し、会員 1 人あたりチケット 3 枚まで前売料金から各 500 円割引を実施。
- ・青森市内のすべて（166 ヶ所）の老人クラブへ上映会チラシを送付。
- ・青森市内一部地区において、上映会チラシの新聞折り込みを実施。

3 入場料金／チケット販売

1日券：平日上映日 前売 1,000円

土日祝上映日 前売 1,200円

※当日は各 200円増し

※日時指定で当日の全作品鑑賞可

(10月14日はゲストトークも鑑賞可)

1日券販売プレイガイド：

全 国：ローソンチケット

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

五所川原市：ELM インフォメーション

つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

ラスト1本割引：

500円均一

※前売・当日料金同額

※日時指定で各日の最終回上映のみ鑑賞可

(10月14日はゲストトーク鑑賞不可)

※事務局予約・当日受付のみで販売

通し券：

前売のみ 2,500円

※当日販売なし

※上映会期間中の全上映を鑑賞可

(10月14日はゲストトークも鑑賞可)

事務局予約：

電話、FAX、Eメールのいずれかの方法により、前売りチケットの事務局予約を受け付けた。

4 公演詳細

上映作品 (全 10 作品)：

『竜馬暗殺』

(1974年・黒木和雄監督・35ミリフィルム上映)

『熱海殺人事件』

(1986年・高橋和男監督・35ミリフィルム上映)

『夢の祭り』

(1989年・長部日出雄監督・35ミリフィルム上映)

『Helpless』

(1996年・青山真治監督・35ミリフィルム上映)

『萌の朱雀』

(1996年・河瀬直美監督・35ミリフィルム上映)

『EUREKA ユリイカ』

(2000年・青山真治監督・35ミリフィルム上映)

『SELF AND OTHERS』

(2000年・佐藤真監督・16ミリフィルム上映)

『月の砂漠』

(2001年・青山真治監督・35ミリフィルム上映)

『サッド ヴァケイション』

(2007年・青山真治監督・35ミリフィルム上映)

『ドライブイン蒲生』

(2014年・たむらまさき監督・ブルーレイ上映)



ゲストトーク

ゲストトーク：

出演：青山真治 (映画監督)

開催スケジュール：

2017年10月6日 (金)

10:10 上映 『竜馬暗殺』

12:55 上映 『熱海殺人事件』

2017年10月7日 (土)

10:10 上映 『夢の祭り』

12:55 上映 『竜馬暗殺』

15:20 上映 『EUREKA ユリイカ』

2017年10月8日 (日)

10:10 上映 『SELF AND OTHERS』

11:50 上映 『夢の祭り』

14:05 上映 『萌の朱雀』

16:00 上映 『ドライブイン蒲生』

2017年10月9日 (月・祝)

10:10 上映 『ドライブイン蒲生』

12:30 上映 『熱海殺人事件』

14:50 上映 『SELF AND OTHERS』

16:05 上映 『萌の朱雀』

2017年10月13日 (金)

15:25 上映 『月の砂漠』

17:50 上映 『Helpless』

19:30 上映 『サッド ヴァケイション』

※『Helpless』上映中の映写トラブルにより、続く『サッド ヴァケイション』の上映開始 (19:25 上映予定) を5分繰り下げ対応を行った。

2017年10月14日 (土)

09:50 上映 『Helpless』

11:55 上映 『EUREKA ユリイカ』

15:50 開始 【ゲストトーク】

17:00 上映 『サッド ヴァケイション』

19:30 上映 『月の砂漠』

※各日初回上映の10分前開場

観客動員数： 451 人（全 20 上映）

【内訳】 （カッコ内は上数字に含まれる招待者数）

作品名	上映①	上映②	計
『竜馬暗殺』	24 (7)	24 (3)	48 (10)
『熱海殺人事件』	19 (4)	19 (3)	38 (7)
『夢の祭り』	32 (8)	25 (5)	57 (13)
『Helpless』	17 (2)	14 (3)	31 (5)
『萌の朱雀』	27 (3)	12 (2)	39 (5)
『EUREKA ユリイカ』	14 (3)	37 (7)	51 (10)
『SELF AND OTHERS』	22 (4)	20 (2)	42 (6)
『月の砂漠』	16 (1)	12 (2)	28 (3)
『サッド ヴァケイション』	12 (3)	28 (5)	40 (8)
『ドライブイン蒲生』	25 (4)	13 (3)	38 (7)
【ゲストトーク】	39 (7)	—	39 (7)
計	247 (46)	204 (35)	451 (81)

「特集・溝口健二」

1 事業概要

10月20日（金）から22日（日）の3日間に「特集・溝口健二」と題し、溝口健二監督の特集上映を実施した。

溝口健二監督は、黒澤明や小津安二郎とともに世界の映画人から今もなお深い敬愛を受ける日本を代表する映画監督であり、虐げられた女性を徹底的に描き切ることに才を発揮し、そこに浮かび上がる人間男女の欲と業は、映画を新たなる高みへと押し上げる功績を果たした。

上映作品は、3年連続でヴェネチア国際映画祭にて受賞を果たした『西鶴一代女』、『雨月物語』、『山椒大夫』の3作品に加え、近松門左衛門の原作を脚色した『近松物語』の計4作品。

なお、本上映会は文化庁と東京国立近代美術館フィルムセンターが、広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供するため日本各地の公立文化施設と連携・協力し、所蔵映画フィルムの巡回上映を全国の会場で実施している「優秀映画鑑賞推進事業」の一環としての上映となる。

公演名：青森県立美術館 映画上映

「特集・溝口健二」

会場：青森県立美術館シアター

席数：180席（全席自由）

開催日：2017年10月20日（金）－22日（日）

計3日間

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館、文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター

特別協賛：木下グループ

協力：株式会社オーエムシー

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

チラシ（B5版／カラー）20,000枚

ポスター（B2版／カラー）100枚

広報：

（2017年8月下旬から宣材物配布開始）

- ・PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・県外含む各映画館、各映画上映会での上映会広報物の掲示・配布。
- ・青森県内の文化施設・教育機関・道の駅・各商店等を中心に広報物を配布し、掲示・周知を依頼。
- ・青森県の広報枠を使用した、コンビニエンスストア（ローソン県内全店）へのチラシの掲示。
- ・県内14市町村の広報誌へ上映会情報の掲載。
- ・八戸市・北海道函館市のタウン情報誌（無料発行）への上映会情報の掲載。
- ・青森県立美術館のホームページ・ブログ・Twitter・Facebook等、ウェブ上での公演情報の発信。
- ・青森県立美術館サポートシップ倶楽部会員向けチラシを作成

し、会員1人あたりチケット3枚まで前売料金から各500円割引を実施。

- ・青森市内のすべて（166ヶ所）の老人クラブへ上映会チラシを送付。
- ・青森市内一部地区において、上映会チラシの新聞折り込みを実施。

3 入場料金・チケット販売

1日券：

10月20日 前売 800円
 10月21日 前売 1,000円
 10月22日 前売 1,000円

※当日は各200円増し

※日時指定で当日の全作品鑑賞可

1日券販売プレイガイド：

青森市：成田本店しんまち店

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロロ

五所川原市：ELM インフォメーション

つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

ラスト1本割引：

500円均一

※前売・当日料金同額

※日時指定で各日の最終回上映のみ鑑賞可

※事務局予約・当日受付のみで販売

通し券：

前売のみ 1,500円

※当日販売なし

※上映会期間中の全上映を鑑賞可

「たむらまさきの眼」通し券で無料：

映画上映「特集・たむらまさきの眼<マナグ>」の通し券をご購入された方は、無料で鑑賞可能。

事務局予約：

電話・FAX・Eメールのいずれかの方法により、前売りチケットの事務局予約を受け付けた。

4 公演詳細

上映作品

溝口健二監督

『西鶴一代女』(1952)

『雨月物語』(1953)

『山椒大夫』(1954)

『近松物語』(1954)

計4作品（全作品35ミリフィルム上映）

開催スケジュール：

2017年10月20日（金）

10：10 上映 『雨月物語』

12：30 上映 『山椒大夫』

2017年10月21日（土）

09：45 上映 『西鶴一代女』

12：45 上映 『雨月物語』

14：40 上映 『近松物語』

2017年10月22日（日）

09：45 上映 『近松物語』

12：10 上映 『西鶴一代女』

14：45 上映 『山椒大夫』

※各日初回上映の10分前開場

観客動員数：367人（全8上映）

【内訳】（カッコ内は上数字に含まれる招待者数）

作品名	上映①	上映②	計
『西鶴一代女』	46 (14)	50 (9)	96 (23)
『雨月物語』	31 (13)	56 (18)	87 (31)
『山椒大夫』	39 (18)	50 (6)	89 (24)
『近松物語』	61 (7)	34 (4)	95 (11)
計	177 (52)	190 (37)	367 (89)



公演開催チラシ（オモテ）



公演開催チラシ（ウラ）

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム

博物館実習

サポートシップ倶楽部

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (148.76㎡)	2,180円	3,480円	1時間 870円
B (60.47㎡)	900円	1,440円	1時間 360円
C (131.30㎡)	1,930円	3,080円	1時間 770円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーが使用できない場合があります。

■ 企画展示室

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (182.70㎡)	2,550円	4,080円	1時間 1,020円
B (140.39㎡)	2,050円	3,280円	1時間 820円
C (389.51㎡)	5,650円	9,040円	1時間 2,260円
D (228.06㎡)	3,330円	5,320円	1時間 1,330円
E (105.91㎡)	1,530円	2,440円	1時間 610円
映像室 (70.38㎡)	1,030円	1,640円	1時間 410円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 企画展示室の使用については、県立美術館との共催事業に限ります。

② シアター等を使用する場合

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)
シアター (220席) (348.20㎡)	1時間 2,460円
映写室 (36.36㎡)	1時間 260円
アナウンスブース (6.35㎡)	1時間 50円
ワークショップA (124.38㎡)	1時間 920円
ワークショップB (185.28㎡)	1時間 1,330円
暗室 (22.45㎡)	1時間 160円
スタジオ (100.98㎡)	1時間 740円
映像編集室 (24.77㎡)	1時間 180円
スタジオ映写室 (28.88㎡)	1時間 210円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 暗室は、ワークショップAを利用する場合、又はワークショップAが利用されていないとき使用できます。
- ※ 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できます。
- ※ 4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できます。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。
- ・企画展示室については、1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

② シアター等

- ・1時間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き10日を超えることはできません。

* 美術館のすべての施設において

- ・美術館の休館日は、使用できません。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

- ① 美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間〔9時30分から17時まで(6月～9月は、9時から18時)〕とします。なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1時間単位で21時(シアター利用に限り22時)まで延長することができます。開館時間前の使用については、ご相談ください。
- ② 施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。(延長した場合であっても21時(シアターについては22時)には撤収が完了していなければなりません。)
- ③ 展示施設は、9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とします。
- ④ シアター等は、1時間単位での使用とします。

■コミュニティギャラリー、企画展示室、シアター、スタジオほか

(単位：人)

使用期間	使用者	催事名	使用施設	入場者数
4/24-5/22	株式会社エフエム青森	エフエム青森開局 30 周年 「連載 30 周年記念 ぼのぼの原画展」	コミュニティギャラリー ABC	3,778
5/21	株式会社ストロボライツ	竹澤汀 LIVE (p)review Museum Tour 2017 青森	シアター、映写室	106
6/4-6/5	株式会社バディーズ	青森スタイリストアワード 2017	コミュニティギャラリー ABC、 スタジオ、シアター、映写室	100
6/13	株式会社アール・エー・ピーサービス	ドキュメンタリー映画「つむぐ…織人は風の道をゆく」上映会	シアター、映写室	50
6/22-6/25	奥崎 文一	グループ写真展	コミュニティギャラリー C	210
6/23-6/25	第 19 回日本アニメーション学会大会	第 19 回日本アニメーション学会大会	シアター、ワークショップ	166
7/13-7/17	柳谷 暁彦	柳谷暁彦作品展「ぼくの、じゆうなせかい」(仮)	コミュニティギャラリー B	100
9/16-9/18	一般社団法人青森県文化振興会議	第 58 回青森県美術展覧会「県展 2017」 審査	コミュニティギャラリー ABC	80
9/19-9/24	伊藤 俊幸	惹かれる風景 伊藤俊幸写真展	コミュニティギャラリー C	383
9/23-9/24	社会福祉法人平館福祉会	エコル作品展	コミュニティギャラリー A	106
9/23-9/24	ひろさき芸術舞踊実行委員会	DREAMER	シアター、映写室	100
9/29-10/1	株式会社田名部組	第 10 回建築家展	コミュニティギャラリー ABC	70
10/4	mizuuro 株式会社	おやさいクレヨン撮影	コミュニティギャラリー C	7
10/5-10/7	沼田 毅	沼田つよし写真展	ワークショップ B	65
10/6-10/9	外崎 文夫	イワタ雅一写真展-セーヌを見たいと思った。-	コミュニティギャラリー C	159
10/11-10/23	一般社団法人青森県文化振興会議	第 58 回青森県美術展覧会「県展 2017」	コミュニティギャラリー ABC ※ 10/17 は B のみ	1,546
10/27-10/29	MOA 美術館青森児童作品展実行委員会	第 29 回 MOA 美術館青森児童作品展	コミュニティギャラリー ABC、 シアター、映写室 ※シアター-映写室は 10/27-28	1,720
11/2-11/5	木立 将隆	写真展「山郷の杜」	コミュニティギャラリー A	260
11/2-11/5	村上 あさ子	津軽裂織教室作品展-模様で遊ぶ袋と針刺し-	コミュニティギャラリー B	260
11/9-11/12	mizuuro 株式会社	100 人のおやさいクレヨン画展	コミュニティギャラリー ABC	1,419
11/12	トモ・スズキ・ジャパン有限公司	マシュー・バーニー「クレマスター」シリーズ 4 作品上映	シアター、映写室	80
11/14-11/27	株式会社エーアイサイン	伊藤二子、石澤暁夫 スーパーコラボ展	コミュニティギャラリー ABC	850
11/17-11/19	青森ダンスエクスペリエンスの会	BUTOH Festival in AOMORI III (写真展示)	スタジオ	130
11/19	青森ダンスエクスペリエンスの会	BUTOH Festival in AOMORI III (講演会・パフォーマンス・映像展示)	スタジオ	80
11/28-12/4	一般社団法人あおもりインクルージョンネットワーク	北海道・東北アール・ブリュット展	コミュニティギャラリー BC ワークショップ A	634
12/11-2/14	青森放送株式会社	蒼樹うめ展 in 青森	企画展示室 ABCDE、映像室	11,531
1/6-1/7	特定非営利活動法人グーズワークス	Tip Tap presents 「Play a Life」	シアター・映写室	280
1/29-2/22	AOMORI トリエンナーレ 2017 実行委員会 実行委員長 嶋中 克之	AOMORI トリエンナーレ	コミュニティギャラリー ABC	1,078
2/10-2/11	青森ブランド推進委員会 事務局長 橋本 恭男	青森ブランドフォーラム	ワークショップ AB、シアター	190
2/18	みちのく銀行男声合唱団事務局 神 達佳	みちのく銀行男声合唱団 合唱練習	シアター	10
3/2-3/4	JAGDA 青森 和久 尚史	グラフィックデザイナーの 1 年展	コミュニティギャラリー BC	300
3/2-3/4	小野 郁子	ダンス公演	シアター、映写室	220
3/4	JAGDA 青森 和久 尚史	グラフィックデザイナーの 1 年展 2017 講演会	コミュニティギャラリー A	60
3/9-3/11	株式会社田名部組	第 11 回建築家展	コミュニティギャラリー ABC	192
3/17-3/31	青森朝日放送株式会社	シンプルな正体 ディック・ブルーナのデザイン展	コミュニティギャラリー ABC	768

合計 27,088 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

設備：図書閲覧席 20席

開館日・開室時間：美術館開館日の 10:00 - 16:00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1-3を理解するために必要なもの、を購入および寄贈により収集した。

蔵書数（平成 29 年度 3 月末現在）

- ・美術図書 5,348 冊
 - ・デザイン・建築関係図書 460 冊
 - ・写真関係図書 479 冊
 - ・絵本・イラスト関係図書 1,135 冊
 - ・民俗・歴史関係図書 507 冊
 - ・音楽・映画・舞台関係図書 996 冊
 - ・展覧会カタログ 13,377 冊
 - ・その他（自然科学、文学など） 2,839 冊
 - ・雑誌（約 60 タイトル） 11,082 冊
 - ※継続購入は 17 タイトル
- 計 36,223 冊

サービス

図書資料閲覧

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：322 日

利用者数：3,467 人

レファレンス利用件数：14 件

平成 29 年度図書室利用実績

	開室日数(日)		入室者数(人)		レファレンス	
	月計	月計	1日平均	月計	1日平均	
4月	28	204	7.3	0	0.00	
5月	29	320	11.0	1	0.03	
6月	28	190	6.8	0	0.00	
7月	25	324	13.0	2	0.08	
8月	29	611	21.1	2	0.07	
9月	24	305	12.7	2	0.08	
10月	29	217	7.5	2	0.07	
11月	28	435	15.5	1	0.04	
12月	22	177	8.0	0	0.00	
1月	29	254	8.8	1	0.03	
2月	26	196	7.5	0	0.00	
3月	25	234	9.4	3	0.12	
計	322	3,467	10.8	14	0.04	

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。また、当館キッズルームで行ったおはなし会に所蔵絵本を活用した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、約600冊の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもり木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木やお絵かきを自由に楽しめる空間となっている。

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日 10:00 - 15:00

平成29年度キッズルーム利用実績

	開室日数(日)		入室者数(人)		
	月計	子ども	おとな	月計	平均
4月	11	69	63	132	12.0
5月	29	186	156	342	11.8
6月	28	95	74	169	6.0
7月	13	86	71	157	12.1
8月	29	287	241	528	18.2
9月	20	131	119	250	12.5
10月	29	111	94	205	7.1
11月	12	228	197	425	35.4
12月	8	47	46	93	11.6
1月	10	58	41	99	9.9
2月	9	58	44	102	11.3
3月	23	23	10	33	1.4
計	221	1,379	1,156	2,535	11.5

博物館実習

概要

博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2017年8月16日（水）－8月20日（日）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：12名

立命館大学（1名）、静岡文化芸術大学（1名）、秋田公立美術大学（2名）、聖徳大学（1名）、岩手大学（1名）、東北芸術工科大学（1名）、明治大学（1名）、弘前大学（4名）

プログラム

平成29年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第1日目 8月16日（水）

- ・オリエンテーション
- ・青森県立美術館の概要について
- ・学芸員の仕事について
- ・美術館のコレクション形成について
- ・地域に根ざした美術館の活動について
- ・実習日誌作成

第2日目 8月17日（木）

- ・美術館の教育普及活動について
- ・作品の保存・管理について
- ・来館者対応と美術館のホスピタリティーについて
- ・展示室での監視ポジションの紹介とふるまい方研究
- ・監視員ヘルプについてみる
- ・報告会
- ・実習日誌作成

第3日目 8月18日（金）

- ・美術館の施設およびサイン計画について
- ・作品の取扱いおよび調書作成（日本画、油彩画、立体、紙作品）
- ・展示会の運営および広報活動
- ・美術館におけるパフォーミングアーツ活動
- ・実習日誌作成

第4日目 8月19日（土）

- ・展示会の企画と実施1
- ・展示会の企画と実施2
- ・[演習] 展示会を企画してみよう1
－テーマ設定、作品リストの完成
- ・[演習] 展示会を企画してみよう2
－普及活動の検討（展示会関連イベント見学を含む）
- ・実習日誌作成

第5日目 8月20日（日）

- ・[演習] 展示会を企画してみよう3
－展示プラン作成
- ・[演習] 展示会を企画してみよう4
－展示上の留意点
- ・[演習] 企画した展示会を発表してみよう（発表＋講評）
- ・実習日誌作成

サポートシップ倶楽部

概要

青森県立美術館の活動に協力するとともに広く県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するために平成27年度（平成28年3月）に発足した任意団体。

会員の区分と年会費

一般会員

成人会員：3,000円、学生会員（高校生以上）：2,000円、法人会員：30,000円

特別会員（総会出席）

法人会員：一口100,000円

会員数（平成30年3月31日現在）

一般会員：成人会員92名、学生会員3名、法人会員2団体
特別会員：21法人（70口）

特典

会員への情報提供

一般会員

常設展観覧料無料観覧（法人会員は3名まで同時観覧可能）
企画展観覧料無料招待券配布のほか、いつでも団体料金で観覧可
ミュージアムショップ割引
カフェ割引
等

特別会員

企画展内覧会・レセプション招待
等

特別会員一覧

（公表を承諾した会員 50音順 平成30年3月31日現在）
青森朝日放送株式会社
株式会社青森銀行
学校法人青森田中学園
株式会社青森テレビ
青森トヨタ自動車株式会社
青森放送株式会社
株式会社城ヶ倉観光
津軽海峡フェリー株式会社
株式会社東奥日報社

東北化学薬品株式会社

トヨタL&F青森株式会社
株式会社トヨタレンタリース青森
ネットトヨタ青森株式会社
八戸酒造株式会社
株式会社弘前公益社
株式会社みちのく銀行
吉田産業協同組合

平成29年度事業報告

1 美術館活動への支援事業

(1) 美術品購入及び寄贈

小島一郎写真作品10点を購入し、青森県立美術館へ寄贈した。

(2) 美術資料の充実

美術品寄付のための積み立て。

(3) 美術館ファンの拡大

一般会員の会員特典（観覧料無料）をアピールし、観覧者数の増加を図った。延べ観覧者数488名。

2 県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するための事業

(1) 企画展関連の講演会・ワークショップ等への協賛等

① 「ラブラブショー2」展関連事業への協賛

○ 「竹本真紀ワークショップ：みんなでアモリーノちゃんを完成させよう」

平成29年4月22日（土）・23日（日）

各10:00 - 12:00、13:00 - 15:00

青森県立美術館ワークショップB

○ 「柴田聡子ラブラブライブ：青森←→東京：青森編」

平成29年4月28日（金）・29日（土・祝）

青森県立美術館シアター他

○ 「榎忠：祝砲パフォーマンス」

平成29年4月29日（土・祝）13:00 - 13:30

青森県立美術館エントランス前広場

○ 「岡本光博トークショー」

平成29年6月24日（土）14:00 - 15:00

青森県立美術館企画展示室

② 「遙かなるルネサンス」展関連事業への協賛

○ 「ミュージアムコンサート『天正遣欧少年使節の音楽』」

平成29年8月29日（火）16:30 - 17:30

青森県立美術館企画展示室C

出演者：つのだたかし（リュート）、伊藤美恵（バロック

ハーブ)、藤井あや(ソプラノ)

③「日本と青森の近代洋画史」展関連事業への協賛

- 「講演会『北東北美術 三県三様の近代』」
平成29年10月15日(日) 14:00 - 15:30
青森県立美術館シアター

講師:美術評論家 原田 光

- 「油絵体験ワークショップ」
平成29年10月21日(土) 10:00 - 12:00
青森県立美術館ワークショップA

④「平成29年度おはなしフェスタ」事業の共催

- 「秋のおはなし美術館2017」
平成29年11月3日(金・祝)・4日(土)
青森県立美術館シアター他
出演:青森県内全域の読み聞かせ団体・昔語り団体

⑤「シャガール-三次元の世界」展関連事業への協賛

- 「『アレコ』特別鑑賞プログラム」
平成30年3月10日(土) - 5月6日(日)
会期中毎日4回(10:30 - 12:00 - 13:30 - 15:00 -)
青森県立美術館アレコホール
- 「記念講演会『シャガールと三次元の世界との出会い-劇場の仕事を通じて』」
平成30年3月10日(土) 14:00 - 15:30
青森県立美術館シアター
講師:美術史家 ベラ・メイヤー(マルク・シャガールの孫)

第2号議案 平成28年度収支決算の件

第3号議案 平成29年度事業計画(案)の件

第4号議案 平成29年度収支予算(案)の件

第5号議案 規約の一部改正(案)の件

(3) 第2回理事会

①日時 平成29年12月5日(火) 10:25 - 10:55

②場所 ラ・プラス青い森3階 プリムラ

③議事 報告事項 平成29年度事業中間報告について
その他 今後の作品購入及び寄贈について

(2) 視察研修(参加者24名)

研修視察ツアー

~弘前市立博物館と津軽こぎん刺し& BUNACOをたずねて~
平成30年2月10日(土) 9:00 - 17:00

- ①開館40周年となる弘前市立博物館で企画展4「おひめさまとおひなさま~華麗なままごと遊び~」を学芸員の解説とともに観覧。
- ②国の登録有形文化財に登録されている「弘前こぎん研究所」(建築設計:前川國男)を成田社長の解説により見学。
- ③旧西目屋小学校をリニューアルした、ブナコ西目屋工場をガイドの解説付きで見学。

3 理事会及び総会の開催について

(1) 第1回理事会

- ①日時 平成29年5月24日(水) 10:00 - 10:20
- ②場所 青森国際ホテル5階 芙蓉の間
- ③議事 第1号議案 平成28年度事業報告の件
第2号議案 平成28年度収支決算の件
第3号議案 平成29年度事業計画(案)の件
第4号議案 平成29年度収支予算(案)の件
第5号議案 規約の一部改正(案)の件

(2) 第1回総会

- ①日時 平成29年5月24日(水) 11:00 - 11:20
- ②場所 青森国際ホテル5階 芙蓉の間
- ③議事 第1号議案 平成28年度事業報告の件

資料

広報

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広報

県の広報媒体を活用した広報活動や、Twitter・Facebook等のソーシャルメディアネットワークによる活動を展開した。

(1) 県広報による実績

- ・ ABA 「メッセージ」
- ・ 青森放送 (RAB ラジオ) 「県広報タイム」
- ・ エフエム青森 「あおもり・ふぁん」
- ・ 東奥日報、デーリー東北、陸奥新報 「広報あおもりけん」
- ・ 県民だよりあおもり
- ・ 県庁ホームページアイキャッチ

(2) ソーシャルメディアネットワーク

- ・ Twitter
アカウント：aomori_museum_of_art@aomorikenbi
- ・ Facebook
アカウント：https://www.facebook.com/aomori.museum
- ・ Youtube
アカウント：http://www.youtube.com/user/aomorikenbi

(3) ホームページ

URL：http://www.aomori-museum.jp (PC版)
http://www.aomori-museum.jp/ja_mobile (モバイル版)
年間アクセス数 (2017.4 - 2018.3)：463,393 件

(4) 雑誌等掲載実績 (主なもの、順不同)

- ・ 美術手帖
- ・ rakra
- ・ まっぷる
- ・ るるぶ
- ・ ことりっぶ
- ・ C a s a B R U T U S
- ・ 大人の休日倶楽部
- ・ 小学館コミック
- ・ Pen 2017
- ・ arch
- ・ SODA
- ・ 美術展びあ 2017 - 2018 秋冬
- ・ 月刊ブレーン
- ・ 地球村生活日語 (地球村出版社)
- ・ Art Collectors' july 2017
- ・ 美術の窓
- ・ ピープス函館
- ・ WEB 今見られる全国のおすすめ展覧会
- ・ 和楽 ほか多数

広聴

青森県立美術館アドバイザー・ボード

青森県立美術館のより良い運営を推進するため、青森県立美術館の運営に関して専門的及び県民の立場から必要な助言等を行う第三者委員会を設置。

アドバイザー（順不同）

座長 建 畠 哲（全国美術館会議会長・多摩美術大学学長・
埼玉県立近代美術館館長）

三上 満良（宮城県美術館副館長）

山田 泰子（八戸市美術館館長）

蜷川 有紀（美術家・女優）

三澤 一実（武蔵野美術大学教授）

大嶋 憲通（株式会社リンクステーション代表取締役
社長）

花田 玲子（県民代表）

松下 三恵（県民代表）

会議開催状況

第1回

開催日：2016年3月19日（土）

会場：青森県立美術館

第2回

開催日：2017年2月9日（木）

会場：青森県立美術館

第3回

開催日：2018年3月12日（月）

会場：青森県立美術館

入館者数

(単位：人)

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度①	29年度②	増減(②-①)
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	233,192	141,904	177,266	179,793	73,541	137,198	92,714	125,342	32,628
	スクールプログラム	12,685	6,968	6,668	9,098	11,574	6,777	5,798	3,712	3,845	3,530	3,295	2,448	△ 847
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	244,766	148,681	183,064	183,505	77,386	140,728	96,009	127,790	31,781
企画展	シャガール展	192,918												
	縄文と現代展	14,894												
	工藤甲人展	1,680	10,950											
	旅順博物館展		30,065											
	舞台芸術の世界展		6,282											
	棟方志功・崔榮林展		4,156											
	寺山修司展			9,533										
	大ナボレオン展			46,609										
	小島一郎展			8,660										
	ウィーン展				36,884									
	(特別展 太宰治と美術展)				(23,191)									
	馬場のぼる展				25,464									
	ラブラブショー				5,160									
	ローマ展					45,622								
	ロボット展					25,076								
	芸術の青森展					3,530								
	印象派展						105,758							
	今和次郎展						4,807							
	フィンランド展								31,876					
	Art and Air 展								18,267					
	奈良美智展								80,275					
	種差展									16,807				
	横尾忠則展									10,516				
	日本の民家展									5,115				
	工藤哲巳展										5,056			
	美少女展										33,866			
	関野準一郎展										8,158			
	成田亨展											18,257		
	化け物展											32,984		
	「青森EARTH2015 みちの奥へ」展示											3,022		
	棟方志功展												17,427	
	日展												19,094	
青森EARTH2016 根と路												11,190		
澤田教一展												10,195		
ラブラブショー2展													10,962	
遙かなるルネサンス展													40,188	
近代洋画展													6,762	
シャガール-三次元の世界展													4,057	
	企画展計	209,492	51,453	64,802	67,508	74,228	110,565	130,418	32,438	47,080	54,263	57,906	61,969	4,063
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	7,087	7,272	7,368	6,310	5,792	3,974	4,065	4,158	2,687	△ 1,471
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	718	11,763	2,565	2,744	1,575	557	96	851	755
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	1,119	537	1,250	1,022	1,245	383				0
	展示関係プログラム			625	1,526	7,546	930	909	1,738	932	757	1,688	482	△ 1,206
	その他	500		464	266	399	387	351	136	440	393	411	1,161	750
	教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	16,472	21,698	11,157	11,655	7,304	5,772	6,353	5,181	△ 1,172
パフォーミング・アート	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	1,085	2,962	3,468	5,255	2,258	2,140	2,163	3,054	891
	ダンス			1,419	1,089	520			339	699	662	490	632	142
	音楽	1,559	471	1,583	1,959	970	979	1,133	810	469	479	469	428	△ 41
	映画	975	1,954	1,584	685				240	991	503	1,024	818	△ 206
	パフォーミング・アート計	4,704	4,246	6,102	5,066	2,575	3,941	4,601	6,644	4,417	3,784	4,146	4,932	786
貸館		10,268	26,481	194,807	104,625	144,520	20,735	33,410	126,284	26,192	71,045	58,931	28,185	△ 30,746
図書館		2,552	7,727	12,910	10,012	7,864	6,561	10,688	6,818	4,662	4,307	6,557	3,467	△ 3,090
キッズルーム			2,850	3,690	3,127	3,555	20,501	15,889	4,267	2,602	3,118	3,545	2,738	△ 807
	合計	455,973	202,594	412,914	400,992	493,980	332,682	389,227	371,611	169,643	283,017	233,447	234,262	815

※ キッズルームは平成19年4月28日からオープン

※ 特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

運営予算・決算

平成 29 年度 一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	44,839	使用料及び手数料	168,899	職員費	人件費
	0	国庫支出金			
	120	財産収入	435,199	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	69,504	繰入金			
	82,553	諸収入			
	421,792	一般財源	14,710	公園管理費	三内丸山遺跡等管理費、青森県総合運動公園管理費
合計	618,808		618,808		

平成 29 年度 一般会計決算額

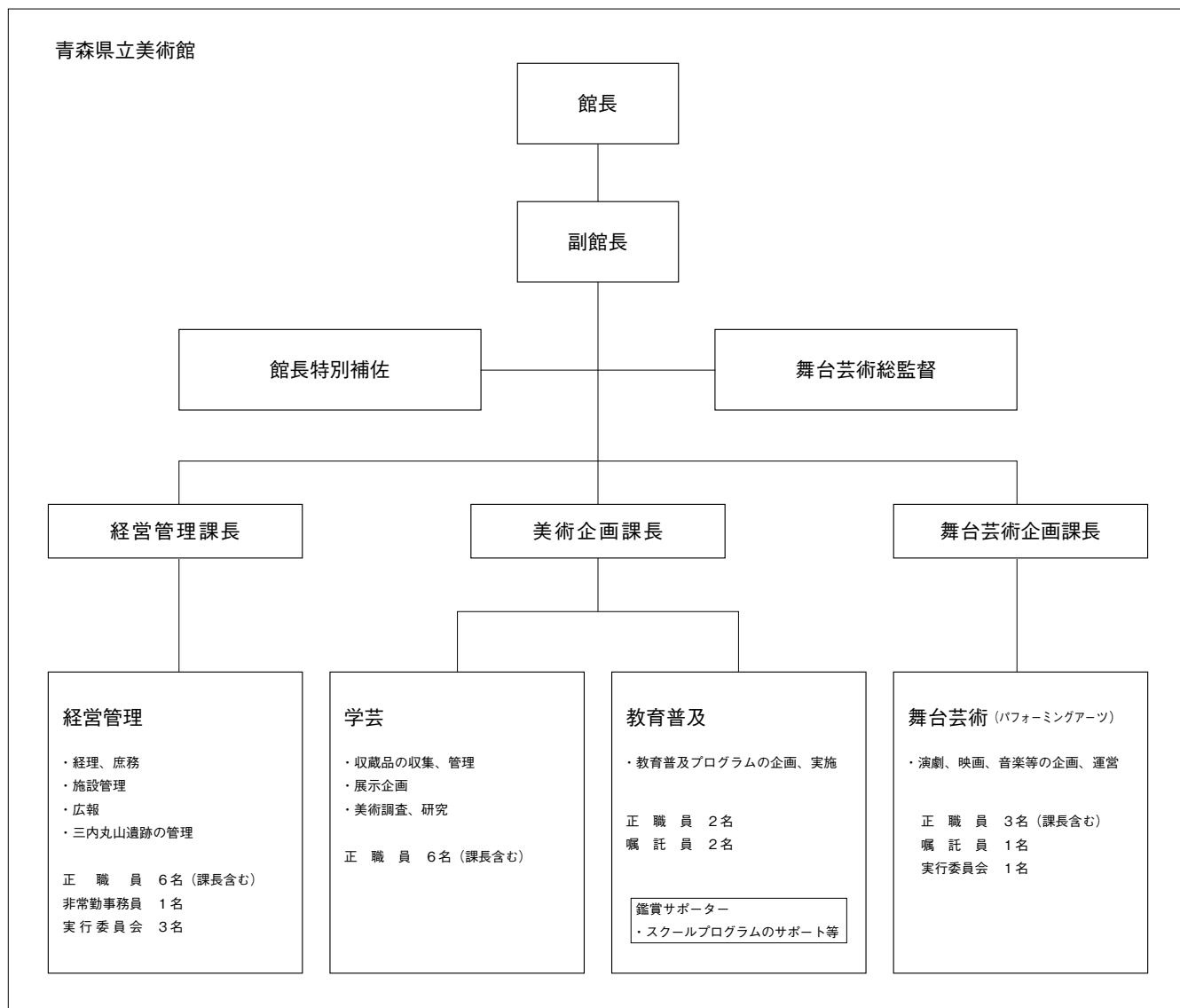
(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	43,656	使用料及び手数料	164,599	職員費	人件費
	4,397	国庫支出金			
	119	財産収入	431,054	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	69,503	繰入金			
	82,371	諸収入			
	410,270	一般財源	14,663	公園管理費	三内丸山遺跡等管理費、青森県総合運動公園管理費
合計	610,316		610,316		

組織

- 県立美術館の運営は、アドバイザー・ボードからの助言を得ながら行っている。
 - 館長、県職員（非常勤含む）20人、嘱託員3人の計24人が美術館運営にあっている。
- このほか、企画展実行委員会職員3名、パフォーミングアーツ実行委員会職員1名が配置されている。

(平成29年4月1日現在)



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則 この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から 十二時まで	十三時から 十七時まで	九時三十分以前、 十二時から十三時 まで及び十七時以降
コミュニティギャラリーA	二千三百十円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千元	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百円
ワークショップB	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の副館長（以下「副館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二月曜日及び第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日にあたるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 副館長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外の日に休館することができる。

（使用の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該使用の承認を受けた者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 副館長は、美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

附則

1 この規則は、平成二十七年四月一日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、副館長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を副館長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 副館長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特別支援学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を副館長に提出しなければならない。

3 副館長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 副館長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となって、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として副館長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 副館長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を副館長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 副館長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 副館長は、別に定めるところにより美術資料の寄託又

は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 副館長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を副館長に提出しなければならない。

附則

この規定は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

この規定は、平成21年1月19日から施行する。

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

青森県立美術館アドバイザー・ボード設置要綱

（設 置）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）のより良い運営を推進するため、青森県立美術館アドバイザー・ボード（以下「アドバイザー・ボード」という。）を設置する。

（所 掌）

第2 アドバイザー・ボードは、美術館の運営に関して必要な助言等を行う。

（構 成）

第3 アドバイザー・ボードは、8名以内のアドバイザーをもって組織する。

2 アドバイザーは、学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

3 アドバイザー・ボードに座長を置き、アドバイザーの互選により選出する。

4 アドバイザーに欠員を生じた場合の補欠のアドバイザーの任期は、前任者の残任期間とする。

（任 期）

第4 アドバイザーの任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（会 議）

第5 アドバイザー・ボードは、青森県立美術館長が招集する。

2 アドバイザー・ボードの議長は、座長が務める。

3 座長に事故があるときは、座長が指示するアドバイザーがその職務を代理する。

（庶 務）

第6 アドバイザー・ボードの庶務は、美術館において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、アドバイザー・ボードの運営に関し必要な事項は、美術館が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年8月20日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称 青森県立美術館
所在地 青森市大字安田字近野 185
主用途 美術館
事業主体 青森県
設計管理 青木淳建築計画事務所
構造 金箱構造設計事務所
設備 森村設計
音響 永田音響設計
土系素材 I N A X
施工 竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体
強電 きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体
弱電 奈良・高田特定建設工事共同企業体
空調 高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体
衛生 芝管・五戸特定建設工事共同企業体
昇降機 三菱電機株式会社
面積 敷地面積：129,536.37㎡
 建築面積：7,223.07㎡
 延床面積：21,222.19㎡
 地下2階：4,736.15㎡
 地下1階：3,965.11㎡
 1階：5,339.02㎡
 2階：2,403.81㎡
 3階（機械エリア）：4,778.10㎡
建ぺい率：5.58%
容積率：16.38%
階数 地下2階 地上3階
寸法 最高高：16,160 mm
 軒高：15,150 mm
 階高：地下2階 2,300 - 19,000 mm
 地下1階 2,500 - 7,500 mm
 1階 2,700 - 11,000 mm
 2階 2,500 - 4,000 mm
主なスパン：3,000 mm × 3,000 mm
地域・地区 都市計画区域内 市街化区域
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造（地下1・2階）
 鉄骨造（地上1-3階）
杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600φ・700φ、
 （PHC 杭）600φ

空調設備 A H U ・定風量単一ダクト方式、一部 F C U、空
 冷パッケージ方式
熱源：冷温水発生機（320USRt、280USRt）、加
 湿用蒸気ボイラ、空冷チラー（87USRt）
照明設備 スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線
 カット付）
消火設備 屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒素）
 消火、加圧式粉末 ABC 消火器
設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、
 スプリンクラー設備（開放型、予作動
 型）、窒素ガス消火設備（一部展示室、
 収蔵庫、熱源機械室）
排煙設備 機械排煙設備（3系統）
防犯設備 開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内
 に監視員を置く。展示室内には監視カメラを設置
 し、監視室にて監視。
衛生設備 給水：受水槽（42 t）+加圧給水ポンプユニッ
 ト方式
給湯：局所式（電気温水器）、ガス湯沸器（厨房）
排水：ポンプアップ排水
電気設備 受電方式：高圧電力3φ3W 6,600V 1回線受電
 （業務用電力+融雪電力）
設備容量：2,650 kVA
契約電力：660 kW
予備電源：非常用発電設備 500 kVA、直流電源設
 備（非常照明用）
設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設備、
 動力設備、電灯設備、展示調光設備、
 避雷設備、外構設備、電話設備、情報
 設備、インターホン設備、誘導支援設
 備、テレビ共同受信設備、監視カメラ
 設備、機械警備設備、放送設備、中央
 監視設備、外構設備、演出照明設備（シ
 アター、スタジオ）、演出音響設備、映
 写設備（シアター）
昇降機 荷物用エレベータ1台 乗用エレベータ8台
設計期間 1999年12月-2002年3月
施工期間 2002年12月-2005年9月
外部仕上げ 屋根：ウレタン塗膜防水
 外壁：煉瓦+アクリルシリコン塗装
 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ
内部仕上げ 展示室（白）

床：カラーモルタル金こて押え t = 20 mm + 防塵
防汚塗装

壁：合板 t = 15 mm × 2 + プラスターボード t = 12
mm + 全面寒冷紗バテ処理 + EP

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

展示室（土）

床：タタキ t = 50 mm

壁：版築 t = 200 mm

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

コミュニティホール

床：クリフローリング t = 15 mm

壁：プラスターボード 12 mm × 2 + スタッコ

天井：人工木材ローズウッド練り付け

シアター

床：フェルト t = 8 mm + カーペット t = 7 mm

壁：プラスターボード t = 15 mm + グラスウール
ボード + エキスパンダメタル t = 6 mm（樹
脂コーティング処理）

天井：グラスウール + プラスターボード t = 15 mm
+ エキスパンダメタル t = 6 mm（樹脂コー
ティング処理）

オフィス

床：システム根太ユニット 600 mm × 600 mm +
コンパネ t = 12 mm + クリフローリング t =
15 mm

壁：プラスターボード t = 12 mm × 2 + EP

天井：プラスターボード t = 12 mm + 吸音板 t = 12
mm + EP

アクセス

- JR新青森駅から車で約10分
- 青森駅から車で約20分
- 青森空港から車で約20分
- 東北縦貫自動車道青森I.C. から車で約5分
- (八戸方面から) 青森自動車道青森中央I.C.から車で約10分
- 市営バス 青森駅前6番バス停から運転免許センター行き「県立美術館前」下車(所要時間約20分)
- ルートバスねぶたん号新青森駅東口バス停から乗車「県立美術館前」下車(所要時間約10分)



青森県立美術館年報

平成29年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野 185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2019年1月